312.22
Ty.9965

0005287000

0005287-000

３１２．２２－Ｔｙ９９６５ｋ

抗日人民戦線運動の展望

中国資料月報社

１９３６

ABC　AB-0461

312.22
Ty 9965

抗日人民戰線運動の展望

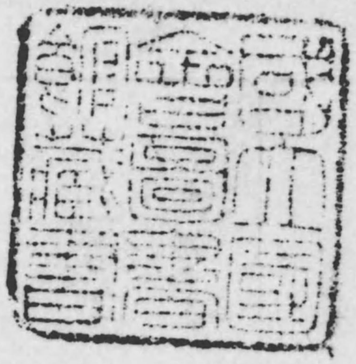
東京都千代田区丸ノ内二ノ八(仲十二号館六号四一二番)
芳澤中國記念事業財團
電話(28)四一〇八番

昭和十一年九月

抗日人民戰線運動の展望

中國資料月報臨時號

312.22
Ty9965h



国立国会
35. 3. -1
図書館

513799

序

中國の抗日共同戰線運動は北支自治運動、密輸の影響、西南派の抗日主張などによつて俄然白熱化し急速に發展しつつある。抗日共同戰線運動の發展過程は「反日」「抗日」「復仇」の三標語を通じて三つの段階に分たれる——「九一八」事變前の數年間を第一段階となし、この段階の抗日共同戰線運動は「反日」の標語の下に一般大衆の對日經濟ボイコットの形態をもつて自然發生的に行はれた。第二の段階は「九一八」事變より「上海事變」を經て滿事變に至る時期であるが、この時期における抗日共同戰線運動の特徴は「抗日」の標語が示す通り大衆と一部武裝勢力の結合による武力鬪爭の形態をもつて遂行されたことである。第三の段階——即ち目前の段階は「復仇」の標語が示す通り、復仇意識に燃える全民族の抗日人民戰線を基礎とする計畫的鬪爭の時期である。二大政黨たる國民黨と共產黨とは漸進と急進の主張の差こそあれ、均しく復仇の意識に燃え「復仇」に關する諸般の準備をなしつつあることに變りはない。即ち「抗日」の前には主觀的にも客觀的にも完全に聯合戰線を結成してゐる。かくの如く中國の人民戰線はヨーロッパ諸國の人民戰線と性質を異にし專ら抗日を目的として日本以外の列强に對する反帝運動乃至國內フアッショに對する反對鬪爭を極力回避してゐる。即ち「抗日」のためには、國內における對立鬪爭を完全に避けて、全民族結束の下に復仇の目的を貫徹せんと欲してゐる。從つて中國の人民戰線運動は日本において最も重大なる關心事であらねばならないが、未だ一般的にこの重大問題に對する認識が不足してゐる感がある。頻發する抗日テロ事件の裏には如何なる運動が行はれてゐるであらうか？この小冊子がいさゝかたりともこれに解答を與へることができれば望外の喜びである。

昭和十一年九月

編者

目次

第一篇　中國共産黨と抗日人民戰線

第一章　コミンテルン第七次大會と中國共産黨……（一）
第二章　中共中央、中國ソヴエート政府の抗日救國宣言……（六）
第三章　戰術轉換の動機と條件……（一七）
第四章　中共中央政治局の「一二、一二五決議」……（三三）
第五章　中國ソヴエートの新政策に對する批判……（六〇）
第六章　中國共産軍の現狀……（八一）

第二篇　抗日人民戰線運動の發展

第一章　抗日人民戰線の主張と政策……（一〇〇）

第二章　全國各界救國聯合會……（一二一）
第三章　上海各界救國聯合會の活動狀況……（一三一）
一、上海文化界救國會……（一三六）
二、上海著作人協會……（一三九）
三、國難教育社……（一四七）
四、上海婦女界救國會……（一五三）
第四章　全國學生救國聯合會……（一六四）

第一篇　中國共産黨と抗日人民戰線

第一章　コミンテルン第七次大會と中國共産黨

中國共産黨の駐露代表としてコミンテルンの樞機に參劃してゐる王明こと陳紹禹は昨年八月九日、莫斯科で開催中のコミンテルン第七次世界大會において「植民地、半植民地諸國における革命運動並びに共産黨の戰術」について演說し、先づ植民地、半植民地における最近の政治、經濟情勢を分析してから左の如く强調した。

「全聯邦共産黨第十六次大會における同志スターリンの演說および現在のコミンテルン第七次大會によつて與へられた世界情勢の評價――『革命的危機が成熟したし、また成熟するであらう』『資本主義世界は資本主義の對內的對外的對立激化の結果として尖銳なる衝突期に立ち到つた』といふ評價は、現下の國際情勢、特に植民地における情勢と悉く完全に照應してゐる……『植民地、半植民地の巨大な世界は革命の消えざる燈となつた』『今や植民地諸國は國際帝國主義にとつてその戰線の極めて危險な區域である』といふコミンテルン第六次大會の特徵づけは今日では疑もなく、更に一層確信的な根底あるものとなつた。」

半植民地から植民地に轉化しつつある中國――その廣闊な領土と四億の人口は、國内政治經濟の動搖を克服せんとする帝國主義列强の最後の攻撃對象であるとともに、これら列强に對する脅威と反對鬪爭の消えざる旗となつた。

「植民地、半植民地ではその内外情勢が變化したので反帝統一戰線の問題は特に重大である」（コミンテルン第七次大會におけるヂミトロフの報告）「中國では、ソヴエート運動の擴大と紅軍戰鬪力の鞏化とは、全支における反帝人民運動の展開と結びつけねばならぬ。この運動は帝國主義とその中國人走狗に對する武裝人民の民族革命戰爭といふスローガンの下に實施されねばならぬ」（前記報告に基づくコミンテルンの決議）さうだ！半植民地中國における反帝統一戰線の問題、およびこの戰線を基礎とする中國民族の對日武裝抵抗の問題は、日ソ關係が變化したのでソヴエート聯邦およびコミンテルンにとつて特に重要である。故に、「中國ソヴエートは全中國民族の解放鬪爭における團結中心とならねばならぬ」（前揭決議）

全世界の異常な關心と注視の中に昨年七月二十五日より八月二十日まで約一ケ月にわたつて世界革命の心臟部莫斯科で盛大に開催されたコミンテルン第七次大會は「帝國主義戰爭反對、平和のため、ソ聯擁護のための鬪爭の大會」（コミンテルン執行委員會書記局員マヌイルスキーの報告）であり、世界勞働運動史上、新紀

元を劃すべき統一戰線の戰術を確立するに至つたが、「民族解放のための鬪爭と民族解放戰爭に對する支援」に關しては、エルコリの報告に基づき左の如く決議した。

「例へばポーランド分割の際の如く歷史上行はれた或る弱小國家が、國家的獨立と統一を消滅し又はその國の分割を實施せんと欲する一國或ひは數國の强大な帝國主義國家の攻撃を受けた場合、かゝる攻撃に對する弱小國家の民族ブルジョアの戰爭は、その國の勞働階級と共産主義者とが妨害するを得ざる解放戰爭の性質を帶びるであらう。かゝる國家の共産主義者の任務は、勞働者、勤勞農民および少數民族の政治的經濟的地位を確保するため斷乎として鬪爭すると同時に、「自國」のブルジョアが故國の利益を侵略國に賣渡すことを防ぎ、國家獨立のための鬪爭の第一線に立つて最後まで解放戰爭を行ふことである。

共産主義者は抑壓された植民地、半植民地人民の民族解放鬪爭、なかんづく日本その他の帝國主義者と國民黨に對する中國ソヴエート紅軍の鬪爭を支援すべきである。中國共産黨は、民族解放鬪爭の戰線を擴大し、日本および列强の强盜的進攻に抵抗せんとする全ての民族力をこの戰線に誘致するため全力を以て當らねばならぬ」

なほコミンテルン書記長ヂミトロフは一九三五年八月二日の報告演說において「反帝統一戰線」に言及せる際、左の如く中國共産黨の抗日鬪爭を强調した。

「中國では、民族運動はすでに廣大な一部領土におけるソヴエート區域建設と强力な紅軍の建設を齎したが、日本帝國主義の强姦的進攻と南京政府の裏切りとは、大中華民族の國民的生活を脅威せしむるに至つた。たゞ中國ソヴエートのみが、帝國主義者による中國分割と奴隷化に對する鬪爭の團結中心として、中華民族解放のためあらゆる反帝勢力を結集せしめ得る團結中心として進出できるのである。故にわれ等は、救國救民のための鬪爭を準備せる中國の凡ゆる組織勢力を糾合し、日本帝國主義とその走狗に對する鬪爭を任務とする最廣汎な反帝統一戰線を結成せんとする英雄的友黨中國共產黨の創意に贊同する。

われ等は、無數の戰鬪に鍛へられた英雄的中國紅軍に熱烈な兄弟的挨拶を送る。しかしてわれ等は凡ゆる帝國主義的掠奪者とその支那人走狗から中國民族を完全に解放せんとする鬪爭に固き支援を與へるであらうことを中國民族に保證する。」

コミンテルン第七次大會の諸決議並びにこの新方針に基づく各國共產黨の活動は、世界の政治情勢に多大の變化を與へつゝあり、フランスとスペインでは人民戰線の政府が出現するに至つたが、コミンテルンが特に重大視するとともに「固き支援」を與へてゐる中國では如何なる變化が發生したであらうか？

因みに中國共產黨員にしてコミンテルン役員に選擧されたものは陳紹禹の執行委員會幹部會員兼書記局員候補を筆頭として康生（李立三）の執行委員候補兼幹部會員候補、蔡和森の監察委員、毛澤東、張國燾、

周恩來、陳紹禹の執行委員、博古の執行委員候補などであり、右のうち、陳紹禹、李立三、蔡和森の三名は莫斯科にあつてコミンテルンの極東赤化工作に直接參劃し、殊に陳紹禹は中國共產黨の今次戰術轉換の最高指導者として有名であるのみならず、中國を除く植民地、半植民地における革命運動指導者としても重要役割を演じてゐる。

これら在莫斯科赤色分子と中國共產黨との間に介在する在外中國人の赤色團體としては、ドイツに旅德華僑抗日救國聯合會、民族武裝自衛委員會、中國問題討論會、無名攝影會、兩廣同鄉會、自然科學社柏林分社などの外廓團體があり、フランスに巴黎抗日救國聯合會、巴黎中國書報社、巴黎中國學生會、中國問題討論會、巴黎政治大學同學會などがあり、フランスにおける人民戰線內閣の成立と同時に公然と國際的反日宣傳を開始してをり、これら赤色團體はコミンテルンが直接出版する華文機關紙救國時報、全民月刊のほか中國出路、熱血救亡、蹶起、抗聯、大道、國際文學、中國新聞など進步的新聞雜誌を發行し、各種の方法により國內に送り屆けてゐるが、これら團體の實際の操縱者はドイツでは黃洪翔、劉光德、關自述、王深林、フランスでは蕭淑晉、壽峰、何黎緒、儒子聲、何德鶴、陳貫、王平、沈其蕃、王海鏡、李鴻一、吳吉人、單子文、王修德、宋仰山、李俊昌など何れも札附きの人物のみである。

第二章　中共中央、中國ソヴエート政府の抗日救國宣言

中國ソヴエート政府と中國共產黨中央とは昨年八月一日附をもつて有名な「爲抗日救國告全體同胞書」を發表した。この檄文は中國共產運動の趨向を決定する最も重要な歷史的文件であり、抗日救國共同鬪爭を基礎として最も廣汎なる反帝統一戰線を結成せんとする中國共產黨の新政策適用の第一步である。

「國內外工農軍政商學各界の男女同胞たち！

日本帝國主義の對支進攻の新たなる强化、南京賣國政府の一步々々的投降によつて、わが北支各省は東北四省に繼いで事實上すでにわが國から切り離された。

數千年の歷史、文化を有する平津、無限の富限を有する河北、山西、山東、最も重要な作戰的意義を有する察哈爾、綏遠區域、國家の凡ゆる政治經濟中心を結びつける北寧、平津、津浦、平綏の各鐵道は今や事實上、完全に日本軍人の武力統制下にあり、關東軍司令部はその予定計劃たる新謂「蒙古國」「華北國」の建設を精力的に實施しつつある。民國二十年の滿洲事變後四年を出でざるに日本軍人の中國重要區域の分割占領は何んと速やかに行はれたではないか……東三省の後には熱河、熱河の後には長城要塞と山海關、山海關の後には長城の戰略的地點たる所謂「灤東非戰區」「灤東非戰區」の後には河北、察哈爾、綏遠等各省

の日本軍事勢力による事實上の占領——斯くてわが國領土の約半分は××帝國主義によつて進犯されるか事實上占領されるに至つた。田中義一男の上奏せる國家としての中國を完全に滅亡せしめんとの計劃は系統的に實施されつつあり、斯かる事態が今後とも續くならば、長江、珠江流域その他に位置する爾餘のわが領土とても××帝國主義强盜によつて漸次占領されるであらうこと明らかである。かくて世界最古の五千年の文化を有するわが老國は完全に植民地となり、世界最大のわが四億同胞は完全に植民地奴隸となるであらう。

近來、わが國家、わが民族は千鈞一髮の生死關頭にあり、斯くて問題は嚴然として提起されるに至つた——抗日ならば生き、不抗日ならば死し、抗日救國のための鬪爭はすでに各同胞の神聖なる天職となつた。しかし不幸にもわれら偉大なる民族中に破廉恥なる人面獸心の徒が存在するのだ。即ち蔣介石、汪精衛張學良等の賣國賊、黃郛、楊永泰、王揖唐、張群等の札付き漢奸はこの數年間、「不抵抗」政策を採つてわが領土を次々に賣渡し、「逆來順受」の主張の下に一切の日本の要求を承認し、「攘外必先安內」の逆宣傳を以て掩蔽して同民族に對する流血の戰爭をなし、一切の反帝運動を鎭壓し、「十年生聚」「十年敎養」「準備復仇」等の欺瞞的スローガンを以て人民の抗日救國運動を制止し「萬事は第二次世界大戰が起つてからのことだ」との狡計を以てわが國人をして坐して亡ぶを待たしめんとしてゐる。而して最近、これら漢奸賣

國賊共が、「中日親善」「中日合作」「大亞細亞主義」等のスローガンの下に實施しつつある露骨無恥なる降日賣國政策は正しく古今中外に未だ曾つてなき奇聞である。

××人强盜は于學忠、宋哲元等の軍隊の北支撤退を要求し、これら軍隊は直ちに令を奉じて內戰實行のために或ひは南下し或ひは西に向つて進發した。××人强盜は多くの軍政長官更迭を要求し、彼らに指名されたものは直ちに罷免せられた。××人强盜は河北省政府の天津よりの移轉を要求し、省政府全機關は直ちに保定に移轉した。

××人强盜は彼らに不利な新聞雜誌の封鎖發禁を要求し、彼らの指名せる新聞雜誌は直ちに發禁、封鎖處分に附された。××人强盜は彼らに不利なる、「新生」始め他の新聞雜誌の記者、通信員の逮捕、處罰を要求し、「新生」主筆を始め多くの通信員が直ちに逮捕、拘禁された。××人强盜は華人學校に於ける奴隷的親日的教育の實施を要求し、凡ゆる進步的書籍は直ち燒却せられ、異國の奴隷たるを欲せざる多くの廉直なる青年男女が逮捕され、その大部分は銃殺された。××人强盜は凡ゆる國家機關に日本人顧問を招聘せよと要求し、直ちに日本人密偵が南京政府の軍政機關、金融機關に招聘された。甚しきに至つては國民黨々部の解散さへも要求し、北支、厦門等の地方黨部は直ちに命を奉じて解散された。××人强盜は藍衣社組織の解散を要求し、藍衣社北方の領袖曾擴情、蔣孝先等は風を喰つて逃げ出した。

中國蘇維埃政府こ共產黨は××帝國主義と漢奸賣國賊のわが國に對する斯かる行動は中華民族無上の恥辱であると認める。蘇維埃政府と共產黨は全責任を以て言明する——

われらは××帝國主義のわが國に對する一切の領土侵略、一切の內政干涉に對して嚴重抗議するのみならず、國民黨々部と藍衣社組織の解散要求に對しても嚴重抗議する。蘇維埃政府と共產黨は、一切の中國人の事は中國人自身によつて解決されねばならぬとの見解を持つてゐるからだ。故に國民黨と藍衣社がわが國、わが民族に對して枚擧し盡き罪惡を犯し來つたとは云へ、これが存廢の問題はわれら自身の、且つ中國人の事であつて、××帝國主義は何ら容喙すべき權利を持たない。

領土は一省また一省と人の占領するところとなり、人民は千萬また千萬と人の奴隷化するところなり城村は一處また一處と人の血を以て洗ふところとなり、僑胞は一群また一群と人の驅逐するところとなり一切の內政外交が悉く人の干涉するところとなつてゐる。これでも國家と言へるか？これでも民族と言へるか？

同胞たち！中國はわれらの祖國である。中國民族とは——即ちわれら全同胞である。われらは國が亡び民族が滅するのを坐視できやうか？救國自救のために起たずにゐられやうか？

否、斷じて否だ。見よ、エチオピヤは僅か千二百萬の人口を有する國家でありながら全力を擧げて伊太

利帝國主義に對する英雄的武裝反抗を準備し自己の領土と人民を擁護せんとしてゐる。四億萬の人口を有するわが中國が、どうして手を拱ねて自己の滅亡を待ち得やうぞ！蘇維埃政府と共產黨は深く信ずる——李完用、鄭孝胥、張景惠、溥儀等の第二世となつて憧面もなく仇に任へんとする極めて少數の漢奸賣國賊を除けば、わが絕對大多數の工農軍政商學各界同胞は決して日本人の牛馬となり奴隸となることに甘んじないであらう。蘇維埃政府はとうの昔に對日民族防衛戰爭を宣佈した。中國紅軍は抗日救國のための共同武力鬪爭に關し一再ならず凡ゆる軍隊に對して提議した。紅軍の北上抗日先遣隊は北支への通路打開のため不屈且つ艱難な鬪爭をなした。十九路軍は人民大衆とともに英勇的淚灑血戰をなした。

わが部隊は大衆とともに察哈爾、長城、灤東において日本の侵略に對する獻身的武力抵抗を試みた。福建人民政府は××帝國主義者とその走狗——蔣介石に對する共同鬪爭に關する紅軍の提議を受納した。羅登賢、徐名鴻、吉鴻昌、鄧鐵梅、伯陽、童長榮、潘洪生、史濟堂、瞿秋白、孫永勤、方志敏の民族英雄は國家のために自己の若き生命を犧牲とした。劉崇武、田漢、杜重遠等の英雄的戰士は民族解放鬪爭に對する確乎不動の信念のために逮捕、拘禁された。蔡廷楷、蔣光鼐、翁照垣、陳銘樞、方振武等の抗日部隊は艱苦の鬪爭をなした。宋慶齡、何香凝、李杜、馬相伯等の著名政客は「對日作戰基本綱領」を發表し同胞數千人が署名した。數年來、わが工農商學各界同胞は排貨、罷工、罷市、罷課等の形態による反日鬪爭を間斷なくなし來つた。最後に、特筆を要するは楊靖宇、趙尙志、王德泰、李延祿、周保中、謝文東、吳義成、李華堂等の民族英雄の指導下に我が數十萬の東北反日パルチザン部隊が困難、犧牲を顧みず斷え間なく××人侵略者に抗して民族解放のために戰つてゐることである——斯かる事實はすべて、わが民族の救亡圖存の偉大なる精神を表現し且つわが民族の抗日救國の必然的勝利を證明する。」

われらの民族解放鬪爭が今日に至るも當然得べき勝利を贏ち得ざる原因は、一は日本帝國主義と蔣介石の南京政府の反日勢力に對する共同壓迫であり他は各種の抗日反蔣勢力間の確執と誤解に基づく不一致、不團結である。これがため亡國滅種の大禍が目睫の間に迫りつつある現在、蘇維埃政府と共產黨は全體同胞に對しもう一度衷心から呼びかける——各黨派間に過去と現在において政見と利害を異にしてゐるにせよ、各界同胞間に意見上或ひは利益上の差異があるにせよ、各軍隊間に過去と現在において敵對行爲があるにせよ、凡てのものが「兄弟牆を鬩めげども外侮を禦ぐ」との眞の自覺を持たねばならぬ。而して先づ內戰を停止し、殊に蔣介石が自國民衆に對してなしつつある戰爭を停止し、以て一切の國力（人力、物力、財力、武力等）を集中し抗日救國の神聖事業のために奪鬪せねばならぬ。蘇維埃政府と共產黨はもう一度凡ゆる責任を以て言明する——國民黨軍隊が蘇區攻擊を停止しさへすれば、彼らが對日抗戰を實行しさへすれば、國民黨軍隊と紅軍間の多年の戰鬪行爲にもこだわらず且つ國內建設の問題に關し彼我の間に存在する

見解の相異にもこだわることなく、紅軍は彼らに對する軍事行動を直ちに停止するのみならず抗日救國共同闘爭のために彼らと握手するを願ふものである。加之、蘇維埃政府と共產黨は更に一歩を進めて衷心から呼びかける——

一切の亡國奴となるを願はざる同胞たち！

一切の愛國心を有する軍官士兵たち！

一切の抗日救國の神聖事情に參加を願ふ黨派、團體の同志たち！

國民黨と藍衣社內の民族意識を有する熱血青年たち！

一切の軍國に關心を有する僑胞たち！

一切の中國內の被壓迫民族（蒙、回、韓、藏、苗、掄、黎、番等）の兄弟たち！

萬人一體となつて、××帝國主義と蔣介石の南京政府のテロル、抑壓をはね返し闘爭に蹶起せよ！

蘇維埃政府、東北各地抗日政府とともに全中國統一の國防政府を組織せよ！

紅軍、東北人民革命軍、各種反日義勇軍とともに全中國統一の抗日聯軍を組織せよ！

ソヴエート政府と共產黨はこういふ國防政府の發起人となるべき準備を有し、抗日救國事業に參加することを願ふ一切の各黨派、各團體（工會、農會、學生會、商會、敎育會、新聞記者聯合會、敎職員聯合會、同鄉會、敎

公堂、民族武裝自衛會、反日會、救國會など）各名流學者、政治家、一切の地方軍政機關と國防政府共同成立の問題に關する談判に着手すべき準備を有する。

かゝる談判の結果組織されたる國防政府は救亡圖存の臨時指導機關とみらるべきである。國防政府は眞に全體同胞を代表する（工農軍政商學各界、抗日救國を願ふ一切の黨派並びに團體、國外僑胞並びに中國境內の各民族によつて民主々義的條件の下に選出されたる代表より成る）代表機關を召集すべき手段を講じ、抗日救國に關する各種問題を具體的に討論せねばならぬ。ソヴエート政府と共產黨とは、かゝる全民代表機關の召集に對して絕對的に努力援助するとともにこの機關の決議を絕對的に執行する。ソヴエート政府と共產黨とは人民の公意を絕對的に尊重する政府であり政黨であるからだ。

國防政府の主要責任は抗日救國にあり、その行政方針は左記各項を包括せねばならぬ。

一、抗日救國、失地收復。

二、救災治水、安定民生。

三、日本帝國主義の一切の在華財產を沒收して對日戰費に充當す。

四、漢奸賣國賊の財產、糧食、土地を沒收して貧苦同胞および抗日戰士に支給し使用せしむ。

五、寄捐雜稅の廢除、財政金融を整理し工農商業を發展せしむ。

六、給料手當の增額、工農軍學各界生活の改善。
七、民主自由の實行、一切の政治犯の釋放。
八、免費敎育の實行、失業靑年の安定。
九、中國境內の各民族の一律平等政策を實行し、僑胞の國內外における生命、財產、居住營業の自由を保護す。
十、帝國主義に反對する一切の民衆（日本國內の無產大衆、朝鮮、台灣等の民族）を聯合し友軍となす。中國民族解放運動に同情する一切の民族および國家と聯合し、中國民衆の反日解放戰爭に對し好意的中心を守る國家および民族と友誼關係を建立す。

抗日聯軍は日本帝國主義とその走狗に對して戰はんとする一切の軍隊、武裝部隊を包含すべきであり、國防政府の指導下に統一的抗日聯軍總司令部が組織されねばならぬ。かゝる總司令部は各軍の抗日長官および士兵から代表を選出して組織するか、又は他の民主々義的方法によつて組織すべきであるが、各方面代表および全體人民の公意によつて決定されねばならぬ。紅軍は必ず先んじてこの聯軍に加入し抗日救國の天職を盡す。

國防政府をして眞に國防の重任を担負せしめるため、抗日聯軍をして眞に抗日の重任を担負せしめるため

め共產黨とソヴエート政府とは全體同胞に號召する——錢あるものは錢を出し、力あるものは力を出し、專門技能あるものは專門技能を供獻し、以てわが全體同胞の總動員を便ぜしめるとともに一切の新舊武器によつて數千、數百萬の民衆を武裝せしめよと。

共產黨とソヴエート政府とは固く信ずる——わが四億同胞に統一ある國防政府の指導があり、統一ある抗日聯軍が先鋒となるならば、數百萬の武裝民衆が戰備を整へるならば、東方および全世界の數知れぬプロレタリヤと民衆の支援があるならば、內は人民の反抗を受け外は列强の敵視を受ける日本帝國主義に必ず戰ひ勝つことができると。

同胞よ、起て！
祖國生命のために戰へ！
民族生存のために戰へ！
國家獨立のために戰へ！
領土完整のために戰へ！
人權自由のために戰へ！
大中華民族抗日救國大團結萬歲

中國ソヴエート政府

中國共產黨中央

一

一九三五年八月一日

この檄文は中國共產黨の新政策を具體的に表明したものとして各方面に衝動を與へた。陳紹禹はこれに對し次の如き意見を述べてゐる。

「中共中央とソヴエート政府の宣言は全中國聯合の國防人民政府の樹立、全中國聯合の抗日聯軍の編成といふ反帝統一戰線の明確な內容と形態を提起してゐる。

しかし、このことからして、中國共產黨とソヴエートは、反帝統一戰線の結成は、かゝる鬪爭形態より始むべきであると固執し、同時に最も初步的な各種の反帝要求をめぐつて發生するこの統一戰線の各種各樣の形態を過小評價してゐるとの結論をなすことは失當であらう。中國共產黨と中央ソヴエート政府とは反帝統一戰線の基本內容に最高形態に關する提議をなすとともに全黨、全ソヴエートをして、原則的な形態を基礎とするとはいへ、また最も初步的要求をめぐるとはいへ、大衆的反帝運動を組織すべきことに對し特別の注意を注がしめてゐる。

中共中央とソヴエート政府は、全中國聯合の國防政府と抗日聯軍の組織は、共通の抗日救國鬪爭綱領を

基礎とする中華民族の最も廣汎な反帝統一戰線の結成並びにその擴大鞏化を實現せんとする一切の黨內黨外の戰士の系統的な、不屈不撓な、巧妙な鬪爭の結果であるとみてゐる。」（カ、イ誌第三十三—四號）

第三章　戰術轉換の動機と條件

中國共產黨は如何なる基本條件並びに前提を根據として、廣汎な抗日統一戰線を結成せんとするその新政策を確立するに至つたか？

陳紹禹の見解によると、中國共產黨がその劃期的戰術轉換を遂げるに至つた第一の條件と動機は、全中國人民の抗日救國鬪爭の發展とこの鬪爭を組織すべき必要であり、第二の條件は獨特なる中國革命發展の特殊性、第三の條件は紅軍とソヴエートの增大しつつある力であるのみならず、その明白な脆弱性であり第四の條件は、理論と實踐に顯はれた誤謬を糾正し、ソヴエート區域並びに非ソヴエート區域における共產黨員の工作の欠陷を糾正すべき必要である。

以下、この四つの條件に對する共產主義者の解釋を紹介しやう。

一、中國人民の抗日救國運動の發展

現在中國には階級力の配置といふ見地より大いなる變化が起りつつある。即ち工人階級、農民、一般勞

働者が民族的、社會的解放のために決定的鬪爭を遂行せねばならぬといふ覺悟を深めつつあるのみならず廣汎なるプチブル大衆が帝國主義的壓迫、飢餓、失業に反對しつつあるのみならず、極めて大なる一部分の民族ブルヂョアまでが、××帝國主義の貪慾無壓なる侵略を阻止し、國民經濟の間斷なき崩潰を挽救せんがため決定的辦法を採らねばならぬといふ必要を日とともに切實に感じつつある。各黨派の政治的立場を見るに顯然たる進歩がある。一九三一年の「九一八」事變後、中國共產黨が提出したところの「××帝國主義に對する武裝人民の民族革命鬪爭を遂行し、中國の民族獨立、國家統一、領土完整を確保せよ」この歷史的意義を持つたスローガンは現在實に中國共產黨のみのものではなく、多くの黨派、廣汎な民衆の擁護するところのスローガンとなつた。保國衞民事業に對する各派軍隊の態度を見るに顯著なる變化が認められる。即ち國民黨並びに他の派別の軍隊內において、多數の士兵、尠なからざる中下級軍官のみならず、一部分の上級軍官までが××帝國主義とその走狗に對して憤激を感じつつある。よつて全師全軍の國民黨軍隊が鉄口を逆さにして屢々人民の公敵に反對したのである。

中國社會の各階層、各黨派內に起りつつある抗日救國問題に對する變化、各派軍隊內に表はれつつある抗日救國問題に對する進歩は多くの事實によつて證明される。即ち

一、一九三二年の一月から三月にかけて、十九路軍は××帝國主義の攻撃から英雄的に上海を防禦した。上海事變前

同軍は蔣介石の命により紅軍の「討伐」に從事し一再ならず敗北を喫した。併し蔡廷楷、蔡熙垣、蔣光鼐等の率るこの十九路軍は一九三一年九月十八日の瀋陽事變當時、十九路軍武裝解除のため中日の激化と關連して、南京政府の命に逆らひ××帝國主義に銃口を差し向け中國民族解放鬪爭の歷史に輝やかしい一頁を書き加へた。

二、一九三三年末から三四年初めに亘る熱河事變當時、同じく蔡廷楷、蔡熙垣、蔣光鼐等が率るてゐた十九路軍は南京政府並びに國民黨の破壞的裏切行爲（例へば蔣介石は上海事變當時、十九路軍武裝解除のため中央軍を派遣したがその結果としては派遣された軍隊が抗日共同鬪爭のため十九路軍と自發的に合體し蔣介石の計畫は挫折した）および內戰卽ち紅軍に對する軍事行動に憤激して、日本帝國主義とその走狗蔣介石に對する共同鬪爭のため紅軍と作戰協定を締結し自己の銃口を蔣介石にさし向けたのみならず國民黨よりの離脫並びに南京から獨立して獨立人民政府を組織する旨公然と聲明した。この獨立事變には陳銘樞、李濟琛などのやうな著名な軍閥まで參加した。

三、一九三四年の春先においては宋哲元、方振武、吉鴻昌等の率るる國民黨所屬各軍の抗日反蔣武裝蜂起が發生したこれら各軍とその一部指導者の急進化のよき證據として吉鴻昌將軍の行爲は役立つものである。國民黨の第三十軍團司令として蔣介石の命により部下を率るて湖北、湖南、安徽の戰線で二年間、紅軍の「討伐」に從事してゐた吉鴻昌將軍は、內戰鬪爭における紅軍並びに赤色パルチザンの英雄的行動に感激し、中國民族の利益に反する國民黨の內戰なき內戰行爲、南京政府の降日賣國に憤激を感じ、內戰を終熄せしめ一致抗日を實現する必要を自覺するに至つた。蔣介石は吉鴻昌の氣分のかかる變化を氣づくや軍事研究のヨーロッパ派遣に藉口して、彼を戰線から召還した。吉鴻昌は此の研究を終て歸國後中國共產黨中央委員會に對し入黨を心から懇請した。中央委員會は彼の懇請を容れて入黨を容認した。彼は入黨後黨の指令に服從し黨の指令を遂行して全く共產主義者として行動した。彼は所有の全財產を革命と民衆の仕事に獻じた。彼は國のために軍事勢力、民衆力の結集に當つてゐる彼の積極的活動

が全華北に普及した時、蔣介石は××帝國主義の援助の下に吉鴻昌暗殺隊をさし向けた。吉鴻昌は暗殺隊のため重傷を負つて、天津佛租界の病院で加療中逮捕され北平で處刑された。中外新聞の報導によれば吉鴻昌とその同僚任應岐將軍は重傷で困難な肉體的狀態にも拘らず國民黨の法廷においても處刑の瞬も故國に忠實な、不撓不屈の民族英雄として身を持した。彼等兩人は救國事業のための眞の革命鬪士として身を終つた。彼等は處刑直前、故國および同胞に對する國民黨の底知れぬ罪惡を憤怒とともに列擧して、絶叫した「中國共產黨萬歲！」「××帝國主義とその走狗國民黨を倒せ！」蔣介石、汪精衞等の民族的裏切者共は、「赤匪」としての吉鴻昌處刑に對する指令を正當化するのみならず、中國共產黨陣營には將軍およびミリタリストがゐるとて民衆に逆宣傳的に吹聽するために吉鴻昌の共產黨加入を利用した。

中國共產黨はその戰略、戰術の特徵およびその計畫、目的よりみれば何よりも先づ勞働階級の政黨である。しかしながらそれと同時に中國共產黨は、中華民族の社會的民族的解放のための鬪爭においては中華全民族の政黨である。中國共產黨はその陣營に吉鴻昌の如き著名將軍がゐることを以て恥となせざるのみならず、反對にこれを以て誇りとするのである。中國共產黨は、その陣營に吉鴻昌の如き著名將軍がゐることは、黨が全中國民族の民族的希望と光榮を擔ふ唯一の政黨たることを明らかに證明してゐるが故にこれを以て誇りとするのである。而して取りも直さず共產黨によつてのみ、故國が帝國主義の植民地となり同胞が窮乏化し幾百萬の勤勞階級が飢餓に亡びることを欲せぬ一切の優秀な、一切の革命的な中國民族の靑年子女が結集し得るのである。

中國共產黨はその權威と影響が、吉將軍および國民黨軍隊の上級軍官でさへも彼等が故國と同胞に對し自己の責務を覺知した時、中國共產黨に唯一の出路と希望を見出した程偉大であるが故にこれを以て誇りとするのである。最後に中國共產黨は黨員に對する影響と敎育の力、マルクス、レーニン主義の影響と力が、以前の將軍、剩つさへ黨陣營における新入者吉鴻昌さへも自己の革命的行動並びに英雄的刑死によつて、眞の共產主義者的行動の規範、自己の階級、自己の黨、自己の同胞に對し偉大なる信賴を示し得た程偉大であるが故にこれを以て誇りと

するのである。

四、一九三三年には孫文未亡人宋慶齡を始め數千人が署名せる「中華民族對日作戰基本綱領」が公布せられた。この綱領の國內外における支持者、同情者の署名は、該文書の全民的性質および××人殺害者に對し手に銃を執り戰はんとする中國民衆の熱烈なる願望を明白に示した。

向後における民族的社會的危機の深化並びに南京政府の破廉恥極まる降日賣國と關連して中國社會の一切の優秀な熱血ある分子が、××帝國主義と彼等のアゲントによる滅亡から故國と同胞を救ふための鬪爭に更に更に蹶起するであらうことは疑ふを得ざるところではないか。國民黨軍隊の軍官、兵士、黃浦軍校等軍官學校の卒業者、現生徒の中にさへも、反帝鬪爭のため民衆およびそのソヴエート政權と協動すべき願望と準備を有する廉直な靑年が過去と現在において存在したし、また將來も存在するであらう。

中國共產黨の提議の現實性は中國の客觀狀勢のみならず、主觀的ファクトル、卽ち紅軍およびソヴエートの力の成長に根を下してゐるのである。

二、中國革命發展の特殊性

中國革命發展の特殊性とは何であるか？。

また何故にそれは中國共產黨の新政策確立の動機となつたか？

第一の特殊性は、中國におけるブルヂョア民主々義革命が、その發展のソヴエート的段階にあることである。この段階においては革命の二潮流——卽ち封建的殘存物に對する反對運動と反帝運動が結び合はされてゐる。

しかして中國におけるブルジョア民主々義革命の基本的内容が、農業革命であるのみならず、反帝國主義革命であるといふ事實は、斯かる條件こそ現下の中國ソヴエート革命に無限の力、廣汎な範圍を與へるものなるが故に中國ソヴエート革命にとつて利益である。

中國共産黨の任務は斯くの如き革命の二潮流を正しく理解し評價することにあるのみならず、革命鬪爭の發展に大なる範圍、大なる力を與へるが如き正しい戰術によつて革命の二潮流の任務の解決を結合せしめることである。

ソヴエート區域で農業革命が廣汎に展開しつつあるが故に、××帝國主義への武裝抵抗と云ふスローガンの下に全支において大規模な反帝國主義革命が昂揚しつつあるが故に苟しくもボルセヴイキ黨の任務はその大膽な、屈伸性ある、正確な戰術によつて、ソヴエート革命の斯かる二潮流を結合せしめ、普に革命的な、自覺した又は廉直な分子のみか一時的に躊躇する味方又は同伴者を含む各種各樣の分子——即ち中國社會の各階層の最廣汎な分子を民族的社會的解放鬪爭に引き入れる方法によつて中國革命の發展に出來るだけ大なる力、大なる範圍を附與することである。新戰術の任務とするところは第一に斯くの如き廣汎な反帝統一戰線の結成である。

中國ソヴエート革命發展の第二の特殊性は帝國主義列强を敵としてゐることである。このことは中國ソヴエート革命の基本的困難であると同時に革命の發展にとつて利益でもある。何となれば相互に競走しつつある帝國主義者並びにその支那人走狗の對立の激化、內輪喧嘩の尖銳化は、彼らの地位と共同戰線を弱めざるを得なかつた。而して斯かる弱化によつて革命の利益になるように反革命勢力を利用すべき客觀的可能性が釀成されつつある。この場合、ボルセヴイキ黨の正確賢明なる政策は、中國革命の間接的予備隊、(卽ち反革命勢力)の意義と役割を適當に評價し、これらを革命の利益になるよう圓轉滑脫に、大膽に、正確に且つ適宜に利用することである——換言すれば最も危險な、全民衆にとつて最も憎惡すべき、對內對外の支援から最も孤立した敵(帝國主義とその走狗)を打倒するため凡ゆる場合、凡ゆる時機に革命勢力を集中することである。

××帝國主義の北支、南支、中支に對する進攻によつて雪に日米對立のみならず全極東の日英對立が尖銳化されつつある今日、全歐の緊張せる風雲——殊に伊エ戰爭によつて帝國主義的鬪爭が愈よ紛糾しつつある今日、革命の間接的予備隊の役割並びにその意義に關する問題、それを利用すべき問題は特に重大化してゐる。中共新戰術の任務とするところは革命の凡ゆる間接的予備隊を利用することである。

中國ソヴエート革命の第三の特殊性は、革命と反革命の間の武裝鬪爭が慢性的性質を帶びてゐることである。この場合、ボルセヴイキ黨の任務は無產階級の人民的力量を實明圓轉滑脫な方法によつて革命鬪爭に

殘さず動員し、革命闘爭の各種の形態、方法を適用することである。斯くすることによつてのみ敵に對し勝利を收め得るのだ。中共新戰術の任務とするところは即ちこの點にある。

最後に、中國ソヴエート革命發展の第四の特殊性は、ソヴエート革命が領土の點で不均衡に發展しつつあり、これがため數年間に中國領土の廣大な一部で首先的成功を收めたに過ぎないことである。

「各區域の反動政權の安定力は同一でない、故に全般的な革命的昂揚によつて一省又は數省における初歩的勝利は可能である」との中國共產黨六全大會の言明は實踐により、その正しさが證明せられた。數省の領土でソヴエート革命の首先的勝利は達成せられたが、第一に革命運動の脆弱性、その他多くの獨自的特殊性の結果として、今日に至るもこれら數省の一の主要城市(省城)さへ占據し得なかつた。これは勿論革命の弱點であり欠點である。しかし事物發展の或る段階においては、革命にとつて利益でもある。何となれば、このことはソヴエート革命に對しその勢力、第一に軍事勢力を準備し結集するためのより大なる可能性と時間を與へると同時に壓倒的優勢な敵軍との時期尙早且つ不用意な、革命にとつて不利な衝突を避けるべき、より大なる可能性を與へるからである。

中共新戰術の任務並びに眞髓は、新戰術が全支における革命運動發展の不均衡性の役割並びに意義に對する正確なる評價を基礎となし斯かる首先的勝利を完全なる勝利の獲得並びにその準備の基礎として、出發點として正しく利用せんとしてゐることにあり、なほ新戰術が解放闘爭における中國全民族の團結中心としてソヴエートを登場せしめることにある。

三、中國紅軍並びにソヴエートの增大しつつある力とその脆弱性

中國ソヴエートは帝國主義革命並に農業革命を展開せんとするその政策によつて、就中××帝國主義の强盜的進攻並に南京政府の賣國行爲に對する獻身的闘爭によつて人民大衆內に絶大なる同情を博し信賴を贏ち得てゐる。加之、中國紅軍の全部隊は、帝國主義の援助に立脚する蔣介石の數次に亘る攻擊を擊退し多年の困難な、併し成功的な戰闘によつて鍛錬され强力となつてゐる。特に江西、福建より西北支那に至る紅軍主力の大行軍、敵軍百萬の軍事的包圍の突破、山岳、大河川によつて遮斷された五千粁の大移動、中國共產黨中央委員會と中國ソヴエート共和國革命軍事委員會が予じめ決定せる第四方面軍との合流計畫の遂行、新しい領土的根據地の建設——これら中國紅軍の英雄的偉業は、ソヴエートの事業に對し如何に人民大衆が限りなき支持を與へてゐるかを如實に示すものである。中國紅軍はこれら英雄的偉業におけるその戰闘能力並に卓越せる軍事技術によつて一切の紅軍同情者を魅了し去り、一切の敵を恐怖せしめ、一切の傍觀者をして紅軍の無敵さを確信せしめた。故に日本帝國主義とその走狗の反對者は——彼らが依存するものが民族解放的氣分又は愛國的感情であらうとも、或は單に軍閥、帝國主義の對立であらうとも何

であらうと――紅軍並にソヴエートを大なる政治的勢力として認めざるを得ないのみならず、重大なる軍事的ファクトルとして認めざるを得ないのである。斯かる事情こそ紅軍並にソヴエートをして抗日救國闘爭における中國全民族の團結中心としての光輝ある任務を遂行せしめるのである。

しかしながら紅軍並にソヴエートの増大しつつある力が廣汎なる反帝統一戰線の結成を必要とするのみならず、紅軍並にソヴエートの現存欠點が必要とすることを率直に言明せねばならぬ。實際的兵力の見地からは紅軍のみでは××帝國主義とその走狗に打ち勝つに未だ不充分であることが問題となり、政治的方針の見地からは未だ多くの人民がソヴエート以外の政權、共產黨以外の政黨の影響下から脫せずして今尙ソヴエートの信奉者ではないことが問題となるのである。而して中國民族の危機は、政治的見解、所屬政黨の如何を問はず抗日救國共同闘爭のために各種の軍事勢力を聯合し、廣汎なる人民大衆を組織するための方法を講ぜずば、五千年を閲した世界最古の國家、歷史、文化は擧て外國人掠奪者の殖民地と化し世界最多の四億民衆は總に殖民地奴隷となるであらう程に重大である。中共新戰術こそは神聖なる民族解放闘爭のため中國全民族を紅軍並にソヴエートとともに結集せしめる唯一の方法である。

四、理論と實踐に顯れた誤謬を糾正し、ソヴエート區域並びに非ソヴエート區域における共產黨員の工作の欠陷を矯正すべき必要

かかる誤謬欠陷は共產黨が全民族の指導者として、全民族のファクトルとして行動する上に障害となつた。而して中國現下の新情勢に最も必要なるは共產黨が全民衆の指導者として登場することである。これらの誤謬欠陷を克服せずば中國革命を發展せしめること不可能である。

なほ現段階における中國共產黨と勞働階級との關係並びに全中國民族との關係について、陳紹禹は次の如く說明してゐる。

「中國共產黨は實に勞働階級の黨であるのみならず、中國民族の社會的民族的解放のための闘爭においては全中國民族の黨である。勞働階級とその共產黨は、中國民族の分離できぬ一部分であり前衛である。故に勞働階級とその共產黨の運命は全中國民族の運命と固く結合し、全中國民族の運命と直接依存してゐる勞働階級とその共產黨は民族の前衛なるが故に何よりも先づ中國民族の運命に對して實務を盡し全中國民族の運命を見棄に願慮してゐる」。

この共產黨が「中國が空前の民族危機に遭隅し」なほ「增大するこの民族危機の條件下においては、帝國主義に對する決定的な、不屈な闘爭へ大中華民族を動動員すること以外に中國を挽救する方法がなく、而して共產黨は反帝人民戰線の戰術以外に神聖な反帝民族解放闘爭に凡ゆる中國人を動員する手段を持たない」ので、抗日人民戰線の戰術を採取するに至つたことは極めて當然のことであり、何も理論的矛盾を

犯してはゐないのだ

中國共産黨は滿洲事變以來、數次にわたり抗日共同戰線の戰術を適用したが、當時は指導部のこれに對する理解がなほ不充分であり、この戰術は多分に術策的意義を持つてゐたがため充分な結果を收めることができなかつた。例へば——

一、中共中央は紅軍の鬪爭において、この戰術を適用した……紅軍は滿洲事變直後、ソヴエート區域に對する攻撃中止、人民の民主自由の解放（言論、出版、結社、組織、示威、罷工等の自由）といふ極めて實際的初步的諸條件に基づき抗日共同鬪爭のための作戰協定を締結すべく一再ならず凡ゆる國民黨軍隊に號召した。

中國共産黨中央委員會は一九三二年初め上海抗戰の時もこの戰術を適用した……當時共産主義者は上海民衆および十九路軍戰士と手を携へ前衛として活動した。當時共産主義者は十九路軍支援のため在上海日本紗廠全工人の總罷業を組織した。當時中國共産黨上海市黨部は戰線における戰鬪參加のため勞働者、學生の武裝部隊を始め十九路軍援助並びに後方確保のため連絡、運輸、偵察、供給、赤十字等の部隊を組織した。當時中華ソヴエート共和國中央政府はその困難な財政狀態にも拘らず、上海工人の英雄的反日罷工援助のため數千弗の基金を送つた。

しかし中國共産黨が今日までこの戰術を眞に首尾一貫して且つ誤謬なく實施することには成功しなかつたといふことを强く主張せねばならぬ。

例へば英雄的上海抗戰の時中國共産黨は、日本の占領に對する十九路軍の武裝鬪爭を支持するすべてのものと廣汎なる反帝統一戰線を結成せねばならなかつたにも拘らず「工農兵商學各界民衆聯合せよ」とのスローガンを許容し難きものと認めた一部共産黨指導者の誤れる指令のため眞に廣汎なる抗日人民戰線は結成されなかつた。中國共産黨は凡ゆる赤色勞働組合、改良主義勞働組合、國民黨勞働組合より成る廣汎なる抗日統一戰線を基礎として勞働者の武裝を達成し、且つ上海において總罷業を組織せねばならなかつたが赤色勞働組合工人の右翼日和見主義的サボタージュおよび「左翼」セクト主義的誤謬のため總罷業のスローガンは實現されず、戰線派遣のための勞働者の武裝は比較的弱く實現された。

二、中華ソヴエート政府および革命軍事委員會は、××帝國主義に對する共同武裝鬪爭のための作戰協定を締結すべく全民衆、全軍隊に徹した（あらゆる中外新聞がこの點を揭載した）。江西北部戰線において紅軍「討伐」に從事してゐた國民黨軍隊の總司令陳誠將軍は麾下の軍官たちとともに蔣介石に對し共産軍討伐を停止し共産黨と抗日共同鬪爭協定を締結せよと要求した。これに對し蔣介石は「抗日者悉殺無論」と公然言明し陳誠將軍を罷免すると同時に、「告共産軍士兵書」を發表し厚顏にも人情に欠けてゐると共産軍を非難した。かゝる條件下において共産黨は、日本と戰はんとする陳誠將軍とその麾下軍隊並びにあらゆる軍隊

に對して更に具體的な提議をなさねばならなかつたであらう。且つ軍隊と民衆の面前で民族的裏切者として蔣介石を餘すところなく暴露するため彼と論戰を續けねばならなかつたにも拘らず中國共產黨はその政策の中途半端な遂行のために蔣介石に對し單に否定的回答（黨はそれによつて蔣を暴露し得るものと期待した）を行つたに過ぎなかつた。

三、福建事件當時、中國共產黨は同事件が、日本帝國主義とその走狗蔣介石に對する共同鬪爭のための作戰協定を締結すべく紅軍が國民黨軍隊に對してなした提議の直接的結果であるといふことよりして十九路軍並びに福建政府に對して自己の同盟者として愼重に接すべきであつたにも拘らず「中國の發展のソヴエート的方法でもなく國民黨的方法でもない第三の方法を見出さんとする政策」に對する鬪爭の問題を一部わが黨指導者が機械的に取扱つた結果として、中國共產黨は福建事件の政治的意義を適當に評價しなかつた。そのため、我らの軍事的誤謬も發生した……即ち最も重要な江西、福建東北戰線において十九路軍とともに反蔣武裝鬪爭を實行する代りに紅軍々事指導部はこの戰線から一部紅軍を撤退せしめ該部隊を蔣介石軍の背面攻擊のため西方および南方へ移動せしむべく決議したが、これがため共產軍々事指導部は十九路軍の鬪爭に對して實際的かつ多大の援助を示し得ない狀態に置かれたのである。

もし中國共產黨がこれらの諸事件に際して抗日共同戰線の戰術を實際的に、かつ誤謬なく適用することができたならば、中國における政治情勢は中國共產黨にとつて一層有利となつたであらう。中國共產黨が滿洲事變直後、蔣介石軍隊並びに其他の抗日軍隊に對して停戰和議、共同抗日を提議し、實踐行動によりその提議が共產黨の僞らざる政策であることを表示したならば、中國民衆の抗日運動は一層有利となり、かつ發展したであらうこと明白である。

これらの誤謬は、何より先づ多くの共產黨員が、土地革命を重視し階級鬪爭を夢想して、滿洲事變後の中國では抗日民族解放鬪爭の遂行が最も緊急事となつてゐることを閑却し、從つて抗日共同戰線の問題を共產黨の最重要政策として何故新たに提議せねばならぬかといふことを理解しなかつた結果である。陳紹禹の見解によると、共產黨勢力を中心とする抗日共同戰線の必要並びにその建立の可能性は次の如き新しいモメントによつて說明されてゐる。

（一）日本の進攻と國民黨の裏切行爲によつて喚起された空前の民族危機は、外國帝國主義者とその走狗に對する人民の全體的憤激を發生せしめた。このことと關連して廣汎なる大衆の民族革命的昂揚が增大されてゐる。且つ軍閥の蒐だ多くの軍隊が中國民衆の神聖なる反帝國主義的國家防衛戰爭に共鳴してゐる。

（二）近年來紅軍は全中國における强大な軍事的ファクトルに成長した。たゞ紅軍のみが「中國の獨立、統一完整の擁護、日本帝國主義に對する武裝人民の民族革命戰爭」といふスローガンの下に公然と進出してゐるのだ。あらゆる反蔣軍事勢力の中、紅軍のみが、蔣介石の間斷なき軍事的攻擊を成功的に擊退し、賣國賊の頭目蔣介石に對する鬪爭を遂行し得べき狀態にあるのだ。紅軍のかかる役割に鑑みて、あらゆる反日反蔣的な政治的或ひは軍事的集

團は——黨等が眞に實質的な、民族解放的な運動から話合してゐるか、又は單に軍閥および帝國主義の對立によつて活動してゐるかに關係なく——抗日反蔣武裝鬪爭における最有力な軍事的ファクトルとして紅軍を認めざるを得ないのである。

三、日本帝國主義に對する武裝民衆の民族革命戰爭の組織面にその成功的進行のためには、この鬪爭に勞農紅軍、革命的氣分を有する一切の自覺的動勞階級が參加するのみならず一時的な不安定な動搖せる味方であるところの維多な政治的、軍事的勢力を參加せしめることが必要である。

しかし、われ等第三者の見解によれば、中國における抗日共同戰線の結成を最も必要とし、かつそれによつて漁夫の利を占めるのは勿論ソ聯である。

第四章　中共中央政治局の一二・二五決議

中國共產黨中央政治局は一九三五年十二月二十五日「現下の政治情勢と黨の任務に關する中國共產黨中央の決議」を採擇した。この決議は上述せる中國共產黨の新政策を明白に具體化してゐる點、特に注目される。

現下の政治情勢と黨の任務に關する中國共產黨中央の決議

一、現情勢の特徴

現在、政治情勢は根本から變化し、中國革命史に一の新時期を劃した。すなはち日本帝國主義は中國を殖民地たらしめんとし、中國革命は全國的規模の大革命を準備し、世界は戰爭と革命の前夜にある。

日本帝國主義は東北四省を併呑してから、現在では全北支を侵奪し全中國を併呑し、中國を各帝國主義の半殖民地から日本の獨占的殖民地たらしめんとして準備してゐる。これは現時局の基本的特徴である。

日本帝國主義は明らさまな東北四省の武裝占領が全中國の反日怒潮を惹き起したので、今度は以前よりもこつそりと行動した。すなはち國民黨南京政府の命令を利用し、若干の中國軍閥政客を北支における日本の代理人たらしめてから、北支を武力によつて直接占領した。この方法は「九一八」の方法よりも更に狡猾兇惡であり、直接的武裝占領に先立ち華北國とその傀儡政府を組織した。第二滿洲國の傀儡政府は必然の歸結である。かゝる傀儡政府の組成分子と支持者とは、中國の漢奸賣國賊グループの主要成分たる多くの軍閥政客、豪紳買辦並びに銀行資本家、なかんづくその中の親日派である。これら一群の漢奸賣國賊がゐないならば、日本帝國主義はかくもたやすく中國を殖民地たらしめることはできないであらう。

四億の中國民衆は、日本帝國主義の北支併呑および全支併呑の準備行動のため亡國滅種の大禍に見舞はれた。この大禍は、亡國奴となり或ひは漢奸賣國賊となるを願はぬ一切の中國人をして、一條の唯一の道

路に立ち向はしめ、日本帝國主義とその走狗たる漢奸賣國賊に對する神聖な民族戰爭を發展せしめるものである。國を愛する一切の中國人が自國の保衛のため飽くまで血戰する」——これは、日本帝國主義の「亡人之國、滅人之種」の冒險事業に對する必然的回答であるが、その支那本部併呑着手は大きな炸彈である。

單獨で中國を併呑せんとする日本帝國主義の行動は、帝國主義内部の矛盾を極度に緊張せしめた。帝國主義はそれ自身の帝國主義的目的のため日本帝國主義と兩立することができない。大平洋戰爭は必然的結果である。しかし英國は日本に對し若干の讓歩妥協を求めてゐるが、これは英國の主力をその主要な敵、ソ聯、米國、イタリーに對して充分ならしめるためである。

支那本部を併呑せんとする日本帝國主義の行動は、中國の反革命統治、何よりも先づ賣國賊の親方蔣介石の統治の弱化と崩潰を促進せしめた。一貫せる賣國政策は、蔣介石をして若干の社會大衆と基礎を失はしめたのみならず、その地盤を縮少せしめた。蘇維埃との長期に亘る鬪爭、なかんづく第五次「圍剿」と中央紅軍追擊とは、蔣の兵力をして消耗、疲勞、分散せしめた。ファッシズムにより中國を統一せんとする幻想は最後の破產を宣告された。國民黨の第五次全國代表大會は實際は蔣介石の贓品分配會議であつた。蔣介石は中國を賣飛することによつてその死に瀕した統治を維持するのみであるが、彼の賣飛ばしはその統

治の死滅を早めつつあり、かゝる事情は、蔣系軍閥と其他の軍閥間の矛盾對立を深刻ならしめ、新しい性質と形態をもつて出現する反蔣戰爭爆發の可能性を增加せしめてゐる。

中國を併呑せんとする日本帝國主義の行動と、時期を同じくして、中國蘇維埃運動は一の新局面的時期に到達した。中央紅軍が中央蘇區から撤退してから、長江下流の若干の蘇區は部分的損失を受けたが、現在では各地紅軍の新勝利、新根據地の建設、舊蘇區の遊擊戰爭によつて反攻と新遊擊戰爭の蓬勃たる發展の時期がやつてきた。困難な關頭はすでに立ち去つた。中央紅軍は十二ケ月にわたる二萬五千支里の長行軍に當り蔣介石の長途追擊に戰ひ勝ち、帝國主義とその走狗蔣介石の追擊迎擊の破產を宣告し、歷史上の遠征レコードを破つた。なほ宣傳隊は紅軍が縱橫無盡に通過せる十一ケ省二億餘の民衆に對して苦痛を除く救亡救國の道路を指示し、播種機の役割を演じて多くの革命の種子を散布した。中央紅軍は第二十五、第二十六、第二十七軍と合流してから陝甘蘇區に對する敵の第三次「圍剿」を徹底的に粉粹し、蘇維埃運動の新時期が始つたことを表示した。蘇維埃運動のこの新時期は現下の一般的革命情勢の新局面と結びつき、中國革命の新情勢の重要な組成部分になつてゐる。それは、日本帝國主義强盜の併呑に反對し中國を亡國滅種の大禍から救はんとする全中國人民の偉大な力の中には蘇維埃紅軍の鐵のやうな中堅力量があることを指示するものである。

中國を併呑せんとする日本帝國主義の行動は、全中國人民を再び喚び醒し、亡國滅種の大禍に直面せる危險な事態を知らしめ、新しい民族革命の高潮を惹き起した。かゝる高潮は、中國革命史上の數次にわたる發展（主要なものは一九二五―七年の大革命）の下に生れたものであるとともにすでに現中國に蘇維埃革命根據地があり革命情勢があるといふ條件下に生れ、世界革命と戰爭の新時期が將に來らんとする情勢の下に生れ、ソ聯がすでに侵略國家に戰勝し被壓迫民族を援助するに足る一切の力を有する情勢の下に生れたものである。故に、かゝる高潮は特に廣大にして鞏固な性質を持ち、世界革命の因素と相互に影響しかつ援助し合ふ性質を持つて出現するに至つた。

疑もなく新しいことは、反日民族革命の高潮が、普に全國工人階級と農民中の落後せる階層を喚び醒し彼らをして革命鬪爭に積極的に參加せしめつつあるのみならず、廣汎なるプチ・ブル階級の大衆とインテリとが現在では革命の側に立つに至つたことである。中國々民經濟の全面的崩潰は、數千數萬の人民をして職業と土地を失はしめ、數千數萬の災民と難民をつくり出し、新しい反日民族革命の高潮と救亡救生の大衆的鬪爭とを更に密接に聯繫せしめ、民族革命陣營の大衆的基礎を大々的に擴大せしめ、廣汎なる民衆の革命的義憤を中國の一切の地方に醞釀せしめつつあるのみならず、各大城市學生の反日示威運動を普及せしめて、再び表現されるに至つた。反革命陣營においては、新しい動搖、分裂、衝突が發生し、一部の民族ブルジョア、多くの農村地主と小地主、なほ一部の軍閥さへも現在開始された新しい民族運動に對して同情中立の態度をとり、この運動に參加すらしてゐる。民族戰線は擴大した。

現在世界は大革命と大戰爭の前夜にあり、一切の帝國主義國家の經濟危機並びにこの危機から生れる革命危機は、帝國主義者をして戰爭を除く外、危亡挽救の第二の道路を見出すことを困難ならしめてゐる。日本帝國主義の中國に對する大擧進攻とイタリヤ帝國主義のアビシニアに對する冒險戰爭とは、第二次帝國主義大戰發生の危險を物語るものだ。しかして、中國はアビシニアの民族革命戰爭、帝國主義國家およびその多くの殖民地における革命危機の成熟よりも强力に世界大革命を促成するのだ。現在は革命と戰爭の前夜であり、世界の反革命勢力の弱化と全世界の革命勢力の擴大革命が世界の一切の反革命を驅り去るであらう。かゝる事態は中國革命をして過去の孤立を離脫せしめるものである。世界革命は中國革命にとつて有力な支援であるとともに、中國革命はすでに世界革命の偉大な因素となつた。將來は全民族の雄壯偉大な陣勢をもつて世界革命に援助を與へるであらう。

これは、日本と中國の關係においても同樣である――日本共產黨の指導下にある日本工農大衆と朝鮮、台灣の被壓迫民族とは、日本帝國主義を打倒し蘇維埃日本を建立すべく偉大な力を準備し奮鬪しつつあるこれは打倒日本帝國主義の共通目標を基礎として中國革命と日本革命を合流せしめるものである。日本の

革命的民衆は中國の革命的民衆にとつて有力な支持者である。

ソ聯も同樣、今日のソ聯は、第二次五ケ年計畫將に完成せんとし、ソ聯に進攻する帝國主義者の勢力に打ち勝ち得る赤軍の威力を持つてゐる。しかして日本帝國主義に對する一切の平和的方法が無効に終り（屢次にわたる相互不侵犯條約の提議）日本は却つてソ聯に對し積極的に挑戰してゐるので、ソ聯はこの侵略者に對する打擊を準備してゐる。これは中日兩國の革命とソ聯の侵略者反對鬪爭を共通目標——打倒日本帝國主義を基礎として合流せしめるものであり、ソ聯は中國革命にとつて最も有力な援助者である。

中國革命は有利な條件下にあり、光明燦爛たる前途を持つてゐる。しかし中國革命の主要な敵たる帝國主義——なかんづく日本帝國主義は中國革命に對應すべき決意を固め力を準備してゐる。中國の反革命集團側では、その統治力が更に弱まつたので、敵と結合することを余儀なくされ、萬惡の日本帝國主義に投降し革命的民衆に對して絶望的な進攻を加へ決鬪を行つてゐる。かゝる事態を現在でも依然として存在する中國革命の不平衡な發展情況と結びつけてみれば、中國革命は一種の持久性を帶びてゐることが知られる。故に中國の革命的民衆および共產黨指導者は、敵に對する長時間にわたる持久戰を準備し、自己の困難なる工作を準備せねばならぬ。數百數千萬の革命軍がなければ敵を決定的にやつつけることはできない。數千萬の民衆を組織するため凡ゆる手段を講ずるとともに全力を擧げて努力し、偉大な民族革命の戰場につき進まねばならぬ。偉大なる勢力が準備されたことは、決戰の勝利が準備されたことだ。

二、黨の策略方針

現情勢はわれ等に告げる——中國を併呑せんとする日本帝國主義の行動は全中國、全世界を震動せしめてゐることを。中國の政局を形づくる各階級、各階層、政黨および武裝勢力の間の相互關係は再び變化したし、かつ現に變りつつある。民族革命戰線と民族反革命戰線とは再び改組中である。故に黨の策略方針は、全支全民族の一切の革命勢力を組織團結せしめ、眼の前に控へた主要なる敵——日本帝國主義と賣國賊の親方蔣介石に反對することだ。いかなる人間、いかなる派別、いかなる武裝部隊、いかなる階級たるに拘らず、日本帝國主義と賣國賊の親方蔣介石に反對することが必要であり、日本帝國主義を中國から驅逐し、日本帝國主義の走狗の中國統治を打倒し、中國民族の最後的解放を爭取し、中國の獨立および領土の完整を保持するために團結して起ち神聖なる民族革命戰爭を實行せねばならぬ。下層と上層の最も廣汎なる反日民族統一戰線のみが日本帝國主義とその走狗蔣介石に戰ひ勝つことができる。

個人、團體、社會階級、階層、武裝部隊が異なる以上は彼らが反日民族革命に參加する動機と立場もそれ〴〵異つてゐる——或る者は原有地位を保持せんがためであり、或る者は運動の指導權を爭取し運動を彼らの容許する範圍內に止めんとし、或る者は本當に中華民族を解放せんがためである。また彼らの動機

と立場が異つてゐるので、或る者は鬪爭が始まれば直ちに動搖叛變し、或る者は中途から消極的となり又は戰線から脫離し、或る者は最後まで奮鬪するであらう。しかしわれ等の任務は、一切の可能なる反日基本勢力を團結せしめるにあるのみならず、一切の可能なる反日同盟者を團結せしめるにある。全國民衆をして力あるものは力を出し、錢あるものは錢を出し、智識あるものは智識を出さしめ、あらゆる愛國的中國人を反日戰線に參加せしめることだ——これ即ち黨の最廣汎なる民族統一戰線であり、策略の一般的方針である。かゝる方針によつてのみ、全國人民の公敵たる日本帝國主義および賣國賊の親方蔣介石に對して全國人民の力を動員することができるのだ。

中國プロレクリヤと農民とは依然中國革命の基本動力である。廣汎なるプチ・ブル大衆と革命的インテリとは民族革命における取るに足る同盟者である。勞働者農民プチ・ブルの堅固なる聯盟は日本帝國主義と漢奸賣國賊に戰勝する基本力量である。一部の民族ブルジョアと軍閥とは、彼らが土地革命と蘇維埃制度に同意すると否とに拘らず、反日反漢奸鬪爭に對して同情し又は善意の中立を守るならば、或ひは直接この鬪爭に參加するならば、反日戰線の發展にとつてみな有利である——これは一般反革命の勢力を弱め、革命の力を强めるからだ。かゝる目的を貫徹するためには、黨は各種の適當なる方法或ひは方式をとり、これら勢力を抗日戰線に惹き入れねばならぬ。なほ地主買辦階級の陣營は完全に統一したものではない。當つて中國では多くの帝國主義者が相互に競走した結果、中國において相互に競走しつつある賣國賊集團內部の矛盾と衝突を發生せしめた。黨は若干の反革命勢力をして反日戰線に對し積極的に反對せしめぬやうに各種の手段をとるべきである。日本帝國主義以外の帝國主義に對する策略もこれと同樣でなければならぬ。

黨は全中國人民の力を組織團結せしめ全國人民の公敵に反對するに當つては、反日統一戰線內部の一切の動搖、妥協、投降裏切りの傾向に對し斷乎として戰ふべきである。中國人民の反日運動を破壞する者はみな漢奸賣國賊である。大衆の力によつて彼らを葬らねばならぬ。共產黨はその正しい積極的徹底的な反日反漢奸反賣國賊の言論および行動によつて反日戰線內における指導權を獲得すべきである。共產黨の指導の下にあつてのみ、反日運動は始めて徹底的勝利を收め得るのだ。反日戰爭中の廣汎な民衆は、農民の土地要求、工人貧民兵士の生活および待遇改善要求の如き彼らの利益の基本的要求を滿足せしめねばならぬ。彼らの要求を滿足せしめてこそ、反日運動は持久性を持つとともに徹底的勝利を收めることができるのだ。またかくてこそ、黨は反日運動における指導權を握ることができるのだ。

三、國防政府と抗日聯軍

國防政府と抗日聯軍の組織は反日反賣國賊的民族統一戰線の最廣汎にして最高の形式である。蘇維埃制

度には同意しないが反日反賣國賊に同意する分子がゐるので、政治經濟の不平衡からして地方割據の狀態が生れてゐるので、中國蘇維埃政權は現在一部分の領土上で勝利を收めてゐるにすぎないので、なほ漢奸賣國賊等の民族反革命は日本帝國主義の侵略に援助してゐるのみならず必要である。

中國人民の反日反賣國賊の方式は多樣であり、抗日に參加する分子の意識程度もまちまちである。共產黨員は一切の機會を捉へて活動し、各種方式各種程度の鬪爭を組織指導することによつて、これらの鬪爭を國防政府と抗日聯軍の段階まで高めねばならぬ。一切の反日反漢奸的分子は彼らがいかなる階級、いかなる政治派別、いかなる武裝團體、いかなる武裝隊伍を代表するとに拘らずみな國防政府と抗日聯軍に加入することができる。國防政府とは、中國における一切の反日反賣國賊勢力の聯合戰線の政權組織であるとともに、反日反賣國賊的民族革命戰爭の統一指導機關である。階級的意義からいへば、それは反日反賣國賊の共通目標を基礎とする各階級の聯盟である。

國防政府と抗日聯軍を速やかに組織するためには、國防政府と抗日聯軍をして更に廣汎な大衆基礎と武裝力量を持たしめるには、共產黨の策略は自然發生的抗日人民團體と抗日武裝勢力を待つことなく、彼らを組織せしめるとともに自黨員を指導して一切の受國分子（團體、階級、階層、黨派、生產、商業、文化、敎育

學生、敎員、社會、政治、工農、ブチ・ブル、民族ブルジョア都市、農村、武裝等々の勢力）に働きかけて各種各樣の反日反漢奸的團體（抗日會、反日聯合會等々）を發起し、各種各樣の反日反賣國賊軍隊（抗日義勇軍、人民革命軍、新十九路軍）並びに政權（縣、區市、抗日政府、人民革命政府等）を組織し、これら軍隊と政權を集合せしめて蘇維埃と紅軍の勢力を加へれば、これ即ち國防政府と抗日聯軍の組織である。國防政府と抗日聯軍が成立すれば、その行動過程中において每日新しい團體、新しい地方政府、新しい軍隊に働きかけるとともに一面斷えず新しい勢力を湧き出でしめ、國防政府と抗日聯軍をして、窳朽したものとならしめず、はつらつたるものとならしめ、軟弱なものとならしめず、偉大な戰鬪力を持つ政府、聯軍たらしめねばならぬ。黨の勢力が薄弱なるため黨の働きかけと指導がなく、或ひは紅軍と蘇區から遠く離れてゐるので、蘇維埃と紅軍に參加し抗日政府と抗日聯軍を組織することのできぬ若干の地方に對しては、その地方の黨組織も同樣に積極的援助、擁護、參加をなさねばならぬ。これは、國防政府と抗日聯軍を實現せしめんとする共產黨の具體的工作方針である。

國防政府と抗日聯軍とは反日反賣國賊の最も廣汎にして最高の民族統一戰線であるから、最廣汎な行動綱領を持つべきである。この綱領はつぎの如し。

一、抗日救國、失地收復

二、日本帝國主義のあらゆる在支財產を沒收し抗日經費となす
三、一切の賣國賊および漢奸の土地財產を沒收して工農および災民難民に分配す
四、黃災治水、安定民生
五、一切の苛捐雜稅を廢除し工農商業を發展せしむ
六、給料手當を增額し工人士兵および教職員の生活を改善す
七、教育を發展せしめ失學生を救濟す
八、民主政治を實行し一切の政治犯を釋放す
九、生產技術の發展を圖り失業インテリを救濟す
十、朝鮮台灣および日本國內の工農並びに一切の反日勢力を聯合して鞏固な聯盟を結成す、中國民族解放運動に對して同情贊助を表示し或ひは好意的中立を守る民族又は國家に對しては緊密なる友誼關係を建立す

共產黨は抗日鬪爭過程において、これら綱領の實現を圖るとともに、これらの綱領を通じて黨の十大政綱を實現せしめねばならぬ。

四、蘇維埃人民共和國

最も廣汎なる反日反賣國賊的統一戰線は今日では特に重大な意義を帶びてゐる。これ即ち蘇維埃が中國の多くの地方で勝利を占めたことである。このことは一九二五—七年の第一次大革命時期とは根本から異つてゐる。この九年來、共產黨の指導する蘇維埃運動が中國の多くの地方で勝利を收めたことは、新たなる反帝高潮に基本的勢力を持たしめ、全國人民に對し帝國主義と賣國賊の手から自由解放と獨立を爭取すべき生きた見本を示して希望を持たしめ、最も廣汎なる民族統一戰線をして最も鞏固なる基礎と根據地を持たしめ、またこれを新たなる大革命中において堅持しかつ徹底的勝利を收むべき保證を與へ、國防政府と抗日聯軍をして中心的支柱を得せしめた。

民族統一戰線をして廣大にして强力なる基礎を持たしめるため、蘇維埃工農共和國およびその中央政府は宣言する——自己の政權を改變して蘇維埃人民共和國となし、中國を殖民地たらしむる日本帝國主義に對する反對鬪爭に適合せしめるため、自己の政策即ち蘇維埃工農共和國の政策の多くの部分を改變することを。

これら政策變更は、何よりも先づ蘇維埃は工人と農民を代表するものたるのみならず中華民族を代表するものたることの充分なる表明である。中華民族の基本利益は中國の自由獨立と統一にある。しかしてこの基本利益は蘇維埃の斷乎たる方針の下においてのみ、始めて獲得、保持することができ、これら利益の敵たる日本帝國主義と賣國賊に始めて徹底的にうち勝つことができるのだ。

蘇維埃人民共和國は宣言する——廣汎なるプチ・ブル大衆を自己の周圍に團結せしめるため蘇維埃は一切の革命的プチ・ブル的分子に對して選擧權と被選擧權を與へることを。帝國主義と中國反革命のために打擊を受けた一切の都市農村の小資本商工業に對しては、蘇維埃はその政策と權力によつてできるだけ保

護する。蘇維埃は國民黨軍閥の一切の苛捐雜稅を早くから撤廢し、一切の小生產者に有利な統一累進稅を宣佈した。

蘇維埃人民共和國は宣告する——反日反賣國賊鬪爭に共鳴する一切のインテリ分子は、彼らが國民黨員であると否とに拘らず、また國民黨政府の工作をなすと否とに拘らず、みな蘇維埃政府の優待を享受することができる。蘇維埃は彼らに工作を與へて彼らの失業を救濟し、彼らに文化、教育、藝術、科學、技術天分を發展せしむべき機會を與へる。蘇維埃は、日本帝國主義と賣國賊國民黨政府の驅逐、輕視、虐待を受くる一切のインテリ、文學家、藝術家、科學家、技術員、新聞記者を擁護する（これらの人はすべて蘇區に來ることができる）蘇維埃は一切の革命的インテリ、文學家、藝術家、科學家、技術員、新聞記者（彼らの出身が地主富農たると或ひは資本家たるとに拘らず）に選擧權と被選擧權を與へる。

蘇維埃人民共和國は宣告する——一切の白軍將校（階級を分たず）士兵にして反日反賣國賊を願ふものはみな蘇維埃の優待を受ける權利を有する。國民黨賣國政府により排斥免官され一切の失業軍人に對しては蘇維埃紅軍は工作を與へ、紅軍と行動を共にするものは一應武裝を解除してから官兵たるとを問はず一律に優待する。その負傷せるものは一律に醫療する。一切の白軍官兵にして紅軍に服務せんことを希望し日本帝國主義とその走狗賣國賊の打倒事業に忠實なものに對しては、蘇維埃は選擧權、被選擧權を與へる

ソヴエート人民共和國およびその紅軍は、日本帝國主義とその走狗賣國賊の打倒事業に參加せんと欲する個人、團體、政治派別、武裝部隊に對して提議する——國防政府と抗日聯軍を共に組織しやうではないか。いかなる武裝部隊たるとに拘らず、ソヴエートと紅軍とは彼らと抗日討賣國賊の協定締結を希望する。嘗つてソヴエート紅軍と十九路軍が抗日反蔣協定を結んだのと同樣であるが、當時紅軍はなほ實力をもつて十九路軍に直接援助することができず、十九路軍もこれを積極的に要求しなかつたので、蔣介石の觸進攻を擊破することができなかつた。紅軍は今後、一切の抗日討蔣的友軍に對して出來る限り實力援助を與へ直接作戰を共にして共通の敵を打倒すべき目的を貫撤する。ソヴエート紅軍は自己の勝利と發展を必要とするのみならず、同盟せる友軍の勝利と發展を必要とする。

ソヴエート人民共和國は富農に對するその政策を改變する——富農の財產は沒收せず、富農の土地はその封建的搾取部分を除き、自ら耕すと或ひは人を雇つて耕すとに拘らず、均しく沒收しない。農村において一切の土地の平等分配を實行する場合は富農も貧農中農と同樣の土地を受取るべき權利を有する。

ソヴエート人民共和國は民族工商業資本家に對しては以前よりも一層寬大な政策を執り雙方有利な條件下に、彼らがソヴエート人民共和國領土內に來つて投資し工場商店を開設することを歡迎し、彼らの財產の安全を保護し、中國經濟發展のためできるだけ租稅條件を低減する。紅軍の占領せる地方では、反日反

賣國賊運動にとつて有利な一切の工商業を保護し、全國人民をしてソヴエート人民共和國は政治的自由の地方であるのみならず中國商工業發展にとつて最適の地方であることを明白ならしめる。

ソヴエート人民共和國は海外華僑に對して宣告する——彼らが背れてから中國革命に援助せる愛國的行動を稱贊する。蔣介石などは早くから革命を裏切つたが、ソヴエート人民共和國と全國の愛國人民とは太平天國以來の英勇的事業を繼承し、中國を危亡から挽救し富强隆盛の國家たらしめやうとしてゐる。ソヴエート人民共和國が全國において勝利する日は、華僑の解放される時だ——華僑を奴隸牛馬たらしめる國民黨政府の一切の政策を徹底的に剷除し、華僑に對する積極的な保護政策を之に代へる。日本帝國主義および共他帝國主義によつて排斥驅逐されつつある華僑同胞に對しソヴエートは擁護依賴の權利を與へるとともに華僑同胞の資本家がソ區に來つて商工業を發展せしめることを歡迎する。

これらの政策變更は基本的目的——即ち日本帝國主義とその走狗賣國賊に戰勝し中華民族の自由解放と獨立を實現し革命の全國的勝利を收めんがためである。

これら政策の實行を容易ならしめ、速やかに日本帝國主義と戰をなし、民族統一戰線の指導權を確保するためには、黨とソヴエートとは終始一貫してゐるが、更に努力を加へてこれら政策を民族統一戰線の要求に適應せる政策たらしめねばならぬ。即ち抗日紅軍の擴大、抗日遊擊隊の擴大、抗日根據地たるソヴエート人民共和國領土の擴大、賣國賊軍隊の進攻粉碎、抗日道路の肅清、抗日後方の鞏化、土地問題の徹底的解決、工農大多數の獲得、賣國賊軍隊と日本帝國主義の士兵獲得、少數民族に對する共同鬪爭同盟建立の提議、靈活なる外交政策の實行等である。

紅軍は抗日先鋒隊である。この先鋒隊を擴大鞏化し善用してこそ、反日戰爭の勝利を保證することができる。紅軍を百萬人に擴大するため鬪へ「こいふスローガンは、今日では之を切迫せる危亡挽救の反日戰爭と結びつけねばならぬ。日本帝國主義とその走狗にうち勝つには紅軍を數百萬に擴大することが必要だ。先づ一百萬人に擴大せねばならぬ。特に重要なことは、この任務のため個々の赤色指揮員、戰鬪員、地方幹部、ソヴエート人員のみならず全國の革命的人民が積極的に努力せねばならぬことだ。紅軍の技術の向上技術並びに戰術に關する教育の進步、政治工作の深入と普偏、革命軍事委員會の指導の集中、物質供給の保證、なかんづく正確な原則に一致する戰略並に戰術指揮（進攻の際は冒險主義に反對し、防禦の際は保守主義に反對し、移動の際は逃跑主義に反對する）——これらはすべて敵にうち勝つになくてはならぬ條件である。

遊擊戰爭は全國にわたつて發展せしむべきであるが、先づ日本帝國主義の占領せる區域、およびその附近、賣國賊蔣介石の統治區域、紅軍の抗日根據地とその附近において發展せしめねばならぬ。一切の遊擊隊は民族戰爭の面目をもつて出現し、農民大衆の土地革命としつかり結びつかねばならぬ。反日反賣國賊

闘爭において遊擊隊をして戰略上の偉大な役割を持たしめるため、黨はすべての遊擊隊を抗日根據地（ソ區）の建設者たらしめるとともに一切の遊擊隊をして所在區域において日本帝國主義と賣國賊の統治から脫離せる抗日人民革命政權（縣區鄕抗日政府、革命委員會およびソヴェート）を建立せしめねばならぬ。遊擊隊を迅速に擴大せしめて抗日革命軍たらしめるとともに反日の浪に惹き入れられた青年、學生、革命兵士を大衆的に遊擊戰爭に加入せしめて、黨の指導する遊擊隊を共通の基礎の上に統一せしめねばならぬ

ソヴェート人民共和國の領土、即ち抗日紅軍の根據地を擴大せずば、日本帝國主義とその走狗たる中國賣國賊にうち勝つこと不可能である。賣國賊の統治する土地をソヴェート根據地に轉化してこそ紅軍は依るべきところであり、抗日戰爭には始めて後方があるのだ。ソヴェート領土內における幾多の工作は最後までなし遂げて、正確な政策を實行し、ソヴェート區域を鐵の如く團結せしめて全國人民が羨慕愛護する地方たらしめねばならぬ。

かゝる抗日根據地と人民政權の模範區に進攻せんとする一切の賣國賊軍隊の企圖に對して苛借なき打擊を加へねばならぬ。かゝる反革命的進攻を粉碎破壞することは、抗日紅軍とソ區抗日人民の責任であるのみならず、全中國抗日人民の責任である。黨は全中國、全ソ區一切の抗日人民に對して自己の根據地を保護するため奮闘せよと呼びかけねばならぬ。これら人民に對し賣國賊の抗日戰爭後方搗亂に反對し、紅軍の出路に對する賣國賊の阻止に反對せよと呼びかけねばならぬ。共產黨が革命戰爭を指導するに當つての基本原則の一は、中國の國內戰爭を民族戰爭と結びつけることである。

日本と賣國賊の統治下にある數十萬の工人、農民、士兵、貧民および革命民衆の大多數を起たしめて斷乎闘爭せしめることなくば、日本帝國主義とその走狗賣國賊にうち勝つこと不可能である。黨とソヴェート紅軍が主持する反日反賣國賊の民族統一戰線は大衆がゐる一切の地方に擴大せしめ、一切の大衆闘爭を初級から高級へ、地方から全國へ、日常的な程度から反日反賣國賊の政權および武裝の程度まで發展せしめねばならぬ。ソヴェート人民共和國領土の內外における二種の闘爭を結びつけて始めて日本帝國主義とその走狗賣國賊にうち勝つことができるのだ。

工人階級の大多數を獲得することなくば、日本帝國主義とその走狗賣國賊にうち勝つことは成功不能である。中心城市の主要企業において鞏固なる保壘を建立し、あらゆる合法的非合法的可能性を利用して廣汎なる大衆組織を結成し、具體的條件を考慮して小さな勝利から大なる結果を獲得し、工人大衆を組織しその政治的經濟的闘爭を指導し企業中の幹部の保護教育に注意せねばならぬ。工人大衆の雄厚な勢力を蓄積し、勝負を決する戰闘を準備せねばならぬ。

全中國人口の百分の八十を占むる農民を獲得し闘爭の戰線に參加せしめねならば、日本帝國主義とその

走狗賣國賊にうち勝つこと不可能である。共産黨とソヴエートとは必ず農民の土地要求を滿足せしめることが必要であり、土地問題を徹底的に解決し農村の封建的壓迫を解除するため鬪爭せねばならぬ。かくてこそ數百萬、數千萬の武裝農民大衆を抗日討賣國賊の戰場に動員できるのだ。民族革命戰爭をして永久に盡きざる補充を持たしめるのだ。日本××の對支掠奪の主要對象たる農民をして、掠奪反對の中華民族革命軍に轉化できるのだ。日本の占領區域およびその近接區域においては、先づ漢奸賣國賊の土地財產を沒收に附し農民に分配してから、鬪爭過程中に民衆自身の經驗に基づき鬪爭を深刻化し土地問題を徹底的に解決せねばならぬ。黨の基本原則は土地革命と民族革命を結着せしめることだ。

士兵の援助なくば、日本帝國主義と中國賣國賊の數百萬の部隊にうち勝つこと不可能である。われ等は廣汎なる大衆的基礎の上に立つて士兵に對する工作を遂行すべきである。黨は一切のソ區人民、白區人民紅軍戰士、遊擊隊戰士に對して賣國賊の軍隊を瓦解せしめるために努力せよと呼びかけねばならぬ。亡國奴となるを欲せぬ無數の人たちが、亡國奴たるを欲せぬ數十萬、數百萬の將卒に對して或ひは口頭で勸說し、或ひは親友を通じて招き寄せ、或ひは手紙によつて働きかけ、或ひはスローガンによつて煽動すれば必ずやこれら將卒を感動せしめるであらう。われ等のスローガンは——中國人は中國人を打たず、工農商學兵聯合し中國を武裝保衛せよ、紅軍と白軍聯合せよ、日本帝國主義と賣國賊を打倒せよ、家に歸りたいものには旅費を支給し、耕作を願ふものには土地を分ち、抗日を欲するものは紅軍と義勇軍に加入せしめる等々である。

ソヴエート人民共和國は自分の實踐と眞誠なるスローガンによつて蒙古人、回教徒など被壓迫民族をひきつけてゐる——諸君は自分たちの國家を組織せよ！日本帝國主義と賣國賊はわれ等の共通の敵だ……團結せよ……この敵を打倒せよ。

ソヴエート人民共和國の外交政策は日本帝國主義とその走狗にうち勝つことを基礎とし、日本帝國主義とその走狗に反對する一切の國家、黨派、或ひは個人とさへも必要なる諒解、妥協を遂げ國交を建立し、同盟條約などの交涉を行はねばならぬ。ソヴエート人民共和國とその政府は、目標を擇ばず矢を放つものでなく、ソヴエート人民共和國の抗日救國を自己の利益とする者に對しては、ソヴエート政府に之と友誼關係を結ぶことを欲する。

一切の政策、一切の努力は反日反賣國賊の勝利のためでなくてはならぬ。この目標に相反する一切の者は排斥せねばならぬ——これ即ち共產黨とソヴエートの策略方針である。

五、黨の主要危險はセクト主義である

中國人民の公敵たる日本帝國主義とその走狗たる賣國賊にうち勝つためには、共產黨員は大衆內に深入

し一切の大衆的な民族的闘争および階級的闘争に参加し、かつ指導すべきである——このことの主要な
る關鍵は廣汎なる統一戰線の運用である。廣汎なる統一戰線は最大の力を集中して最も主要な敵に對抗す
ることであるとともに、一面では廣汎な大衆をして彼ら自身の政治的經驗に基づき黨の主張の正しさを理
解せしめ、彼らを黨の旗の下に集結せしめることである。革命指導權の問題を更に深く理解せねばならぬ—
—共產黨が中國革命における指導權を把握するためには、單に黨の煽動宣傳のみでは不充分である。かれら
一切の黨員をして實際行動並びに日常闘爭において彼らが大衆の指導者であることを表現せしめねばなら
ぬ。下層大衆内において如何に工作を遂行すべきか（これは重要だ）を知るだけでは不充分である。別黨別
派および下層大衆と關係ある領袖と談判、協商、妥協、讓歩を如何に實行すべきかを知り、その中の合作
をつづくること可能なる分子を獲得せねばならぬ。動搖欺瞞分子と裏切り分子の面目を大衆の面前に暴露
し大衆の力によつて彼らを叩き出さねばならぬ。黨の指導權獲得は工人階級中で活動する（これは重要だ）
だけでは不充分である。共產黨員は必ず農村、貧民中、兵士中、プチブルおよびインテリ内部、一切の革
命的同盟者の間において自己の活動をつづけねばならぬ——これら大衆の切實な利益のために闘爭せねば
ならぬ共產黨は工人階級の利益の代表者であるのみならず、最大多數の中國人民利益の代表者であり全民
族の代表者であることを彼らに知らしめねばならぬ。大衆のゐる地方でありさへすれば、その地方の指導者

が如何に反動であらうとも、共產黨員はこの地方において革命的工作を遂行すべきである。共產黨員は彼
らが不撓不屈、最も積極的な中國革命の先鋒隊であり、空談抽象的な、共產主義原則の「聖純な教徒」で
ないことを表現せねばならぬ。かくてこそ、共產黨は中國革命の指導權を握ることができるのだ。
廣汎なる統一戰線を更に大膽に運用し、黨の指導權を獲得するため、黨は必ず黨内の「左翼」的セクト主
義傾向に對して斷乎闘爭せねばならぬ。現情勢においては、セクト主義は黨の主要危險である。セクト主
義の來源はつぎの諸點にある。

一、現下の新たなる政治情勢を理解せぬため自己の策略を改變し新たなる情勢に適合せしむべき必要を理
解せぬことによる。

二、黨の基本スローガンおよび基本政綱と現在の行動スローガンおよび行動政綱を實際の行動において結
着せしめぬことによる。

三、根本的な原因は、マルクス、レーニン、スターリン主義を中國の特殊なる具體的條件下において活潑
に運用せず、マルクス、レーニン、スターリン主義を死せる教條たらしめることである。

かゝるセクト主義的傾向は實際上、敵に對する危懼、大衆に對する危懼、自己の力に對する不信を表現
するものであり、かつこれがため廣汎なる統一戰線の策略運用を危懼するものである。かゝるセクト主義

的傾向は實際では左傾機會主義と同樣である。セクト主義を克服せずば、黨は必ずや大衆から浮び上り、中國革命の指導權を獲得すべき任務を放棄するの餘儀なきに至るであらう。故に黨は必ず「極左」的セクト主義に斷乎反對し、廣汎なる統一戰線を大膽に運用し數百萬、數千萬の大衆內に這入り込み若干の誤謬が發生することを怖れず、鬪爭を通じて、大衆指導の藝術を學ばねばならぬ。「左翼」的セクト主義に對する反對鬪爭と同時に絲毫も右傾機會主義に對する反對鬪爭をおろそかにできざること勿論である。右傾機會主義は大衆の切實な利益のための鬪爭を抑壓し、農民の土地奪取の要求、工人、士兵、貧民の待遇改良の要求を犧牲として民族ブルジョアおよび富農の利益と同盟者の部分的利益に適合せしめるものだ。右傾機會主義は民族ブルジョア上層部、プチブル分子および農村富農の政治的影響を受けて自己を彼らの召使ひたらしめるものだ。一九二七年の陳獨秀主義は新たなる大革命において部分的黨部と黨員間に疑ひもなく復活するであらうが、黨はかゝる右傾機會主義に對して斷乎鬪爭するを要する。しかし現在では、「左翼」的セクト主義は黨の主要危險である。現在われ等は右傾に反對するとともに、極左傾向を克服しセクト主義を徹底的に粉碎し、一切の工作に當つては廣汎なる統一戰線の策略を正確、大膽に運用すべきである。黨をして大衆鬪爭に立ち後れしめてはならぬ。大衆をして切實な日常利益のための鬪爭から出發して、中國人民の公敵たる日本帝國主義とその走狗に對する民族革命戰爭の位置まで高めねばならぬ。

六、共產黨の擴大鞏化のために戰へ

中國共產黨が偉大なる歷史的時期に負ふところの神聖なる任務をなし遂げるためには、黨組織を擴大鞏化せねばならぬ。新たなる大革命中において、共產黨は數十萬、數百萬の戰鬪能力ある黨員を必要とする——かくてこそ、中國革命は徹底的勝利を收めうる。

中國共產黨は中國無產階級の先鋒隊である。黨は先づ多くの工人屈農を吸收して入黨せしめ、黨內の勞働者幹部を培養せねばならぬ。同時に中國共產黨はまた全民族の先鋒隊である。故に共產黨の主張のために奮鬪せんとすれば、その人の出身如何を問はずみな共產黨に加入することができる。一切の民族革命、土地革命の英勇的戰士はみな共產黨に加入し、各方面の黨工作を担當すべきである。中國は經濟の落伍せる半植民地と植民地であるから、農民分子およびプチ・ブル出身のインテリが常に黨內で大多數を占めてゐるが、これは中國共產黨のボルセエヴイキ的地位を毫も低めるものではない。事實の證明する如く、かゝる成分の黨は、世界無產階級の先鋒隊たるコミンテルンが課せる光榮ある任務を遂行することができ、困難にも拘らず不撓不屈鬪爭することができる。世界各國の共產黨の中でソ聯共產黨を除くほか中國共產黨は光榮ある先進的地位に立つてゐる。

黨內に發展しつつあるセクト主義的傾向に對して必ず鬪爭せねばならぬ。黨の提出せる主張のため斷乎

闘争できるや否やは、黨が新黨員を吸收するに當つての主要標準である。階級構成は注意すべきであるが主要標準ではない。黨をして一個の共産主義の培養池たらしめねばならぬ。共産黨の主張のため奮闘せんとする多くの新黨員をして、最高の階級意識あるボルセヱヴイキ的戰士たらしむべく鍛錬せねばならぬ。黨内における二つの戰線の闘争と共産主義的教育とはかゝる目的を貫徹せしめる一方法である。思想上および黨のボルセヱヴイキ的一致は、黨の斷乎たる無産階級指導の具體的表現である。積極的な戰闘の必要から出發せずして、恐懼觀念より出發せる組織問題のセクト主義は徹底的に擊破されるべきである。民族革命および土地革命の偉大なる戰闘は、無數の積極分子と大衆の領袖を輩出せしめたし、かつ現に輩出せしめつつある。黨の組織は熱烈なる歡迎の態度をもつて、彼らに對し門戸を開かねばならぬ。黨は若干の投機分子の侵入を危懼することなく、黨はボルセヱヴイキ的政治コースと鐵の紀律をもつて、黨組織の黨化を保證せねばならぬ。黨は非プロレタリヤ黨員の政治水準の不一致を危懼することなく、黨は共産主義教育によつて彼らを先鋒隊の地位に高めねばならぬ。

必ず大量の幹部を養成せねばならぬ。黨は數千、數萬の新幹部をどしどし各方面の戰線に供給せねばならぬ。才能を指導しつつ、あらゆることを教へ込んでから始めて幹部に工作を與へるのではなく、これら幹部を闘争中に學習せしむることが必要である。機械を使用すると同じ態度ではなく、幹部と黨員を使用

し、かつ彼らを愛護信賴し適當な工作を與へ、彼らの天才と自動性を充分に發揮せしめねばならぬ。官僚主義的態度をもつて幹部と黨員に接するのではなく、彼らに任務を解釋說明し工作を具體的に指示し、黨の指導機關と彼らの活動を機械的にではなく結びつけねばならぬ。思想的又は政治的誤謬を犯した幹部および黨員に對しては、輕々しく打擊を與へたり、機會主義の帽子を被せたり、又は輕々しく彼らを處罰することなく、忍耐をもつて何度も何度も說明し教育すべきである。思想上、工作上の誤謬は免れることができない。誤謬は改めることができる。レーニン主義的學習精神と闘争中の經驗および鍛錬は誤謬を改める最良の方法である。黨内における闘争の火力は、かの誤れる觀點を固執し、學習鍛錬を願はず、教育指導を受けざる同志に對してのみさし向けられねばならぬ。一定限度の組織上の結論は、重大なる誤謬を犯し說服の方法なき同志に對してのみ必要である。しかし一切の黨内闘争および組織上の結論は依然として本人および黨に對する教育性質を帶びてゐなければならぬ。かの一貫して誤れるコースを踏む機會主義者に對してのみ、黨は彼らは一時的に誤つたのであるからとて重要な工作を與へてはならぬ。

この偉大なる闘争期に當つて、黨の幹部が黨指導機關をめぐつて固く團結することは決定的な意義を有する。黨が全黨を團結せしめ最廣汎な大衆を民族革命および土地革命戰争に立ち向はしめることは、極めて多數の優秀幹部を紐帶となすにあらずば、不可能である。正しい組織コースと幹部政策とは、黨がかゝ

る任務を完成する前提である。

中國共產黨中央は全黨および幹部に對して呼びかける——黨の策略コースを斷乎實行するため鬪爭せよ統一戰線を全國に運用せよ、國防政府と抗日聯軍を建立せよ、ソヴエート人民共和國を全民族の國家たらしめよ、紅軍を全民族の隊伍たらしめよ、黨を偉大な民衆の黨に轉化せよ、土地革命と民族革命を結着せしめよ、國內戰爭と民族戰爭を聯合せしめよ、神聖なる民族戰爭萬歲、中國の獨立自由と統一萬歲、ソヴエート新中國萬歲！

第五章　中國ソヴエートの新政策に對する批判

中國共產黨の抗日共同戰線政策に伴ふ中國ソヴエート政府の政策變更は各方面に多大の影響を與へてゐるが、これに對して一部中國人は左の如き批判を下してゐる。

◇……◇……◇……

共產黨はソヴエート運動が失敗に歸したので新しい血液を注ぎ込み、新しい生命を見出さうとしてゐる。共產黨の政治的指導者および所謂理論家たちは、失敗の教訓をしみじみ體驗したもの、如く、各方面の政策を變更した。同時に中華民族の危機が愈よ重大化しつつあるに鑑み、「抗日反蔣」統一戰線のスローガンを提出した。なほ戰略を統一し再起を圖るため、この政策を確定するや、ソヴエート政府の政策も變更した。ソヴエート政府の舊看板をぬり換えて、「中華蘇維埃工農共和國」を「中華蘇維埃人民共和國」に改めた。

中共中央北方局の本年三月十日附宣言には、この改名の動機を次の如く述べてゐる——「全國人民の力量を集中して抗日救國の目的を貫徹するため、中華ソヴエート工農共和國は聲明する——國號をソヴエート人民共和國と改めると同時に、民族革命戰爭の要求に適應せしめ、ソヴエート政府が工農の利益を代表する政府であるのみならず全民族の利益を代表する政府であることを表明するためソヴエート人民政府の多くの政策を變更する」これでは共產黨が看板をとり換えた理由は、なかなか大きすぎる！

しかし周知の通り共產軍の割據騷擾は全國人民の力量を分裂せしめ、抗日救國の大計實現を妨害する主要原因である。共產軍が徹底的に武裝を解除されることを欲せず、軍事的割據の狀勢を放棄しないならば看板をとり換えても全然無駄だ。民族革命戰爭はたゞ一種の武斷宣傳だ。周知の通り共產軍は國力を捐耗し、全民族の利益を侵害するのみならず、長期にわたり反逆擾動をなし勞働者農民の生活をして愈よ惡化せしめてゐる。以前は工農を看板にしてゐたが、勞働者農民が何らの御惠みにも預らぬうちに、なんと今

日では民族云々によつてボロをかくしてゐる。わが四億同胞はもう共産黨の被害にはコリコリだ。湯を換えただけで藥を換えなければ、なんにもならぬ

勿論かゝる共産黨の術策は偶然的な、或ひは無意義な行動ではなく、中共政策の歷史的發展の必然的結果である。共産黨の理論家陳紹禹は一文を草しこの問題に觸れた。彼はいふ——「滿洲事變勃發直後、共産黨は民族獨立、領土完整、國家統一のため日本帝國主義に對して武裝人民の民族解放戰爭を組織せよとのスローガンを提起したが、このスローガンは實踐によつてその正しさが證明された。しかしこの事業におけるわが黨の根本的な欠陷並びに誤謬は第一にわれ等が反帝統一戰線の戰術を見るに、その戰術によつて民族解放戰爭に關するわれらの凡ゆる政治的スローガンが實現できるところの唯一かつ主要な戰術的手段として見なかつたことであり、第二に、反帝統一戰線の戰術を工作並びに鬪爭の全分野においてわれらの一切の鬪爭と結びつけることができなかつたことである」故に、彼は「ソヴエートは解放鬪爭における全中國人民の團結中心として登場せねばならぬ」と提議してゐる。

しかし實際は、共産黨の根本的誤謬は常に統一戰線を破壞し、統一戰線を口實として獨特の利用操縱を遂げんとするのみで毫も救國の誠意がなかつたことである。ソヴエートは、實際は全民族が共に築つるところである。共産黨の方でも、ソヴエートの破産がそのすべての運命に影響することを痛感した結果、政

策を變更し新しい陰謀を實施せんとするのである。故に、彼らはいふ——「ソヴエート區域における われらの政策は、われらの實際工作の表現であり、全中國および全世界の注意を惹きつけ、中國社會並びに全世界の各階層のわれらに對する態度を決定する例證である。故に最廣汎なる反帝統一戰線の結成に成功するか否かはソヴエート區域におけるわれらの政策に依存する」

さて、われらはソヴエート政府の政策に如何に變更されたかを見やう

一、土地政策

土地と農民の問題は中國革命の基本問題である。共産黨はかつて中國革命は土地革命と反帝革命の二大潮流が合流して成つたものであると稱し、早くから土地政綱と土地法を制定し、江西一帶のソヴエート區域で强制的に實行した。しかしその結果は、弊害續出、混亂に混亂を加へ、土地問題は却つて尖銳化し農村は一層破産するに至つた。かゝる土地政策は勿論變更せねばならぬ。故に、共産黨は現在主張してゐる「封建的殘存物を根絶するための政策を實施するとともに、出來るだけ廣汎な反帝統一戰線を結成するため、われらの政策は次の如く改められねばならぬ。

第一に、家內工業者、職人、敎師、小商人および自分で土地を耕さずと雖も、その所有地を以前自分の勞働收貸によつて購つたところの若干の勞働者の土地は沒收してはならぬ。勿論負債勞役的條件によつて

ではなく今後とも小作地として貸出すことを彼らに許すか、或ひは農民大衆の要求によつて彼らの土地が分配に附される場合は政府は土地價格を所有者に支拂はねばならぬ。第二に、富農の所有する所謂過剰農具並びに土地も沒收してはならぬ。農民の基本大衆の要求に基づき土地を均等分配する場合は、富農の耕地は沒收に附さねばならぬが、富農は共通の條件によつて土地の分配を受けねばならぬ。第三に、抗日救國の武裝鬪爭に實際參加する軍人兼地主の土地は沒收してはならぬ。第四に、大地主を兼ねる商人に對しては彼らの土地のみ沒收し、しかし商業企業に手をつけてはならぬ」

共產黨が江西で失敗した原因の一は、ロシヤ共產黨の富農政策を機械的に持ち込んだことであつた。露支兩國の社會經濟條件の差異を研究しなかつたので、中國富農の性質に對してハツキリした認識を持たなかつた。このことは共產黨內部で多くの爭論を惹き起した。また大いなる謬誤が發生した。即ち富農を地主と見なし、富農な中農を富農と見なして、富農階級を消滅せんとする政策を餘り早く實施したことはやや富裕な地方農民をして戰々兢々たらしめた。故にソヴエート運動の社會的基礎は大々的に縮少した。かゝる失敗の敎訓により共產黨は第一次全國ソヴエート大會を通過せる富農政策の變更を餘儀されたのである當時彼らは「中國富農の特殊性は彼らが地主或ひは高利貸を兼ねてゐることである。彼らの土地も沒收分配すべきである。中農の土地は沒收するに及ばぬ。富農はその土地を沒收されてから、反革命活動に參加せず土地を自ら耕作するならば、勞働規準に應じて惡質の土地の分配を享受することができる」（中華ソヴエート工農共和國土地法第三條）と思つてゐた。かゝる政策は實際のところ行政的暴力手段によつて「富農階級」を消滅するも同樣である。彼らの土地が沒收され、存在の經濟的基礎を失ひ、主要なる生產手段を奪はれて而して沒收された後は「反革命活動に參加する」ことが許されず、もし參加すれば惡質の土地さへ手に入らぬからだ。あんまり「富農」を馬鹿にするものぢやない。彼らの生活を不可能にする一方、反抗を許さず存分に壓迫する。「階級鬪爭史」上にこんな奇蹟は又とないであらう。

かゝる政策を實施した結果、富農と富裕な中農とは、ソヴエート運動にとつて不俱戴天の敵となつた。共產黨が農村で杖とも柱とも賴む「農村プロレタリヤ」（貧農）および半プロレタリヤ（貧農）は孤立的狀態となつた。敵を多くつくることは戰術上、極めて不利である。共產黨が現在富農政策を變更したことは惡意心ではなく、また過去の富農に對する認識を完全に否認したのでもない。これは、一種のその日暮しの方法によつて、富農中農を籠絡し以つてソヴエート運動の反對勢力を減少し赤色運動を擴大し政治的野心を達成せんとするものである。故に新政策は「富農の所有する所謂過剩農具並びに土地を沒收してはならぬ。……富農も共通の條件によつて土地の分配を受けねばならぬ」と規定してゐるが、しかし「農民の基本大衆の要求に基づき土地を均等分配する場合は、富農の耕地も沒收に附さねばならぬ」のだ。かゝる「沒

牧」は共産黨が所謂「階級路線」の下に民意を犧牲に供するのと何ら異ならぬではないか。

きして、共産黨の所謂「富農」は或る場合は全く感情によつて決定され、「餘つた錢と米を持つてゐるのは富農」だといふ理論もある。故に、ソヴェート區域の人民は、たゞ飯の食へぬものだけが革命の對象でない。なかんづく「査田運動」中には、多くの農民は自分は貧農であるが、彼らの祖父或ひは曾祖父が小作料を取つたり金を貸附けたり、或ひは雇人を使つたりしたため、彼らも富農にされてしまつた。査田運動の際、五代を調査するのは本當に殘酷である。元來、中國各地農村の事情は異なつてをり、殊に土地關係は極めて複雜である。各級農民の區別は何を標準とするか——これは共産黨が今日まで理論的にも實際的にも解決することのできぬ問題である。

張ひて分別すれば徒らに農村の大混亂と相互鬪爭、內輪揉めを惹き起すであらう。共産黨が消滅するとしても、死せる數千數萬の人々、絶生苦しむ農民にはなにをもつて謝すべきであらうか？筆者は單に一富農のためにブツブツいつてゐるのぢやない。

次に、土地關係における封建的殘存物の肅清については、共産黨はその土地法に嚴重規定した——「封建地主、豪紳、軍閥、官僚、僧侶および他の大物持ちの所有する一切の土地は自ら經營すると或ひは賃貸するとに拘らず即時無代價にて沒收す。ソヴェートは沒收された土地を貧農、中農に分配す。沒收された土地の以前の所有者は如何なる土地の分配を受ける權利も持たない」（土地法第一條）

かゝる政策は原則的にはなほ以前のまゝであり、共産軍勢力の及ぶところでは嚴しく實行されてゐる。しかし「できるだけ廣汎な抗日共同戰線を建立するため」大風呂敷を擴げて一條の活路を殘した。即ち「現に抗日救國の武裝鬪爭に直接參加する軍人兼地主の土地は沒收しない」のである。

共産黨はかゝる補充をなすことによつて一切は抗日救國を最高原則とすることを表明せんとするものである。と同時に、他方一九二五—七年の大革命の歷史的教訓を受けたものである。武漢政府當時、革命軍人が前線にあつて勇敢に戰つてゐたとき、共産黨は却つて兩湖一帶の後方において農民を煽動して革命軍人の家族を打ち殺し、彼らの土地財産を沒收したので多大の反感を惹き起し反帝反封建軍閥の聯合戰線は分裂するに至つた。當時共産黨勢力はまだ小さかつたので「一時的部分的失敗」を喫せざるを得なかつた。

職人、敎師、小商人および一部工人の土地は沒收せず彼らの賃貸繼續を許可するか或ひは政府が代價を拂つて買上げることに變更したのも多大の底意があつてのことである。故に、陳紹禹は特にこの問題を解釋してゐる。彼はいふ——「かつて若干のソヴェートは法令を頒布し『自己の勞力によつて耕作することなく土地を貸出し小作料を取立てる土地所有者のあらゆる土地を沒收』すべきことを主張したので一部のプ

チブル、甚しきは個々の勞働者の土地さへ沒收されたし」しかして、かゝる政策を實施した結果「經濟的地位においても社會的地位においても斷じて地主階級ではなく、ブチ・ブルに屬する」自由職業者、敎師、醫師、學生、小商人、手工業者たちをして、すべて反共產主義陣營に赴むかしめた。これは共產黨にとつて大打擊である。この不利なる局面を挽回するため、共產黨はその政策を變更し客觀的條件に適應せしめざるを得なかつた。共產黨員は、なかなかどうして融通が利くのだ。

これを要するに、土地政策の變更は、一面では中國の國情に適應せしめるとともに他面では共產黨の反帝統一戰線に結びつけんとするものである。土地平均分配、一切の封建的殘存物の肅清、土地國有の實現の如き共產黨の基本的土地政綱はなほ放棄を聲明してゐない。「中國ソヴエート政權は封建制度の消滅、農民生活の徹底的改善を目的としてゐる。土地法を頒布し一切の地主階級の土地を沒收して貧農、中農に配給すると同時に土地國有を實現することをもつて目的としてゐる」（ソヴエート共和國憲法大綱第六條）故に共產黨が現在その政策を變更したことは、たゞこの目的を達せんがための策略的手段である。陳紹禹はいふ——「ソヴエート政府は中國における封建的地主的土地所有を徹底的に根絕せんとする共產黨の原則的立場を放棄するを得ないのみならず所與の主觀的客觀的鬪爭條件に從つてこの原則を實現すべく鬪爭する」これによつて、共產黨はすでに農村赤化を放棄し日とともに「右傾」化してゐるとの迷信を持つ人は目を

醒ますことができやう。

二、商工業政策

「紅軍への物資供給を保證し人民大衆の生活狀態を改善するためには次のことが必要である。第一に、大衆的合作運動並びに政府企業を發展せしめるため凡ゆる手段を講ずるのみならず個人資本による商工業發達を奬勵せねばならぬ。第二に、自由貿易および工業の發展を制限阻礙する若干の條例を修正せねばならぬ——即ち商業團體に對する態度を改めねばならぬ、ソヴエート區域と非ソヴエート區域の貿易關係を發展せしめるため彼らを利用せねばならぬ。第四に、個人商業並びに工業の發展を自由ならしめるため、租稅政策を再檢討せねばならぬ」——これは、共產黨の新しい商工業政策の主要內容である。

中國共產軍が割據する區域は、經濟の發展が極めて後れたところである。小規模の個人資本による商工業があるのみである。しかし共產黨は「マルクス主義の原則に基づき」これらの企業を資本主義企業と同一視し、みだりに監督管理制度を施行し、勞働保護政策を實行したので、苛捐雜稅は異常に苛重である加之、數年にわたり內戰が續いたので、發展の方法がないのみならず、現狀を維持することも不可能であつた。個人資本による企業は續々として破產、閉業、休業するに至り所謂「國營」企業も種々の關係か

ら、完全に經營不能となり失業者は愈よ增加した。同時にソヴエート財政は、これがため愈よ窮迫を告げた。最後には、貧富の區別も消滅して、どうとも仕樣がなくなり、圖らずもロシヤの「軍事共產主義清算」の悲劇を共產軍が中國で繰り返すに至つた。共產軍の失敗は當然の結果である。かゝる事情は、共產黨をして「一步進んで二步退く」ことを餘儀なからしめ、終には「商工業資本家に對し更に寬大な政策をとり彼らの財產は一律に沒收せず保護を加へ、彼らの租稅を引き下げ抗日戰爭にとつて有利な商工業の發展に援助する。雙方とも有利な條件の下に、非ソヴエート區域の資本家がソヴエート區域に來つて工場、鑛山を開設することを歡迎する」（共產黨中央北方局の宣言）ことになつた。

故に、共產黨はソ區內の個人資本の「保護」を表明してゐるのみならず、外部の資本家を惹き入れて滿目荒涼たるソ區を繁榮せしめんとしてゐるのである。これは失敗後における一種の絶望的企圖である。なぜなら、一切の商工業の發展は、一定の條件を必要とするからだ。即ち、第一に政治的安定が必要であり一般商工業者をして平和的經營の信念を持たしめねばならぬ。ソヴエートは最早、商工業者がやゝ遠い後方において商工業に從事することができる江西の如きやや鞏固な根據地を持たず、現在のソヴエートは多くは遊擊區的性質のもので、何時でも戰時狀態にあり、斷えず破壞が續けられてゐる。こんな具合で、なほ商工業の發展ができるといふのか？

第二は、社會的平穩である。ソヴエート區域では、「階級鬪爭」が白熱化し、人々はお互ひに殺し合ひ、極端な恐怖の世界を現出してゐる。健者な若者は部隊に繰り入れられ、これがため生產は荒廢してゐる。物持ちは屠殺されなければ、すでに外部に避難してゐる。誰が生命の危險を顧みず算盤の合はぬ商工業に從事するものか？故に、社會の混亂は、終に社會の富財の普偏的貧窮を釀成してゐる。經濟的危機は深刻化するのみで、農村の苦痛は永遠に解除することができない。

第三は、充分な資本を持つてゐることが必要である。農村が破產し金融が枯竭せる現在、農村における小規模商工業は最も不景氣である。まして、共產軍の占領する地域の大半は邊僻な田舍であり交通も不便特に陝北の貧弱は有名であり、度々飢饉に襲はれ、餓死者續出の有樣である。四川省西北部は高山峻嶺物產に乏しく、以前から農產物が不足してゐるところへ共產軍がやつて來て洗ひざらしに掠奪したのでどの家もみな空つぽになつてゐる。原始的資本の累積たる地下埋藏の現金も既に掘りつくされた。市場に流通してゐる硬貨も極めて少額であり、血液が涸れたやうな有樣である。これで、どうして商工業企業をうるはすのか？

ましてや、共產軍が掠め取つた現金は共產軍が常に「移動」してゐるので、その地方の生產に用ひられぬのみならず、その地方で必ずしもみな消費されない。かくて現金は二度と返らず、二度と蘇生しない有

様である。これで、どうして商工業が發展できやうか？

第四は、取るに足る市場を有することである。ソヴエート區域では百業蕭條、人民はまるで購買力を持たない。即ち鹽、砂糖、綿布のやうな生活必需品でさへ、すでに買ふことができないのだ。

他は推して知るべしである。市場の範圍が斯くの如く狹小である以上、商工業の發展は勿論不可能である。共産黨は聲を潤らして民衆の生活狀態を改善すると叫んでゐるが、ソヴエート區域の民衆は現在でも依然として悲慘極まる非人的生活を送つてゐるではないか？市場の停頓も推して一班を知ることができる

第五は、一定の利潤を得る可能性があることだ。ソヴエート區域内の現金はすでに根こそぎに掠奪されソヴエート政府の發行する紙幣は實際的價値を持たず、また一定の擔保がなく、强制的に通用されてゐる。共産軍が一旦敗走すれば、その紙幣は紙屑同然である。しかして、ソヴエート紙幣はソヴエート區域以外には通用しないので、ソ區内で商工業を經營する「資本家」は硬貨或ひは法幣で外部から商品原料を買入れねばならぬのに、代りに得るところはこのソヴエート紙幣のみである。よつぽどの馬鹿でない限りは、こんなことはやるまい。加之、討伐軍は嚴しい經濟封鎖を實行してゐるのでソヴエート區域の對外貿易は極めて困難を感じてゐる。ソヴエート區域の物品は、昔の江西省のアンチモニー、紙、茶のやうにソヴエート區域から運び出して現金に換えることができない。故に、市場は調整の手段がなく、ましてや、ソヴエート政府は僅かに殘存する商工業に對して戰時稅を取立てゝゐる。かゝる經濟外的搾取は、商工業者の興味を殘さず消滅せしめてしまつた。共産黨の牛馬となるに甘んじない限り誰が苦しい目に遭つてまでソヴエート區域の商工業を發展せしめるものか？上述せる種々の困難は、通り一遍の宣言で解決できるものではない。

三、勞働政策

これは、共産黨の最も好んでいぢくり廻すところであり、多くの誤謬を犯した。故に變更せざるを得なかつた。「勞働者と層農の物質的文化的狀態並びにその權利を全般的に高めるためには第一に、ソヴエート區域の現情勢においては實現不可能又は經濟破綻と失業を增大せしめるが如き過度の要求を放棄せねばならぬ。第二に、未だ條件の備つてゐないところの所謂『生産の勞働者管理』を制限せねばならぬ。」

共産黨の勞働政策の誤謬は「階級鬪爭」の理論に源を發する。狹隘な階級觀念は、あらゆる民族利益を破壞する主要原因である、ソヴエート運動が愈よ沒落せる原因は、共産黨が階級鬪爭を主張したゝめである。中華民族の主要な敵は日本および一切の帝國主義であるから對外的には民族的解放を獲得すべきであるが、共産黨は却つて民族を分裂せしめ兵力を對内戰爭に集中し、中華民族をして貧窮に陷れ、苦しい生活を餘儀なくせしめた。故に、社會的解放の獲得は工人のみならず大多數人民の共通要求である。國民黨

の民生主義は、かゝる社會的解放の網領であるが、共産黨は社會的解放を小部分の人民に縮少してゐる。この錯誤な政策が幾多の誤謬を犯し失敗を繰返すのは當然である。共産黨の勞働政策は、ソヴエート區域では事實上プチ・ブル壓迫の手段となり貧農的貧窮と大衆的失業の現象を釀成した。「階級對階級」の路線を根本から放棄することなくば、一切の枝葉的變更は實際のところ何にもならぬ。

四、その他の政策變更

「ソヴエート共和國憲法を改修して民主々義的自由を擴大し現在の抗日鬪爭における階級力の相關々係に適應せしめるとともに新政策に適應せしめねばならぬ」。故に、「勞働者、農民、紅軍兵士、勤勞階級に對して公民權を與へるのみならず、一切の都市プチ・ブルを始め抗日救國鬪爭參加者に對して同樣な權利を與へねばならぬ。同時に勞働者は選擧制度における彼らの特權を維持すること勿論である」。かゝる變更はソヴエート共和國を裝飾して「人民共和國」となし、共産黨の暴力的寡頭政治を更に巧妙に掩ひかくすためである。所謂民主々義的自由を擴大して共産黨の少數獨裁を取消すことなく、所謂公民權を一切の市民に與へて「勞働者の選擧制度における特權」を放棄せず、以つて共産黨の操縱を便ならしめんとするのである。このこと、ソヴエート共和國憲法大綱第二號の規定とは表面的差別あるのみである。

ソヴエート政府の政策變更の第二點は「非勞働者を適當にソヴエート機關の工作に參加せしめて革命の

利益になるよう彼らの經驗、方法、學問を利用(例へばソヴエートの商工業部門の工作に商人、工業家を參加せしむる如し)せねばならぬ」といふのである。共産軍は所謂非勞働者に對して屠殺政策を採り到るところで無暗に人を殺したので、大いに人心を失つた。この政策變更は共産黨の屠殺政策の破産を證明するだけである。「天下は殺人を嗜まざる者のみ、能くこれを一にする」。共産黨は本當にこの覺悟を持つてゐるか?

政策變更の第三點は「ソヴエート政權に對してゝはなく帝國主義とその走狗に對して戰ひつつある一切の非共産主義政黨、團體、社會的大衆的組織に對して民主々義的自由並びに權利を與へねばならぬ」といふのである。これは、共産黨が主張する各黨各派の抗日大聯合戰線の策略に「適應」せしめんとするものであり、共産黨が黨派的偏見を放棄したのでもなく、必要であり可能であるときは、これらの黨派を消滅せんとする野望を放棄したのでもない。かゝる術策は、眼さきの利く人なら直ちにわかるであらう。甘んじてデクの棒となり共産黨要人の前に頭を下げる陳銘樞などが自己の政治的野心のため共産黨と共謀して黨國に危害を加へんとするほか、誰が共産黨の誘ひに乘るものか?

政策變更の第四點は——「抗日救國のためにソヴエート並びに紅軍と共同して戰ひつつある民族革命的黨派或ひは團體がソヴエート機關に代表を參加せしめることを不可能ならしめてはならぬ」といふのであるが、かゝる變更の眞意は、多くの者に共産黨の「黨國殃民」の罪を分擔せしめんとするものである

政策變更の第五點は「紅軍の勞働者農民を主とする階級構成を維持し、共産黨員の軍事的政治的指導を確保しさへすれば民族革命運動に參加せるブチ・ブル青年(主要なものは革命的インテリゲンチヤー、學生、勤務員など)が抗日救國共同鬪爭のために紅軍部隊に加入するも差し支へない」といふのである。これは即ち、誰か他のために砲彈の餌食になれ、しかし操縱指揮の權は他のものだといふのと同樣である。人を魚肉として・我を刀俎とする——これは共産黨の政治哲學である。

五、外交政策の變更

ソヴエート政府の外交政策は一は外國列强に對するものであり、一は國內の「各種の色彩の政府」に對するものである。對外的には對日抵抗に力を集中し、其他の列强との妥協を辭せぬことは、或ひは「遠交近攻」の策略であるといふものもあるだらう。對內的には共産黨は、「分化政策の實行」をモットーとして挑撥離間を行ふのだ。「最も有効な手段は、軍閥間の內部的戰爭を促成し紅軍をして一層速やかに、一層容易に勝利を得せしめることである」(陳紹禹の言葉)

「對日抵抗」のスローガンは、共産黨によつてすでに數年にわたり叫ばれたが、しかし彼らは大童べになつて自己の實力を保持し、國民黨政權を顚覆せんとし、到るところで政府の對外行動を牽制し、逆に國民黨は不抵抗政策をとつたと罵つた。「一切の內戰を停止せよ」といふスローガンは聲高く叫ばれた。しかし共産黨は反つて內戰を希望し、實際のところあらゆる方法によつて內戰を促進してゐる。天下が亂れずば自己の野心を遂げ難いからである。

共産黨の「一切の內戰を停止せよ」といふスローガンは對共戰爭を停止せよといつてゐるだけであつて彼らは各派軍閥の南京政府に對する戰爭を「客觀的には革命的意義を持つ戰爭」であると見なしてゐる。西南派が抗日を名義に兵を湘贛に出したことは、全國人民の共に憤激するところであるが、共産黨は却つてこれを喜んでゐる。共産黨員は、少しはまだ良心を持つてゐるのか?

これがソヴエート政府の新政策である。

共産黨の指導するソヴエート運動が完全に行詰つゝ沒落しつつある原因は、以前からの看板の不適當或ひは個々の政策の誤謬にあるのではない。根本原因は中國の國情を顧みずロシヤのソヴエート運動を踏襲したことにある。第一に、革命前のロシヤは帝國主義國家であつた——ツアー帝國は對內的には「人民の監獄」であり對外的には「國際的憲兵」であつたので、その內外矛盾は極めて尖銳化し、社會革命の成功を容易ならしめた。しかるに、中國は半植民地國家であつて、その革命政府(南京政府を指す——編者)は內は封建軍閥の牽制を受け、外は列强の壓迫を受けてゐるので、民族革命を實行してのみ救はれるのである第二に、ツアー帝國の工業發展は、比較的有力な勞働大衆を形成したが、中國々民經濟は今や完膚なきま

でに破壊され、なかんづく民族工業は脆弱幼稚であつて、勞働者は三百萬に滿たないので、共産黨は有力な「階級的基礎」を持たない。

第三に、ツアー露國の農村分化と土地集中の情況は、中國農村とは比較にならぬほどである。露國農村には大地主が多いので大地主經濟が優勢を占めてゐるが、中國農村には小地主が多いので小地主經濟が優勢を占めてゐる。故に、ロシヤのあらゆる農民は均しく貧困失地の苦境に陷り、地主制度の根本的顚覆を欲した——その時、ボルセヴイキがこれら農民を指導して經濟的にも肉體的にも少數の大地主を消滅せしめた。中國の小地主は人數が多くて廣く分佈しロシヤの大地主が完全に生產から離脫してゐたのとは遠つて農民と密接な關係を保つてゐるので對立があまり表面化してゐない。

なほロシヤ富農は高利貸をやつて極度に搾取したので、貧農と雇農とは深く富農を憎惡し、ロシヤ農村における反富農鬪爭が發生するに至つた。中國の富農は、大抵は生活がやゝ富裕なだけであり、自分で依然として勞働してをり、金貸しは主要な現象ではない。當時ロシヤ農村には二種の社會的矛盾が存在してゐた——即ち一はすべての農民の封建地主に對する鬪爭であり、一は農村プロレタリヤおよび半プロレタリヤ（雇農および貧農）の農村ブルジョア（富農）に對する鬪爭であるが中國農村における矛盾はこれと完全に異なつてゐる。ボルセヴイキは第一の矛盾を利用して全農民に呼びかけ、ブルジョア民主々義革命を實行し、ツアー專制政府を打倒した。なほ第二の矛盾を利用して、貧農と雇農を組織し社會主義革命を遂行しケレンスキー政府を打倒した。

中國共產黨は現在でもなほ土地革命の對象をハツキリ認識してゐない——その土地政策は再三誤謬を犯し再三改められた。このことは、農民の革命力を疲勞せしめたのみであつて、農民は共產黨の政策の犧牲品となつた。ロシヤ農民は共產黨の政權奪取の聯盟軍であつたが、中國では農民が共產黨の主力となつた。この散漫無組織の一群を基礎として單獨で「中國革命」をなし遂げやうとしても絕對に不可能である。

四、ロシヤ共產黨の政權掌握は、二つの首都——莫斯科とペテルグラードにおいてプロレタリヤの大多數を獲得するとともにツアー政府軍隊の部分的寢返りを實現せしめて先づ敵の要害を扼し全國政治經濟の中心命脈を握つたのであつた。中國共產黨のソヴエート政權樹立は、遊擊運動を出發點として大局に影響なき邊僻な地方から着手するので、ロシヤの共產黨革命とは全く正反對である。

五、ツアーロシヤは統一的國家であつたので、中心が動搖すれば全局に影響したが、中國では今日でもなほ本當の統一がなく、各區域における政治經濟の發展は極めて不均衡である。このことは、國內政治の矛盾を利用し內戰を促成すべき機會を共產黨に與へ、各個擊破の策略を實施し或る一地方に割據することを

可能ならしめる——しかし、この「優點」は正しく共產黨の弱點でもある。なぜなら、それは共產黨の軍事行動をして全國に影響を與えることを不可能ならしめるとともに一つの境界を越へると一の新しい敵に逢ひ、この敵と戰つてゐるとき、他の敵はすつかり準備を整えるからだ。故に共產黨は常に一部分の領土を占領することができるのみで、得たところの陣地を長期間にわたり鞏固ならしめることが不可能である。と同時にこの陣地を基礎として新しい區域をうち開くことができなかつた。四川、陝西に竄入して若干の根據地を奪取したが、以前の根據地たる江西一帶の巢窟は放棄せざるを得なかつた。「一省或ひは數省の首先的勝利」は終に實現しなかつた。

六、ロシヤ共產黨は世界大戰によつてツアー政府と列强の精力が著しく消耗した時、人民の戰爭嫌惡氣分を利用して俄倖にも政權を掌握した。中國共產黨は未だその時を得ないといふべきである。

七、ロシヤ革命の成功は、比較的强固な政黨と多くの天才的な領袖が存在したことによるものであるが、中國共產黨は組織的にも政治的にも極めて幼稚である。彼らはレーニンの出現を希望したが、陳獨秀、瞿秋白、向忠發、李立三、秦邦憲などが出現したのみで、一代一代とレベルが低くなつた。陳紹禹と毛澤東と一緒にしても、なほ半人のレーニンにも足りない。組織は愈よ動搖し政治的破產が益々近づいてゐる。こんな政黨が失敗するのは當り前だ。共產黨の指導下にあるソヴエート運動の前途は極めて暗澹としてゐる

最近瓦窰堡の巢窟も攻め落されたとのことであり、ソヴエート革命成功など正に前途遼遠であるが、毛澤東などの「英雄好漢」は一體どうしてゐるだらうか？ソヴエートの運命は肺病第三期の毛澤東と同じく誠に頼りない。

第六章　中國共產軍の現狀

朱德、毛澤東麾下の所謂「中央紅軍」が江西を放棄し空前の大行軍を開始してから、すでに二年近くの時日が經過した。この約二年間における共產軍の動靜を次の三段階に分けて觀察しやう。

第一段階は一九三四年秋の江西撤退から本年二月下旬の山西進入までゞある。その期間は約一年半……

第二段階は毛澤東、徐海東の率ゐる陝北共產軍の山西進入から本年八月末までゞある。

第三段階は陝北共產軍が陝西、寧夏、甘肅邊境に移動し、一方本年五月西康にて合流せる朱德、徐向前賀龍、蕭克の共產軍が四川西北の松潘地方を經て本年八月上旬甘肅の岷縣附近に到着し毛澤東、徐海東部隊と將に合流し北上抗日の第一目的を達成せんとしてゐる現在——即ち共產軍各部隊の甘肅集結から始まる共產軍の再關進時代である。

第一段階は共產軍にとつて未曾有の苦難時代である。蔣介石の殘酷な包圍政策に堪りかねて中央ソヴエ

ート區域を放棄し第四方面軍との合流まで約八ケ月間にわたつて「爆撃機の襲來を避けるため專ら夜間又は豪雨中に行軍し、必要とする糧食、軍械を持たず、渡河手段を持たずして大河川を突破し、大山脈を踏み越え」「十二ケ省の境界を突破」して「江西より四川に至る五千餘粁の大行軍」を決行した。

この時である——外部では、共産軍は「コミンテルンの指令」により「國際路線を打通」するため、即ち外蒙か、新疆か、ソ聯の勢力圏内に逃げ込んで餘命を保つために、命からがら敗走を續けてゐると傳えられたのは——なほ、昨年夏一旦合流した共産軍が秋になると再び分裂し、毛澤東のみ松潘地方から甘肅に入り、朱徳、徐向前などは天全方面に逆戻りしたのは、毛澤東が「ソ聯勢力と接濟し捲土重來を期す」ため飽くまで北進すべしと主張し、徐向前、張國燾などがこれに反對したためであると傳えられた。つまり毛澤東部隊が中央部隊から離れて單獨で甘肅に入り更に陝北に向つたのは「赤匪首領の喧嘩別れ」のためであると傳えられた。

これらの認識不足內至逆宣傳は本年二月、陝北共産軍の山西進入によつて完全に粉碎されてしまつた。第二段階における共産軍はその政策、その實力に對し再評價すべき必要を、われ等に痛感せしめた。「共産軍は眞實の抗日勢力であり、侮り難い實力を持つてゐる」——中國の一般民衆はハッキリこのことを知つたものゝやうだ。

しかし共産軍は間もなく山西から陝北に引き返し、更らに陝北をも「放棄」して甘寧邊境に向つた。山西進入とは、まるで逆コースである。これは何のためか？

一方、本年夏西康で合流した朱徳、徐向前、賀龍、蕭克共産軍は七月下旬四川西北部に出現し昨年秋の毛澤東の北上コースを辿つて岷山々脈を踏み越え白龍江を渡り八月十日頃先鋒三千餘名が甘肅の岷縣に到著した。

この部隊と甘寧邊境の毛澤東、徐海東部隊の合流を阻むものは、すでに西蘭公路あるのみである。かくて第三段階が始まる——上海大公報(八月二十四日附)は「新動向」と題して最近の共産軍動靜を左の如く論じてゐる。

最近朱徳、徐向前、蕭克、賀龍、毛澤東、彭徳懐などの共産軍——一部隊(毛澤東、徐海東麾下の陝北共産軍)は陝北から、他の一部隊(朱徳、徐向前麾下の川康共産軍と賀龍、蕭克麾下の紅第二、第六兩軍團合流部隊)は四川から、それ〳〵西北に侵入した。その狀況には注意すべきものがある。以前、共産軍は中原の戰鬪によつて擴大されたが、過去現在および將來の情勢を印づけて、國民の參考に供しやう。

中國共産黨の中央軍事勢力は、討伐軍の經濟封鎖政策のため敗北し、餘儀なく七、八年間にわたり辛苦經營せる江西の仙霞嶺附近の根據地を放棄し、中國歷史上空前の大規模なゲリラ戰法によつて南嶺の山岳地帶、湖南、貴州、雲南、川康邊境を經て西北高原に入つた。共産軍の最初の目的は四川にあつたが、四川の爭奪に失敗したので昨年夏松潘北方の毛兒蓋にて會議を開き新たに方針を決定した。當時共産軍の中央政治軍事幹部たる毛澤東、彭徳懐などは甘

前、陝西に向つて北上、劉子丹と合流して國際勢力との連絡を圖るべきであると主張したが、張國燾、徐向前などは飽くまで四川獲得を放棄せず、暫く西康に據つて時機を待つべきであると主張した。よつて意見の對立から遂に分裂し、毛澤東、彭德懷は北上し、張國燾、徐向前は西康に入つた。

今年の春、夏には陝北方面にも、西康方面にも相當の變化があつた。これは昨年秋の終り頃の情勢である。西康方面では、蕭克、賀龍が川、黔、湘、鄂邊區から貴州、雲南を經て西康南部に入り、張國燾、徐向前、朱德などと協力して、西康に「西南民族革命根據地」を建立すると自稱した。陝北方面では北支外交の危機に藉口し「山西を通過して日本に對抗」せんとした事件があつた。最近の事態を見るに、山西に進入した部隊は陝北に引返したのみならず、陝北を放棄し、西進して甘肅、陝西、寧夏邊境に到着した。西康共產軍は、昨年毛澤東などが入陝したコースを辿り、大金川から岷江上流に轉じ、白龍江を渡つて甘肅の洮河流域に進入した。徐向前の率ゐる先頭部隊はすでに洮河を渡り臨潭を經て北上しつゝあり蕭克、賀龍の部隊もこれに續いて甘肅に入つたと傳へられてゐる。彼らは全部隊を甘肅で合流せしめんとしてゐるものゝやうだ しかして今後の動向に啻に西北に對してのみならず各方面に重大な影響を與へるであらう。

昨年、大公報の旅行記者長江君は朱德、徐向前、毛澤東などの前途を預測して、西北進入後の目的地は祁連山北麓の甘肅、河西地方（河西は黃河以西の地域）である、西北の地形政情を始め朱德、毛澤東自身の必要を見るに新根據地とする資格があるのは河西のみであると言つた。今日になつても、なほわれらはこの豫言は正しいと信ずるものである――毛澤東、彭德懷が山西に進入したのは、その後の諸事實からみると、まつたく「政略」實施のためであつて、河北に進出して外力と接觸する心算ではなかつたのである。共產軍は中央軍と山西軍とが山西で自由行動をとることを絶對に許さないことをハツキリ知つてゐたので「山西を通過し日本に抵抗」することに藉口し國民の同情を博せんとしたのだ。即ち共產軍山西進入は左の諸點にある。

一、陝北は困窮し山西は富裕である。山西進入によつて糧食、現金の補助を充分に得ることができる。

二、中央軍精鋭が甘肅省內に頑張り、共產軍の西北における移動に大なる脅威を與へてゐる。故に黃河を渡つて山西を攻擊すれば中央軍主力の所在を變へることができる。

三、しかして毛澤東、彭德懷が儲け物して陝北に引き返してから直ちに陝北から計畫的に離れたことは、山西攻擊が「東を騷がせて西を擊つ」の「傳統的戰略」であることを特に證明するのである。

川康共產軍が又も西康から離れたことは、次の二事實によるものである。

一、西康の地勢は山が多くて人が少ない。漢族と藏族とは激しく對立してゐる。社會經濟は極めて後れてをり、發展は困難であり、中國の大局に決定的影響を與へることができない、故に「西南民族革命根據地」を建立するとの宣傳は、恐らく宣傳に終るであらう。

二、共產黨の政策には重大な變更が行はれた。その土地政策は「漢奸とならざる地主および富農の土地」を沒收しないことになつた。商工政策は「非漢奸の商工業」を沒收しないことになつた。また外交政策は「一切の帝國主義に反對」することなく中國に同情する帝國主義と握手することを望んでゐる。對內政治においても、一黨專政の夢想を放棄し、聯合を標榜してゐる。かゝる政策の變更からみると、共產軍の移動は決して偶然ではないのだ。

甘肅の情況からみると、朱、徐、彭は南と北から蘭州を攻擊するふりをして、その中に合流するであらうが、この合流が實現すれば、今後研究に値するのは彼らが何處に向つて發展するかである。

われらは思ふ――朱德、毛澤東が再び一緒になるとしても、恐らく共產軍の所謂「中央」部隊は、蘭州と中衛間において黃河西岸に渡り、河西の武威、張掖、酒泉一帶を根據地として、攻擊と防衛の基礎を築くであらう。その他の散軍は或ひは寧夏、青海、甘肅、陝西の各地に分散するであらう、故に西北の事態は一層惡化し、同時に北支の形勢は愈よ重大化するであらう。これは、われらの憂慮するところであり、國民の注意すべき點である。

第三段階における共產軍は、彼らが「抗日」を豪語し「抗日聯軍」の編成を企圖してゐるのみならず、西北に駐屯する舊東北軍との間にすでに妥協工作を行つてゐるので、特に重視さるべきである。

なほ第一段階における共産軍の動きを詳細に知るため「中外問題」誌所載の「殘匪の末路」と題する一文を左に譯出する。

「第五次『圍剿』が偉大な勝利を收め、江西省に多年盤踞せる共産黨をして遠く四川、貴州方面へ移動するを餘儀なからしめてから、『剿共』の形勢とソヴエート運動の狀況には大いなる變化を來し、同時にこれは中國の全局面に對し甚大の影響を與へたが、この變化の特徴を約言すると次の數點に歸する。

一、流寇を以て始まる者は流寇を以て終る

一年半以前から各地の共産軍は相前後して失敗し、自己の根據地を放棄し、昨日のソヴエート區は今日は收復せられ、或ひは遊擊區となつた。首領毛澤東は厚顏無恥なホラ吹きであるが、彼もこの「新局面」を認めざるを得なかつた。彼は最近瓦窰堡で開かれた共産黨活動分子會議において「階級關係」を分析して から言つた「一年半ぐらひ前から、中國紅軍の三主力部隊は何れも陣地の大移動をなしつゝある。一昨年八月には同志蕭克などの率ゐる第六軍團が同志賀龍の陣地に向つて移動し、ついで同年十月にはわれ等の部隊が移動を開始した。昨年三月には第四方面軍も移動を開始しこの三主力部隊は何れも以前からのソヴエート區域を放棄して新たなる地方へ移つたのである。この移動の結果ソヴエート區域は遊擊區となり移動中にソヴエート紅軍の人員も大いに減少した。かゝる局面中の一部分をみると、敵は一時的或ひは部分的の勝利を獲得し、我等は一時的或ひは部分的失敗を吃したと云へるであらうし、また云はねばならぬ」即ち毛澤東は「大移動」は紅軍の流寇の末路であると自供してゐるではないか。

共産黨のソヴエート運動が今日の末路に立ち到つたことは當然の過程を踏んだもので、この過程は實際ところ緊つた一脈であり「循環往復」の原則を免れなかつたものとみることができる。

われ等は簡略な歷史を回顧し、先づ彼等が廣東コンミユンに失敗して井岡山に立てこもるまでの、ソヴエート發展の第一段階につき考察を加へるであらう、共産黨は、廣東暴動を一九二五——一九二七年大革命の退却時代における一戰であるとともに中國革命の「ソヴエート的段階の開始」であると强調してゐる。勿論中國で「鍬と斧」の旗幟が公然と飜へつたのは廣東暴動が最初である。しかし廣東コンミユンの運命は僅か三日間に過ぎなかつた。この事件後共産黨は中心的都市に立脚することができないやうになつたので邊僻の農村に逃避して流寇式の遊擊生活を開始した。これは即ちソヴエート運動の初期である。この時期の特徵は、ソヴエートはなほ大衆運動とならずして、地方人民との間に密切なる關係を持たずにたゞ力を集中してより一步進んだ展開を企圖したに過ぎぬことである。井岡山の守が敗れこの天險の山塞を放棄してから、大規模の遊擊を開始したのであるがこの時からして第一次ソヴエート全國代表大會までの期間はソヴエート運動發展の第二段階である。この第二段階の特徵は、ソヴエート運動が外に向つて發展せんとし、

江西、福建、廣東一帶の地區に根據地の建立を開始し、暴力的社會改革を遂行すると共に正式の武裝隊伍(紅軍)を編成し、凡ゆる力を集中して、贛南の基本區域を强化して外部へ向つて發展せんとして湘、鄂西鄂豫皖などの邊區でソヴエート運動を開始し、相當の成功を收めたことである。また第一次ソヴエート全國代表大會が召集された結果、各地の運動發展の指導が或る程度統一され、臨時中央政府の成立により所謂ソヴエート政權の雛形が形成された。

第一次ソヴエート全國代表大會から第四次圍剿の開始まではソヴエート運動發展の第三の段階であるがこの段階の特徴は、ソヴエート運動は全線にわたり相當の優勢を示し、ソヴエート運動の全盛時代と云へることである。この時期には贛南の根據地は大いに强化され、閩西の半壁もまたソヴエートの版圖となり基本區域の落屏を形成した。また贛東北のソヴエート區も基本區域と相連なり、更に江西西部には湘贛ソヴエート區贛江の下流には湘鄂贛ソヴエート區が建設され、かくて贛東北、贛西北、贛南の三方面より南昌を脅威し全省を席捲せんとする勢を示した。同時に鄂豫皖と、湘鄂西のソヴエート區は互ひに相呼應し、武漢三鎭包圍の切迫せる事態を招來し、更にこの二つのソヴエートは中央ソヴエート區と相呼應して彼等の所謂「一省或ひは數省の首先的勝利」を實現せんとした。しかし第四次圍剿の結果、洪湖を中心とする湘鄂西ソヴエート區は完全に消滅され、賀龍の率ゐる共產軍は湘西、鄂北の深山へ逃込み、鄂豫皖ソヴエート區も根本的に肅清されたので、第四軍團主力は四川省に向つて西進を行つた。かくてソヴエート運動は二つの最も重要な地盤を失ふに至つたのみならず、贛東北のソヴエート區も切離されたので、中央ソヴエート區は全く孤立の地位に陷つた。第五次圍剿における失敗の原因もこの點にある。しかし第四次圍剿は江西方面では共產軍のため破られ、失敗の裡に終りを告げた。第四次圍剿が終つてから第二次ソヴエート全國代表大會を經て紅軍が貴州、四川省方面に移動するまでの期間はソヴエート運動の第四次段階である。この時期の特徴は紅軍は各主要戰線において全面的崩壞を開始し、在來のソヴエート區を完全に放棄するに至つたことである。

中央紅軍と第四軍團とが合流して四川西北を竄擾し、毛澤東を首班とする陝甘支隊が組織されて陝甘に進入し、今年二月末黃河を渡つて山西省に侵入するまでの期間は第五段階である。この段階においては紅軍の各大部隊は殆んど西北地方に集結し、東流西竄して全く最初の遊擊時代に返つたが、正に流寇に始まるものは流寇に終るの感を深くする。しかしこの歷史的循環は表面と內容に著しい差異がある。紅軍從來の遊擊は「集零爲整」「往前進取」の方式を採用してゐたが、現在の遊擊は「化整爲零」の方式を以つて下に向つて沒落しつゝある。また從來の遊擊は主力軍の作戰に援助を與へ基本ソヴエート區域を防衛したのであるが、現在の遊擊は主力軍自ら担任し、流寇を事としてゐる。また從來の遊擊隊は根據地を占領して各

種の政策を實行して人民の一時的歡心を買ふことができたが、今日の遊撃隊は奔命に窮するのみで遊撃區を鞏固なる根據地に化する能力を持たない。故に勢力の增大は極めて困難である。かゝる遊撃も同じく遊撃であるが、その內容はまるで異つてゐて前者は忽ち勢ひを得て旭の昇るが如く、後者は奔命に疲れた手負豬の如くである。共產軍首領張國燾が中央紅軍の失敗に對し、無限の憤怒を示し、末日のまさに臨まんとするのを深く痛んだのはなんら怪しむに足らないのだ。

二、心腹の患變じて邊陲の禍となる

紅軍の三主力部隊が相ついで西方へ移動してから、中腹部の江西、安徽、湖北、湖南等の各省は漸次平穩となつたが、四川、陝西問題が重大化しつつある。共產黨中央委員會は「全國革命の大本營を西北に移した」と聲明し、その任務に關する指令を發表した。また最高指導者毛澤東は大言壯言して曰く「盤古が天地を開き三皇五帝が出現してから今日までこんな大行軍は一度も行はれなかつた……十二ケ月餘りの長期間に亘り、上空からは幾十台の飛行機で偵察爆撃せられ、地上では幾十萬の大軍の包圍追撃を受けたが紅軍兵士の兩脚は却つてこれに勵まされ、縱橫十一省に亘り、長驅二萬餘里を踏破した。即ち東南に血戰し、西北に轉戰し、五領を越へ、烏蒙、金沙江を渡り、大雪山を踏み越へ、大渡河を渡り、相公嶺、黑水、蘆花、青稞麥、味道等々を拔し、流水天に連なる黃河の流れを溯り、姜太公の釣した渭水を跨ぎ李自成が義旗を揭げた橫山に達した……」

紅軍の猿奔猪突の行軍は、なる程流寇史上のレードを破つたが、しかし中原を離れ、草も生へない邊境地方に追詰められたことを思へば、毛澤東君は恐らく泣かんと欲しても涙が出ないであらう。西北問題は紅軍侵入のため以前より重大化したことは事實であるが、しかし西北地方は氣候寒冷、交通不便であるから僅かに餘喘を保つことはできるかもしれないが、以前の如く神出鬼沒な行動は到底不可能であらう。まして大勢の討伐軍がその周圍に雲集してゐるから、西北が第二の江西省となるが如きことは絕對にあるまいと思ふ。

三、紅軍は中心的都市から愈よ遠ざかつてゐる

七、八年以來、紅軍がその根據地となしたのは、經濟的に後れてゐる農村地方のみであつて、中心都市を奪取せんとする企圖は常に失敗した。故に政治的影響を高めることができず、且つ經濟的窮乏は彼等が持久的抗戰を續け或る地方を保衞することを不可能ならしめた。かつて武漢を脅威し或ひは福州に逼つたことは一夜の夢と消へ、今や遠く西康に逃避し或ひは陝西の瓦窰堡に頑張り、自ら「南面の王」を氣取つてゐるが、大商工業都市或ひは政治中心の都市から愈よ遠さかつている。農村と都市における運動發展の不平衡は弱められねのみならず愈よ强くなつた。恰も都市は人の首、農村は胴體の如く、都市は農村に對し指

導的地位にある。且つ共産黨の「階級的勢力」は中心都市に集中されてゐるが、都市における「革命的勞働者運動」は現在でも依然として農村におけるソヴェート運動と結びつけることができない。頭が働かなければ、如何に器用な指先でもだめだ。換言すると中心都市は依然として敵の要害であり、共産黨はこの要害を奪ふことができないのみならず要害から愈よ遠く離れつゝあるので、決定的意義の勝利を占め、敵の死命を制するなど、全く廣人の夢に等しいのだ。彼等は常に革命の成功は個々の一省内で同時に勝利することではなく決定的意義を有する若干の省とその都市において革命の勝利を收めるにあると稱してゐるが事實は雄辯に勝り彼等はすでにこの決定的意義を有する若干の省と都市から遠く離れてしまつてゐる——共産黨員は如何に自分をみるか？

四、紅軍戰鬪力の減退

陣地戰とかゝる長途行軍とによつて、共産軍内部には極めて大なる「人員減少」の事態が發生し、紅第一、第三、第五軍團は以前よりも大いに弱められた。共産黨は深い思慮を重ねてから、この蔽ひ難い事實を認めざるを得なかつた——「各方面から襲ふ敵をして單にコースを防禦するために何時でも兵力を分散することは、効果的な戰鬪を不可能ならしめる。かゝる分兵主義の主要なるものは第一、第三兩軍團の分散にして、第五次戰役中に多くの勝利の機會を失はしめ、突擊の理論を閉却し實際上、効果的な戰鬪を解消せしめた。かゝる陣地戰は敵にとつてのみ有利であり、紅軍にとつて不利である。敵の堡壘に强攻することは、現在の技術的條件の下では避くべきである。第五次戰役中に輕々しく敵の堡壘に强攻したことは、紅軍の戰鬪力を消耗せしめたのみであつた」（中央政治局擴大會議における第五次圍剿の經驗と教訓の決算に關する決議大綱）かゝる陣地戰の戰略に次ぐ「逃亡主義」は共産軍をして殆んど全部崩壞せしめた。なほ「戰略を變更し包圍突破を實行すべき問題においても、同樣に原則上の誤謬を犯した。即ちソヴェート區撤退が決定されてから、なほソヴェート區域内において盲滅法に大重べになつて敵と戰鬪を交へ、紅軍の戰鬪力を大大的に消耗し、ソヴェート區域撤退をしてアワテフタメいた夜逃的行動たらしめた。幹部間においても、大衆間においても戰略變更に關する説明が行はれなかつた。而して、いとも大きな後方機關を組織したので行軍と作戰が困難となり、あらゆる部隊が捲護隊と化した」（前揭決議事項）

このことはなほ紅軍をして被動的地位に立つことを余儀なからしめ、至るところで討伐軍の打擊を受けしめ、遂に「紅軍兵力の大減少」を劃致した。四川、雲南に赴く途中、再び討伐軍の追擊を受け、四川、陝西、甘肅、山西一帶の戰鬪にも屢次慘敗を喫し、共産軍の精銳は殆んど全滅するに至つた。現在共産軍の兵力は大いに弱められた。これは、ソヴェート運動にとつて致命傷になるであらう。

五、主客の勢すでに變す

討伐軍の戰略的進歩と變更とは、共產軍に多大の困難を與へ、常に被動的地位に立つことを餘儀なからしめた。中國共產黨の理論家「陳紹禹」は「新條件と新政策」なる一文を發表し「透澈」せる分析を試みた。彼はいふ——「蔣介石の新軍事計劃は、紅軍の第五次圍剿に對する鬪爭に多くの困難を與へた。以前紅軍が敵にうち勝つた策略の主要なものは所謂「敵を誘つて深く入らしめ、一方を擊ち破る」ことであつた。現在では敵が集團軍と方面軍を作戰單位とする辦法を始め輕々しく深入することを極力戒める等々の方法をとつてゐる關係から、以前特に紅軍に有利であり、かつ紅軍が常に用ひて勝を取つた策略は現在では比較的効果の少ないものとなつた。これは第一の困難である。」

これによつて明らかなやうに共產軍の得意とする策略は、すでに討伐軍に看破され、「常に用ひて勝を取つた」常套手段はすでに効果を失つた。前後四回にわたる戰鬪中に跳梁猖獗し、自ら「常勝の紅軍」を誇つた者は現在ではすでに敗兵の將となり青菜に鹽の有樣だ。

陳紹禹は更らに言葉を續けて指摘してゐる「敵は一切の最新軍事技術——なかんづく飛行機の爆撃、重砲の轟撃を應用してゐるが、紅軍の軍事技術は劣弱であるため正面から敵と戰ふことは困難である。故に敵軍主力を速やかに消滅することのできぬ困難を始め或るソヴェート區域を一時退出せねばならぬことなどが起つた——これは第二の困難である」

もともと烏合の衆たる共產軍はその技術が幼稚であるのみならず、軍事訓練も極めて不徹底である。ただ「東を騷がせて西を擊ち」「實を避けて虛を就く」ことによつて地方を騷擾することができるだけである。一度正面から戰へば敗れるに決まつてゐる。

陳紹禹は最後に次の如く述べてゐる——「敵は集團軍作戰、碉樓砲壘政策を採り藍衣社分子をして軍隊に對する監視、威嚇、利誘に當らしめてゐるので、紅軍が敵の武器糧食を奪取し敵軍を紅軍に投降せしめることは以前に比べて一層困難となつた」

討伐軍は蔣介石の指揮下に政治的にすでに充分鞏固となり民族の利益の復興のために、共產軍を深く嫌惡してゐるので、勇を奮つて干戈を交へ、敵を殲滅し、死すとも降伏しない。かゝる精神は、「威嚇」や「利誘」によつて造られるものではない。寧都における兵變は空前であるとはいへ、二度とないことだ。俗に「鳥は古い巢にはもう居ない」といふことがある。共產黨の迷夢は、最早醒めてもよからう。

この三種の主要困難（實際のところ共產軍は困難だらけだが）は遂に主客の勢を全く變ぜしめた。以前の「偷かに襲つて晴に取る」ことは秦邦憲の「コースを守る」ことになつてしまつた。中央政治局決議第一綱には、かゝる引込み思案の誤謬を指摘してゐる——「第五次圍剿中における共產黨の一般的政治方針は正しかつた」圍剿を粉碎し得なかつた主要原因は客觀的ではなく主觀的である（これは、「理論家」陳紹禹の見解と全

く喰ひ易つてゐる)。即ち、われらが軍事的指導において、コースの單なる防禦といふ誤謬を犯し、中國々内戰爭における戰略戰術の基本原則に違反したことにある。」

かゝる認識の下に「罪魁」秦邦憲とドイツ人軍事顧問ハアルドとは指導的地位から引き下され、これに代つて才氣滿々たる張聞天が一躍舞台に登場し「深山逃避」の喜劇を再び繰り返した。現在共産軍の路線は防禦的でも進攻的でもなく、討伐軍の脅威追撃下における四苦八苦の流寇路線である。

勿論、現下のかゝる主客の形勢は變らぬものではなく、共産黨の流寇は絶對に割據に轉化しないものではない。しかし現在では主動的優勢がすでに討伐軍にあるので、討伐軍は共産軍を一層困難ならしめ、共産軍主力および主要遊擊區毀滅の條件下に、終には共産軍の止めを刺すことができるのだ。

六、邊區の形勢は愈よ不利

西北邊區には蒙族、回族などが雜居し、大半はなほ遊牧狀態にあるので、中國本部各省の如き尖銳な土地關係が在在せず、社會的分化も微々たるものであるのみならず、民衆の知識が後れてをり政治意識さへ持たないので共産黨の得意とする二手段——社會的、民族的武斷宣傳は少しも效果を擧げないのである。しかして言語の不通と共産軍の騷擾とは蒙族、回族の嫌惡の念を爆發せしめてゐる。徐海東などが長驅して陝北に入つたのは無人の境を行くやうであつたが、某地方の回人に襲撃されて三分の一の兵力を失つた「レ

ーニン的民族政策」理論は中國の少數民族を斷じて赤化できないのだ。これは、現在のソヴエート運動を極めて困難ならしめた——即ち內地ではちよつとした宣傳、煽動によつて民衆をソヴエート運動に捲き込むことができたが、西北邊區では常に土著の襲撃を警戒せねばならぬ。このことを後方の憂がなく全力をもつて討伐軍に對抗することのできた過去の情勢に比べると、非常に重要な變化が起つてゐる。共産軍の社會的基礎は大々的に縮少した——これは、沒落過程における最大困難である。

七、內地殘留共産軍はすでに問題なし

共産軍の主力が西に向つて「移動」してから、舊ソヴエート區域とその附近一帶にはなほ一部兵力が殘留し、徐ろに勢力の再建を圖り、討伐軍が共産軍主力討伐のため四川、雲南、貴州、陝西、甘肅一帶に出動し、內地がやゝ空虛になつたとき、捲土重來して割據的局面を創り主力を遙かに聲援せんとしたが、この計畫は願ひの如く實現せず、各地討伐軍が殘匪肅淸に努力したので、殘留共産軍はすでに强弩の末となつた。方志敏、劉伯堅、瞿秋白、林蔚衡などの如き指導者は或ひは生擒られ或ひは擊ち斃された。やつと生き殘つた項英も江西南部の深山峻嶺の間を轉々として、どうとも始末がつかないやうになつてをり、彼の妻も疾つくに捕えられた。かつての遊擊區は湘鄂贛、贛東北、閩浙贛、皖南、湘贛、鄂豫皖、湘鄂西などの如く內地各省にわたつてゐたが、現在では或ひは消滅し或ひは有名無實となつた。一度で完全に肅淸

することができないとしても、殘匪が「反撃の新局面」を展開することは斷じて不可能である。スターリン氣取りの毛澤東は瓦窰堡の共産黨活動分子會議において ホラ吹きの本領を發揮し次の如く述べた。

「揚子江南北の舊ソヴェート區域は今では遊擊區に變じて同地方はおける遊擊戰爭は現狀維持の形勢から反攻の形勢に進み、更に發展の形勢に向ひつゝある。東三省人民革命軍と抗日義勇軍が著しき發展をなせるのみならず、幾多の地方における過去の小數部隊も現在では大規模の組織となつてゐる。即ち韓建省、川南地方の如きである。また過去に於いて遊擊戰爭が行はれてゐなかつた地方でも現在では、廣汎なる遊擊戰爭の特徴は、その普遍性にあるが、而してこれは最も良好なる形勢である」かゝる分析は誇大妄想狂のみできることだ。

以上を總括すれば、ソヴェート紅軍は現在では廣大にして鞏固なる根據地をもつてゐない。而して中國の中樞地と大商工業の中心都市から離れてゐる。また逃亡主義と敗戰のため、主客の勢が變り共產軍の精銳は大いに損傷を受け、舊ソヴェート區地方に殘留する共產軍に至つてはすでに强弩の末である。また邊區の特種事情のため、その社會的基礎が極めて薄弱となつてゐる。かくの如く現在のソヴェート運動は窮途末路の暗淡たる狀態である。しかるに毛澤東の如きは厚顏にしてその末日の至らんとするを否定し、張

國濤を一匹の蛙に例へ、彼を攻擊してゐる。

「或る人（張國燾を指す）は中央紅軍は失敗したと云つてゐるが、かゝる批判は當つてゐるであらうか。勿論當つてゐない。マルクス主義者は問題を觀察する時、決して一部分だけをみない。全體に亘つて觀察するのである。一匹の蛙が井戶の中に在つて、天は井戶の大きさにすぎないと云ふのと同じだ。もし天の一部分は井戶の大きさと云ふなら、それは當つてゐる。我等の見る所では、紅軍は部分的には失敗したが、全體的には成功してゐる。而して敵は部分的には成功したが全體的には失敗であつたのだ」（前揭共產黨活動分子會議における演說）

毛澤東は蛙よりも利口だと自認してゐるが、彼の虛構事實は一寸考へると子ども化の皮をひつぱがれる程度のものであつて、水陸兩棲できる蛙よりもよつぽど能なしである。

第二篇　抗日人民戰線運動の發展

第一章　抗日人民戰線の主張と政策

中國共產黨指導者陳紹禹は、共產黨が抗日共同戰線適用の結果、贏ち得たところの成功として、中國において新たに抗日風潮が昂揚し、學生、工人のみならず商人、實業家、新聞記者、辯護士、婦人、子供或ひは若干の軍隊さへも參加し、かつ中國民族の抗日共同戰線を結成せよとの氣運が高まり、勤勞階級のみならず有力な社會的名士、政治家さへも共產黨と紅軍を擁護するため蹶起してゐると强調し、その若干の實例を擧げてゐる。

次に紹介する章乃器外三氏の聲明書は、これを實證するものである。同時に中國における人民戰線の主張と政策を知るに好個の文件であるといえるだらう。

この聲明書は前浙江實業銀行副經理章乃器、上海市律師公會々長沈鈞儒、國難教育社代表陶行知、生活日報社々長鄒韜奮四氏の共同署名にて本年七月十五日發表され中國社會の各階層に多大の衝動を與へたものである。

513799

團結禦侮の若干の基本條件と最低要求

昨年十二月九日、學生救國運動が起つてから、この七ケ月間に、國內の一般政治情勢は明らかに大きな進歩と變化とがあつた。以前は、われらはお互ひに殺し合ひ、排斥し、疑ぐり合ふドブのなかにおちこんでゐた。今では、われらはわれらの活路は一致して銃口を外敵にさし向けることだけであることを知りつつある。以前は「安內」と「攘外」とはどつちが先かといふ問題をめぐつて多くの爭論が行はれたが、現在では政府と民衆は「抗日第一」の旗の下に團結しつつあり、この七ケ月間に全國學生救亡運動は意よ發展し、全國および各地の救國會が相繼いで成立した。一般民衆は「聯合抗日」に對して、すでに深い認識と激しい要求を持つてゐる——これは否めないことだ。なほ政府の對日外交には、ちかごろ比較的强硬な態度がみられる。塘沽協定の正式發表、浪人の密貿易に對する嚴重抗議——少くともこの二つは、政府が最後まで屈辱に甘んじないことを表示するものだ。各地の軍事當局もちかごろ覺醒しつつあり、西南領袖はこの前、大ツ平に北上抗日出兵を宣言した。

宋哲元將軍は數ケ月前には日本に屈服讓歩した。しかし日本軍部がしつこく僞組織成立を强要するのに對して始めから拒み通してゐる——これは賞めてもよいことだ。從來國民政府と對立してきた中國共產黨

と紅軍とは最近その政治主張を改變し抗日救國を當面の主要任務としてゐる。新聞の傳へるところによると「工農ソヴエート政府」はすでに「人民ソヴエート政府」と改め、「工農紅軍」はすでに「人民抗日紅軍」と改められた。

これらの事實は、現在全國人民は朝にあると、野にあると、あるひは中央たると地方たると、左派たると、右派たるとにかゝわらず、みなひとしく、中華民族當面の大敵はた〳〵一つであることを認識してゐることを表明する。しかして、この大敵を前にして、政府と人民、中央と地方、友黨と敵黨とは、すでに全民的大團結をうち建てようとしてゐる。この全民的大團結をうち建てるならば、國家の危亡を挽救することができるのみならず、民族復興の基礎を築きあげることができる。これは、われらが切望するところである。

しかし一方、われらは充分重大な一つの問題にふれなければならぬ。これは、大部分の人民の團結救亡に對する認識がなほ不充分であり、全民的戰線に對する信念がまだぐらついてゐることだ。これがため人々は抗日救國の大旗の下に結集しつつありとはいへ、依然としてお互ひに探め合ひ、疑ぐり合ひ、戰つてゐる。また「抗日救國」は一種の流行的な裝飾品にすぎないとみてゐるものさへもあり、若干のものは、統一戰線は相互利用にすぎず、あるひは好い場合でも一時的結合にすぎないから今日の同志は明日の仇敵になりうると考へてゐる。かゝる誤れる觀念を直ちに糾正することなくば、廣汎な抗日人民統一戰線は結成不可能であり、强ひて結成すれば忽ちにして分裂するであらう。

しかしみんな知つてゐる——抗日統一戰線が結成されないならば、あるひは結成されても直ちに四分五裂になるならば、抗日救國は斷じて勝利を收めえないならば、われらの前には一條の死路あるのみ——

率直にいふと、今では人々がみな抗日救國を叫び、共同戰線を提唱してゐるが、政府は民衆を疑ひ、民衆も政府を疑つてゐる。中央は地方を信任せず、地方も中央を信任してゐない。國民黨は共產黨の利用を怖れ、共產黨も國民黨の利用を怖れてゐる——これは、蔽ひ難い事實だ。それは、もとは同じ釜の飯を食ひながら、現在は共同戰線のこゝからお互ひに猜疑心をつのらせてゐる。例へば、同じ政府內の人間でも國家の根本大計について大ツ平に、また率直に討論しようとしない。同じ救國に熱心な人間でも、ある派が他のある派に利用されることを疑つてゐる。この事實は何を物語るか？抗日救國のスローガンを叫びながら、人々は依然として同床異夢であり、肚のなかで疑ぐり合つてゐることを物語るのだ。人々は印度、朝鮮の痛ましい亡國の教訓をキレイさつぱり忘れてしまつた！

われらがこの數ケ月間、抗日救國運動に參加した經驗からいふと、われらは完全に抗日人民戰線の立場

にあつたので、各方面から猜疑の眼でみられた。政府は、われらが各派合作による抗日を主張し、共産黨勢力の存在を認めたので、われらを共産黨の利用にのつたものとして疑つた。思想の幼稚な若干の青年はわれらが各黨各派の合作による抗日——すなはち國民黨との合作を主張したのでわれらを政府に買收されたものと疑つた。他方、中央政府は、われらが西南の抗日主張に同情したので、われらを中央に反對するものと思つた。西南當局でも、われらが一致的行動を主張したので、中央の代辯者であると思つた。

これらの事實は何を物語るか？

當局は勿論、一部分の青年民衆が、共同抗日の原則に對して、いかに理解不充分であり、いかに忠實無誠、信念が不充分であるかを物語るのた。人々が抗日救國でポロをかくして共同戰線ゴッコをするような具合ではどうしてわれらは民族解放の目的を貫徹できようぞ？

外部のあらゆる猜疑、あるひは中傷造謠に對して、われらは自分たちを辯護するか？いな、われらは辯護しない。われらはすでに國家と民族のためにはわれらの家庭と生命を犧牲にする決心を持つてゐる。個人の毀譽がいつたい何になるか？われらは各方面でいろいろ誤解されてゐることを知つたが、一向氣に留めないのみか、われらの自信力をさらに强めた。なぜなら、われらが各方面で誤解され疑ぐられたことはわれらが共同戰線の立場に忠實であつたことを證明し、われらは一點一滴の抗日勢力も放棄しないとともに一絲一毫も共同戰線の立場を放棄しないことを證明するからだ。またわれらは、いかなる抗日勢力とも諒解をもつて合作せんとすると同時に、いかなる側にも片よらないことを證明するからだ。

われらは敢えて宣誓する——われらは今後とも斷乎として抗日人民戰線の立場に立ち、中華民族解放運動が完全に勝利を占めるまで決してこの立場から離れず、決して退却せず、または動搖せぬことを。

今われらの氣になることは、たゞ一つである——すなはち現在政府當局たると人民大衆たるとにかゝわらず一部分のものは抗日共同戰線に對して、あまりに無理解であり、かつ無理解なるが故に不忠實であり熱意と確信を欠いでゐることだ。ゆえに、彼らはお互ひに殺し合ひ、あるひはお互ひに攻撃し、表面だけはすでに一緒になつてゐるが、裏面ではなほお互ひに懐疑猜忌してゐる。かくて、彼らは主觀的には救國救民を標榜してゐるが、客觀的には共同戰線を破壞し、抗日工作を妨害してゐる。これらはすべて、抗日共同戰線に對する理解不足に基因する。ゆえに、われらは政府當局と人民大衆に對して、共同戰線の立場を詳細解釋する必要があると思ふ。これは、われら自身を明らかにするためではなく、抗日救國のため、中華民族解放運動の前途のためである。

抗日共同戰線のための正しい立場とは何か？われらは考へる——

一、抗日救國は全民族の生死存亡にかゝる大問題である。

ゆえに、あらゆる人力、財力、智力、物力を集中して全國總動員を實行してこそ始めて最後の勝利を收めることができる。換言すると、抗日救國といふ大事業は、いかなる黨派、いかなる人物といえども單獨ではなし遂げうるものではない。民衆から離脫し、政府のみでは、抗日は必ず失敗する。しかし政府の指導がなく民衆だけ自發的に戰つたんでは斷じて勝利の前途はない。中央政府が、各地方當局と合作することなくば抗日救國は不可能である。しかし地方當局が、中央政府と對立した情勢の下に兵を出して日本に抗しても必ず失敗する。だが、抗日救國は最も緊急を要する事業である——われらは、敵軍の襲來に遇へば直ちに抵抗すべきである。全國總動員の成功を俟つて始めて抵抗するようなことは斷じてできない。ゆえに、われらは東北義勇軍の英勇的抗戰と上海における十九路軍、第五軍の奮戰に贊成する。また、われらは、喜峰口と察哈爾における西北軍の抗日戰爭に贊成する。

われらは、かゝる局部的な抗日軍事行動にも贊成する。しかし目的は依然として全國的規模の抗日軍事行動の發動にある。反對に、もしわれらが局部的抗日あるひは一黨一派の抗日によつて最後の勝利を收めうると思ふならば、われらは依然として重大な誤謬を犯すであらう。われらは最後の大勝利を獲得しようとするのであれば、全民族を抗日救國に參加せしめねばならね。われらが、抗日共同戰線を結成せんとする必要と原因はこの點にある。

反對に、われらが國民黨は國を救ふことができると信ずるのであれば、われらは國民黨に加入するのみで何も共同戰線を提唱する必要はない。また、われらが共產黨は國を救ふことができると信ずるのであれば、共產黨に加入するのみで、何も共同戰線を說くに及ばない。われらが共同戰線を主張するのは、抗日救國の大事業は、いかなる黨派、いかなる方面も單獨ではなし遂げえないと信ずるからだ。

二、われらが各黨派各方面の一致團結による抗日救國を主張するのは、各黨各派をみなたゝきつぶせといふのでもない。共同戰線に加入する各黨各派は異つた主張を持つてもかまわね。政府と民衆、中央と地方の間には異つた意見があつてもかまはね——たゞ、こと抗日救國に關する限りは、共同一致が必要であり、人々はお互ひに寬容であるべきであり、お互ひに相爭つたり攻擊し合つたりしてはならね。このことが實行されゝば、共同戰線は容易に建立されるであらう。すなはち、抗日救國に對して政府には政府の主張があり、民衆には民衆の主張があつても、これは共同戰線の結成を妨げないが、たゞ、政府が民衆を壓迫して抗日主張の自由發表を許さず、民衆がナンデモカンデモ政府の主張に反對すれば、共同戰線は分裂を免れないであらう。ゆえに、お互ひに寬容であることは共同戰線の結成にとつて最も必要である。われらが言論の自由を要求し、集會結社の自由を要求するのは、人々は同じ中國人であり共同抗日の立場からお互ひに寬容でありお互ひに意見の自由

發表と團體の自由組織とを許容すべきであるからだ。かゝる寛容な精神がなければ、共同戰線は根本から建立の手段がなく、また抗日救國はお話にならぬであらう。

三、共同戰線內では、人々はお互ひに寛容であることが必要であるのみならず、大ッ平であり坦白であることが必要である。凡そ聯合戰線と抗日名義を利用し個人的な企らみをなすものは聯合戰線を破壞するものであり、かつ抗日運動を破壞するものである。聯合戰線は各黨各派の勢力を結合して抗日救國の目的を貫徹せねばならぬが、如何なる黨派にも利用されてはならぬ。しかし廣大なる鬪爭中に、一部不良分子が人の褌で角力をとることは免れぬであらう。しかしわれらは大ッ平に、かつ坦白に行動しこれらの人の褌で角力をとる不良分子を直ちに暴露して大衆をして唾棄せしめねばならぬ。

四、共同戰線の主要目的は抗日救國部隊の擴大にある。勿論この部隊は大きいほどよい。中華民族の革命共同戰線であるからには、四億五千萬の中國人中には、漢奸のほか誰一人として加入を拒絕すべきではない。漢奸でも一旦覺醒し抗日救國運動に參加すれば、彼らを一刀兩斷にしてはならぬ。中華民族は生れつき奴隸根性ではなく、甘んじて漢奸となるものは誰一人もない。多くの漢奸は環境の壓迫から民族自信を失つて知らず識らずに漢奸となつたのだ。廣汎な救亡聯合戰線を結成し民族自信心を恢復せしめてこそ一切の漢奸意識を克服し一切の漢奸運動を消滅することができる。

五、多くのひとびとが聯合戰線の前途に對して固い信仰を持たず、聯合戰線は一時の結合にすぎないのですぐ分裂すると思つてゐる。この見解は完全に誤つてゐる。なぜなら、ひとびとが聯合戰線の前途に對して信仰を持たないとすれば、勿論聯合戰線は直ちに決裂し、抗日救國は斷じてその勝利の目的を貫徹できぬであらう。かつての國共合作は一つの前例である。もしひとびとが本當に誠意をもつて合作し、聯合戰線の前途に對して堅い信念を持ち得るならば、聯合戰線の基礎は日とともに鞏化擴大し、抗日救國は完全な勝利を得るであらう。また抗日救國が完全に勝利すれば、この全民的大團結も分裂をみないであらうなぜなら、各黨各派が一條の戰線にあつて共同奮鬪し、共同の勝利を收めれば、ひとびとは本當の親友になり、もと諒解できなかつた多くのことがすぐ諒解され、もと一致しなかつた多くの意見がすぐ一致するであらう。さうすると中國は本當に統一されるであらう。歷史はわれらに告げる——多くの國家で對外戰爭の勝利によつて內部統一が促成されたことを。このようにみると、民族聯合戰線は決して一種の短命な、過渡性質的な結合ではない。問題はわれわれの聯合戰線參加に對する態度の如何並びに抗日救國の必然的勝利に對する信念の如何によつて決定されるのだ。

これはわれらの聯合救亡に對する立場であるが、われらはこの立場が全國人民共通の立場となることを希望する。なほわれらは抗日救國のため、中央および地方當局、各黨各派、一般民衆に對して充分の誠意

をもつて、われらは若干の希望を提出する。

われらはこの意見が大多數人民の意見を代表するとは敢ていはないが、少くともわれらは一國民の資格をもつてわが國の當局と民衆に進言する。われらの主張が卒直すぎるとしても、同じ中國人であるから當局と民衆は必ず理解するものとわれらは考える。

一、國民黨領袖蔣介石先生に對するわれらの希望

五年來、蔣さんが精を出して立ち働き、大事を取つて辱を忍び抗日を準備したことは天下に知られたことである。われらは、日本に抗するにはできる限り迅速で有効な準備をなさねばならぬことを承認する。しかしわれらの同意できぬのはたゞ抗日準備の方法である。蔣さんは先づ內を安んじて外を攘つの方法をもつて抗日を準備すべしと屢次にわたり主張した。この主張が正當か否かに拘らず、五年來の經驗はこの主張が失敗したことをわれらに告げる。五年來の「安內攘外」の結果をみるに、剿共軍事は片刻も停止しなかつたのみならず、最近では中央と西南との間に再びイザコザが起つた。安內政策は本當の內部統一を促成するものではなく、しかして「安內」の利益を得るものは、われらの共通の敵であることがわかる。かゝる事態が續けば「內」は「安」ちかならずして中國全部が日本の植民地になるであらう。蔣さんはしつかり考へて、この政策が間違つてゐることを知るべきであらう。過ぎたことは今更いふに及ばぬ。現在敵は北

支、福建を併呑すべく試みてをり、民族危機は頓に重大化してゐる。全國最高の統治地位にある蔣さんは速やかに手段を講じて本當の抗日救亡準備をなすべきである。本當の抗日準備は決していはゆる「先安內後攘外」でなく、各黨各派を聯合し民衆運動を容認して共に國難を解決することである。故にわれらは蔣さんに對して左記各項の實行を希望する。

一、西南に對する軍事行動を停止すること。

二、紅軍と停戰媾和して共に日本に抵抗すること。

三、抗日言論の自由および救國運動の自由を許與すること。

この三つが實行されるならば「內」は必ずしも「安」せずして自ら「安」となるであらう。なほわれらは蔣さんに對して、親しく國民政府統轄下の二百餘萬の常備軍を率ゐて全國一切の人力、財力、智力、物力を動員し神聖な民族解放戰爭を實行せんことを希望する。この民族解放戰爭が完全に勝利を收めるならば蔣さんは中華民國の最高領袖となるのみならず中國歷史上最も偉大な民族英雄になるであらう。これはわれらが充二分の誠意とともに切望することだ。反對に蔣さんが亡國滅種の危禍を顧みることなく依然として剿共を續け內戰を繼けるならば、たとへ蔣さんが一生精を出して立ち働いても天下後世に容れられぬであらう。

われらは、決して蔣さんは後者をとるものでないことを信ずる。蔣さんが二中全會で報告した救亡禦侮の方法と限度は、蔣さんの最近の意見を代表するものであらう。われらはこの報告を讀んで、和平の絶望と犧牲の最後の時期に對する解釋は比較的妥當であると思つた。かれはいふ——敵が僞滿の承認を强要するときは、或ひは昨年の十一月以後敵が再び中國の領土主權を侵害し外交的手段によつてこの侵害を排除できないときは、すなはち和平絶望のときであり、犧牲の最後の時期であると。

對外的にはこの限度內において、できるだけ準備を行ふことにわれらも同意するが、われらに更に提起する——かゝる對外的限度のほか、對內的には內戰停止並びに人民の抗日言論の自由と救國運動の自由の許與が極めて必要であることを。反對に、準備する反面お互ひに消耗するならば恐らくろくな結果はないであらう。政府が準備々々と繰り返し、人民の自發的準備を制限してゐることは、まだ人民を理解してゐない證據だ。この二點は、われらが重ねて蔣さんの注意を促したいところだ。なほ蔣さんが報告中に中國とアビシニヤを同一視したことは、われらの同意し難いところだ。

二、西南當局に對するわれらの希望

われらは陳伯南將軍（濟棠）李德隣將軍（宗仁）白健生將軍（崇禧）の出兵北上抗日の宣言に共鳴する。われらはこの宣言は少くとも西南當局が聯合救亡に對してすでに深い認識を持つてゐることを表明するものと考へる。しかしわれらは西南當局が聯合戰線の立場をもう一步進んで理解せんことを希望する。われらは西南當局は中央政府を動かして「抗日出兵」を促がし中央との對立的態度を免れねばならぬと思ふ。なほわれらは抗日救國のためには人民が自發的にやることをできるだけ許容すべきであると思ふ——換言すれば人民をして抗日言論および行動の絶對自由を持たしめねばならぬ。實際のところ、これは西南當局が中央に對して大ツ平に提出した要求であるが、われらは西南當局が中央から離れ、民衆からも離れるならば、孤軍抗日は先づ實現せんことを希望する。反對に、西南當局が中央から離れ、民衆からも離れるならば、孤軍抗日は決して勝利の目的を貫徹できぬであらう。われらはなほ指摘する——最近の廣東內部の意見分裂は、廣東の抗日勢力が民衆の基礎を持たないからであると。反對に民衆勢力の支持と鼓舞の下にあれば、われらは誰も別の企圖を持つものでないと信ずる。われらは、西南當局が、われらのこの意見を必ず受容れるものと信ずる。

三、宋明軒將軍（哲元）および其他の北支將領に對するわれらの希望

宋明軒將軍および其他の北支將領が日本帝國主義の直接的武力脅威の下にあつて、決死抗敵の決心を持つてゐることは、毫も疑ひの餘地がない。この一年來、敵軍は河北、察哈爾、綏遠に一步々々と進み來り北支軍隊はこれに對し何らの行動もとらなかつたが、これは理解されることだ。なぜなら、日本に抵抗す

るには全國を動員せねばならぬからだ。全國動員前における地方軍隊の局部的抗戰は勿論民族の抗敵意識を激發するに足る。しかしわれらが希望するのは必ずしも北支將領が士兵の血肉をもつて敵と戰ふことではなく、宋明軒將軍などが再び學生救國運動を壓迫せず、再び抗日民衆を逮捕毆打しないことだ。さうでないと、喜峰口における抗戰の光榮も、宋哲元將軍が抗日の決心を持つてゐることをひとびとに信ぜしめないであらう。

四、中國々民黨に對するわれらの希望

われらはつねに、中國々民黨は中華民族革命史上のヒロインであると思つてゐる。滿清專制政府を顚覆したのも、袁世凱の獨裁政權を顚覆したのも、廣東から出師北伐し北洋軍閥の統治を顚覆したのも國民黨である。殘念なことには、國民黨が中央政權を掌握してから、その歷史的光輝の上には一層暗影が兆すに至つた。特に殘念に思ふのは、國民黨の黨治下において、中華民族は空前の大國難に遭つて、われらの地圖の一半が欠けたことである。しかし、東北四省を失つた責任を全部中國々民黨の肩に負はせることはできない。在野の黨派も相當の責任を負ふべきである。われらが希望するところは、民族革命の光榮ある歷史を持ち中國統治權を握る國民黨が、速やかに起つて救亡聯合戰線の建立を促成し速やかに過去の成見を捨て〻各黨各派と聯合し抗日救國のため共同奮鬪することである。いはゆる各黨各派の主要なるものは勿論

中國共產黨である。この國共兩黨は、九年前には北洋軍閥打倒のため、帝國主義打倒のため手を携へて共に戰つたんぢやないか？

われらは現在、この分裂した兩黨が共通の民族の敵の脅威を前にしてヨリを戻さぬのは何故であるか知らない。この兩黨間の深仇宿怨が取り除き難いためか？われらはなほ希望する——國民黨員のすべては、共產黨に對する仇恨が如何に大きいとはいへ、日本帝國主義に對する仇恨はこれと比較にならぬ程大きいことを知らねばならぬ。國民黨は共產黨と聯合すれば共產黨から利用操縱されると思つてゐるのか？事の責任はすべて國民黨自身にあるのだ。なぜなら、國民黨が本當に各黨各派と聯合して斷乎日本に抗するならば、國民黨を利用せんとする共產黨は必ず民衆から唾棄されるからだ。

現在では共產黨はすでに聯合抗日を主張してゐるが、國民黨は何らの表示もやつてゐない。その結果一般民衆をして共產黨はあべこべに全局を顧ることができ、成見を取り除くことができると信ぜしめたことは、國民黨にとつて充分に不利である。反對に國民黨が共產黨と再び握手して共に日本に抗するならば、民衆內における國民黨の信賴は大々的に高まるであらう。さうでなく、國民黨が自分だけで抗日をなし遂げ得ると考へるならば、それは國民黨の自殺政策であり、結果は共產黨のために機會をつくるだけだ。わ

れらはすべての賢明なる國民黨員、個々の忠實なる三民主義の信徒は、みなこのことがわかるものと思ふ

われらはなほ指摘する——國民黨陣營内にはすでに少數の官僚政客が這入りこんでゐる。この少數の官僚政客は、斷えず國民黨の革命功業を破壞してきたが、最近では更に一歩進んで亡國的親日政策を實行してゐる。この親日的官僚政客グループのうち、殷汝耕がすでに大手を振つて漢奸となつたほか、多くのものが人目につかぬうちに漢奸となつてゐる——彼らは國民黨内においてかなり重要な地位を占めることもに反面では國民黨の主義と政策をひそかに罵つてゐる、彼らは敵の力を借つて國民黨に壓迫を加へたことさへあつた。彼らは國民黨内において漢奸同樣の役割を演じつつあり、一切の政治的秘密事項はみな彼らが敵に漏らしてゐるのみならず全民族に對しても漢奸の役つて第二、第三の殷汝耕になるのは時間の問題にすぎぬ。これら官僚政客の存在は民族の危機であるのみならず、國民黨の恥辱である。國民黨がこれらの漢奸化的官僚政客を肅清しないならば、人民の信賴を贏ち得ることは不可能であらう。

五、中國共產黨および中國紅軍に對するわれらの希望

中國共產黨は昨年八月一日宣言を發表し内戰停止と各黨各派聯合による共同抗日救國を主張した。中國紅軍領袖も屢次にわたり通電を發し各方面に對して「停戰議和」「一致對外」を呼びかけた。われらは中國

共產黨および紅軍のかゝる政策に贊成するとともに、この政策が今後中國政治に大なる影響を及ぼすことを信ずる。なぜなら、從來國民政府および統治階級に對して絕對的な敵視態度をとり來つた中國共產黨でさへ現在では成見を除き各黨各派との停戰合作を主張してゐるから、その他の中國人民は容易に成見をうち消すことができ、お互ひに結びつくこと勿論である。われらは、中國共產黨がその實際の行動によつて抗日救國のために各黨各派と聯合せんとする誠意を示すことを希望する。ゆえに紅軍側では直ちに中央軍に對する襲撃を停止して和議の進行を容易ならしむべきである。紅軍の占領せる區域では、富農、地主、商人に對して寬容な態度をとらねばならぬ。各大都市では抗日勢力を弱めるが如き勞資衝突を避けるため努力せねばならぬ。かくてこそ救亡聯合戰線は阻礙なく發展するであらう。

われらが抗日救亡運動に參加した經驗からいふと、救國會およびその他の大衆團體内には往々にして思想の幼稚な若干の青年が見出され、抗日救國の集會或ひはデモストレーションにおいて階級對階級のスローガンを始め國民黨と國民政府に反對せよとのスローガンを提出して聯合戰線を破壞した。なほ少數の青年は抗日運動中に依然としてセクト主義的方法をとつた。

われらは、かゝる行動は斷じて中國共產黨の指示によるものではない思ふ——かゝる行動は中國共產黨最近の主張に反するからだ。これらは恐らく、共產黨内の幼稚な左傾的青年の個別的行動であらう。われ

らは、中國共產黨は速やかに彼らを糾正すべきであるを思ふ。

なほ或る地方には共產黨遊擊隊と自稱し任意に人民を殺戮するものがある。こんな紀律を守らぬ部隊がもし共產黨に隸屬するとしたら、共產黨は彼らを嚴重處分すべきであらう。さうでなければ共產黨は、かかる紀律を守らぬ部隊は共產黨と無關係であることを早速聲明すべきである。

六、一般大衆に對するわれらの希望

最後にいひたいことは、抗日救國の基本部隊は勿論人民大衆である。中央當局であると地方當局であるとに拘らず、國民黨であると共產黨であるとに拘らず、民衆から離脫しては駄目だ。民衆が參加しなければ、抗日救國はお話にならぬ。なほ救亡聯合戰線內において最も熱心であり、最も決定的であり、最も担白無私であるのは民衆だけである。しかし政治的經驗に乏しい民衆は、ともすれば一つの傾向を持つ——すなはち眼の前の利害のみ氣にかけて、遠大な目標を忘れることだ。

卒直にいへば、現在中國民衆に壓迫を加へるのは日本帝國主義だけではない、民衆が國內不良政治によつて受くる苦痛も充分に深刻である。或る貧苦の同胞が生活を維持するため餘儀なく漢奸となるのは取りも直さずこれがためである。

故に抗日救國運動中において、われらは從前通り一般民衆の切實な利益を顧みるべきである。例へば天災の救濟、失業の救濟、勞働者農民の待遇を改善し、苛捐雜稅の取消など何れも切實に實行し抗日救國の勢力を强めねばならぬ。

しかしわれらが一般民衆に希望したいのは、現在わが民族の大敵はたゞ一人であるといふことだ。われらは、この共通の敵をうち破つて始めて一般民衆の生活問題を徹底的に解決することができる。故に現在では、われらは暫く忍耐して、われらの內部的紛爭を避けねばならぬ。抗日救國の勢力を弱めてはならぬ。

現在民衆の政府に對する態度については、われらは、全力を擧げて政府に抗日出兵を督促するべきであるとともにできるだけ政府と合作して抗日をやるべきであると思ふ。たゞ政府が民衆を顧みることなく、一途に敵と親しみ、甚しきに至つては亡國條約を承認したときだけ民衆は起上つて政府に一致反對すべきである。

なほわが國民衆の文化的立おくれは蔽ひ難い事實である。抗日救國運動の主務任務の一は、最も後進的な大衆を敎育し、彼らをして積極的に救亡聯合戰線に參加せしめることであつて、少數の進步的大衆を動かして抗日の直接鬪爭をなすことではない。このことは、われらが特に大衆の指導者の注意を促したいところである。

以上はわれらが實際の經驗から贏ち得た若干の意見であるが、われらは充二分の誠意をもつてわが當局

と民衆に貢献する。「良藥口に苦し、忠言耳に逆らふ」とよくいはれる。われらのかゝる意見は或ひは各方面にとつて耳が痛いであらう。しかし國家民族の利益のためには、われらはすでに一切を顧みない。われらは信ずる——われらのこの意見が各方面の注意、研究、考察を惹き起しさへすれば、抗日救國運動の勝利の前途は贏ち得られぬことはないと。

最後に賢明なるわが當局、賢明なる政黨領袖および一切の愛國同胞に曹子建の次の詩を捧げやう

豆の箕を燃して豆を煮る
豆は釜のなかで泣いてゐる
もとは同じ根に生れながら
どうしてそんなにひどく燃きつける

中華民族解放萬歲！
中華民國萬歲！

中華民國廿五年七月十五日

沈鈞儒
章乃器
陶行知
鄒韜奮

第二章　全國各界救國聯合會

共産黨が全力を擧げて唱導する所謂抗日人民戰線は全國各界救國聯合會といふ形態において實現の端緒を得た。同會の成立大會は北蘇州路、河南路角の上海市商會を中心にして上海各界救國聯合會が主導する空前の大集會並びに街頭示威が行はれ、全上海を震憾せしめた五卅紀念日の翌日たる五月三十一日から翌六月一日にかけて沈鈞儒、章乃器、李公撲、錢俊瑞、吳清友その他の各團體各都市代表五十餘人が上海某所に秘密裏に集合し極度の緊張裡に行はれた。

大會第一日には上海各界救國聯合會、平津民族解放先鋒隊、南京救國協進會、厦門抗日救國會、香港抗日救國會、廣西全省學生救國聯合會、武漢文化界救國會、上海工人救國會、廣東文化界救國會など六十餘の救國團體並びに北平、天津、保定、濟南、青島、徐州、南京、厦門、香港、廣東、廣西、武昌、漢口など十八の都市を代表する六十餘名が出席した。大會出席に推された上海市辯護士公會々長沈鈞儒氏は六十四歲の老軀をさげて演壇に立ち開會の主旨と準備經過を述べた。その大意は——

「現在中國の危機は、もはや國難嚴重の四字をもつて表現できるものではなく、早くも亡國の境地に立ち到らんとし

てゐる。ゆえに亡國奴となるを願はぬ全國同胞は、本當に一致團結する必要がある。……なほ、われらは、全國各黨各派の內戰停止と抗日救國のための一致聯合を必ず促進せねばならぬ。しかし各黨各派の合作を促進するためには先づ人民自身が團結しなければ駄目だ。全國各界救國聯合會の組織準備は過去二ヶ月にわたつて進められた。時間の關係から、無錫、鎭州、蘭州、南昌、開封、長沙などの代表は出席することになつてゐたがまた來ない——これは大變遺憾だ」

つづいて全國各界救國聯合會のイニイシャチイブをとり最も積極的に活動した上海各界救國聯合會代表が起つて時事問題に關する一般報告を行つた……

「勿論、半植民地中國における人民戰線は、帝國主義列强における人民戰線とは當面の目標——結局においては一致するけれども——が異つてゐる。後者は反戰反ファッシズムを主要目標とし、前者は帝國主義の侵略に對する式力抵抗を當面の主要任務としてゐる。いふまでもなく今日われらが組織する全國各界救國聯合會は統一人民戰線だ。……今や世界はファッショ戰線と平和戰線の二大陣營に分れ、この對立する二陣營間の抗爭は日とともに尖銳化してゐる。勿論、中國は平和戰線に加盟せねばならぬ。しかし中國の平和は必ず民族革命戰爭によつて戰ひ取られねばならぬ。世界的任務を負ふためにも、或ひは歷史の敎訓に基づいても、中國は戰爭と侵略の惡魔——××帝國主義を打倒せねばならぬ。」

つぎに各團體代表の情況報告があり、午後八時までかゝつた。大會宣言を討論可決し會議第一日を終つたとき、時計はすでに十一時を指してゐた。

會議第二日（六月一日）は午前八時から午後十一時まで極度の緊張裡に十五時間にわたつて行はれた。會議には新たに無錫、泰安兩地の代表と十九路軍代表が出席した。「抗日救國初步政治綱領」を討論可決してから、十九路軍代表が大要左の如く報告した。

「十九路軍が上海で勇敢に××軍と戰つた經驗は三日亡國論（日本と戰へば、中國は三日間で敗北するとの說）が瀰漫の理論であることを證明した。われらはなほ、上海の戰鬪によつて、民衆の力の偉大さを知つた。十九路軍士兵は現在でもなほ抗日反漢奸の活動を續けつつあり、斷じて××帝國主義に屈服しない。十九路軍は大會に提議する——大會は直ちに全國人民に內戰停止と對日宣戰を呼びかけよと」

つづいて大會工作綱領および各代表の提案について討論し、最後に全國各界救國聯合會章程を決議して十一時すぎ閉會した。

昨年來抗日風潮は全支に瀰漫し對日武力抵抗並びに救國といふ共通の政綱の下に無數の新政治團體と大衆的組織が生れ、何れも「對日宣戰」「政治犯の釋放」「內戰停止」など共產黨の主張と同一のスローガン或ひは共產黨擁護を意味するスローガンの下に目覺ましい活動を續けてゐる。

しかし、これらの運動はなほ左の如き根本的な弱さと缺陷を持つてゐた。

一、しつかりした人民戰線組織がなく、大衆運動と大衆的組織とが共通の指導の下に聯合しなかつた。例へば上海、北平など各都市には多くの救國團體が組織されたが、統一的指導機關がなかつた。これがため抗日運動は全中國的性質と範圍を帶びるに至らなかつた。

二、個々の政黨は勿論のこと、すでに××帝國主義に對して明らさまな反對行動をとりつつある人民戰線派政黨との間にさへ、共同鬪爭遂行のための具體的な協定が締結されなかつた。これがため人民戰線は廣く各階層の抗日分子を吸き入れることができなかつた。

上述せる全國各界救國聯合會はこれらの弱さと欠陷を補ふべく組織された抗日運動の全國的指導機關であり、工、農、軍、政、商、學各界の抗日分子を包含する廣汎な人民戰線の核心である。

成立大會を通過した全國各界救國聯合會の成立宣言は先づ滿洲事變以來五年近くの期間における××帝國主義の不斷の侵略とこれに對する中國人民の抵抗を述べてから、つぎのように最近の情勢に言及してゐる

「××帝國主義は昨年の十一月から、さらに一步進んで華北五省を併呑すべく試みた。華北は國防資源上極めて重要であるのみならず、日本帝國主義の侵略とわが國政府の退却とは亡國滅種の趨勢を形づくりつつあるので、北平學生は敵の飛行機と大砲の威嚇の下に、歷史上最も悲壯な十二月九日、十二月十六日の大デモストレーションを行つた。それから、救國運動は全國各地に瀰漫し、抗日人民戰線は社會の各階層を包含した。華北の危機が一時緩和され、各地の漢奸活動と投降與論が現在では大ツ平に擡頭しないのは人民戰線の斷えざる抗爭の結果である。

人民戰線は過去の五ケ月間、つねに指摘した——日本の大陸政策の主要役割は全中國の滅亡にあり、われらの唯一の救亡圖存の方法は全國一致團結し全力をもつて敵に抗することであると。

人民戰線は一再ならず主張した——全國各實力派は、互ひに殺し合ひ國力を消耗する一切の內戰を即刻停止し、速やかに團結一致して外敵に抵抗せよと。また「合作」「親善」「敎睦邦交」などの恥づべきスロ

ーガンを廢棄し、抗敵のための組織および言論の自由を人民に與へよと主張した。利害が等しく、平等に我を過する民族と聯合して、正しい國際關係を建立せよと主張した」

さらに大會宣言は、南京政府の對內外政策、西南派の抗日主張始め中國々內の現狀勢に對して、つぎのように觀察してゐる。

一、南京政府の誠意をもつて團結し共に國難に赴けといふ主張に對して原則上、完全に同意するが、しかし南京政府が團結を主張する一面、外侮を暫く顧みず先づ內戰手段によつて異分子を排除すべしと主張してゐることは、理論的に矛盾し、實際上すでに不可能となつてゐる。なかんづく、南京政府が最近頒布した憲法草案および國民大會組織法は、一黨專制の放棄を毫も表示しないのみならず、反對に一黨專制の基礎を立法的に鞏化するとともに、南京政府の對立勢力に對する壓迫を强めんとするものである。

二、滿洲事變後、南京政府は六ケ月內に共產黨を消滅すると發表したが、その結果は四年餘の時日を經て雙方とも數十萬の英勇的戰士と無數の武器彈藥を犧牲にしただけであり、現在でも依然として國民黨と共產黨とは勢力伯仲である。しかしてわが民族はこれがため外敵に抵抗することが極めて困難となつた。この事實は、內戰および各實力派の鬪爭は敵の侵略を容易ならしめるだけであることを證明する。

三、南京政府は經濟力においても武力においても高度の優勢を占めてゐると同時に政治的にも最も重要な

責任を負つてゐるから、人民の最も重要な批評と最もさし迫つた希望を受容れねばならぬこと勿論である南京政府の過去の誤謬は政治的には民族革命の任務を放棄し、武力によつて全國を征服せんとのみ企圖したことであり、現在の誤謬は對外的には民族共通の敵に對する鬪爭を忘却し、對內的には異分子の消滅によつて抵抗力を弱めたことである。南京政府がこれら誤謬を糾正し、民族革命の任務を再び担負し、殊に對日戰爭を堅實に指導することができるならば、その軍事政治上の指導的地位は容易に保持されるであらう。

四、全國一致團結の實現は、すでにハツキリした見透しがある——李宗仁氏は最近焦土抗日の決意を表示した。馮玉祥氏は最近、內戰停止、對ソ親善、一致抗日を主張した。共產黨は一部分の政治的主張を改變し、各黨各派と合作し日本に抵抗せんとしてゐる。理論的には、中國は獨立自由を獲得するため民族革命を必要とするといふことは、各方面の一致した主張であつた。爭論はたゞこれがためとるべき手段をめぐつて行はれたが、この問題は現在では「抗日第一」の原則の下に自然に解決されるであらう。

五、內爭が依然として續けば對外一致は不可能である。しかして、かゝる危險なる局面の打破は、人民戰線の直面する主要任務である。故に大會は各黨各派に建議する——

イ、各黨各派は直ちに軍事衝突を停止すること

ロ、各黨各派は直ちに政治犯を釋放すること

ハ、各黨各派は直ちに正式代表を派遣すること、人民戰線は紹介者となり折衝を進め、共同抗敵綱領を規定し統一的抗日政權を建立せんことを希望する。

ニ、人民戰線は、共同抗敵綱領に對する各黨各派の忠實な履行を全力を擧げて保證する。

ホ、人民戰線は、共同抗敵綱領に違背する黨派および抗敵勢力を弱める一切の行動に對し全力を擧げて制裁を加へる

大會宣言はさらに人民戰線の任務と主張に逐一言及してから、中國における抗日人民戰線の對外主張についてつぎのように世界各國に呼びかけてゐる——

「大會は、日本帝國主義に對する中華民族の抗戰は全世界の人心を振ひ起し、全世界の耳目を刷新することができると思ふ。日本帝國主義の存在は、人類平和の重大脅威であるのみならず人類道德の惡魔である。平和、人道、正義のために戰ふ全世界のあらゆる大衆は、中國の抗日戰爭は中國自身の生存のためであるのみならず人類の公敵を除くためであることを認めるであらう。中國の抗日戰爭は國際的協動により人類の惡魔を除かんとする戰爭であつて、中華民族はその前衞の任務を担任するだけだ。全世界の良心ある大衆はわれらに熱烈な同情を與へねばならぬのみならず、この國際戰線に積極的に參加し共に敵に抗す

べきである。

大會は知つてゐる——過去において、各國の人民團體は、その多くが中國の抗日人民戰線と聯絡を取り多大の援助を與へたことを。

大會は、日本國內の理性ある大多數人民を含む全世界大衆に再び提議する——まだ中國人民戰線と聯絡を持たない個々の勢力は、直ちにわれらと關係を樹立せよと。技術家、軍事家、作家、新聞記者などでこの國際戰線に參加せんとするものは、直ちにわれらと通信を交換せよ。われらは諸君の參加を心から歡迎する。諸君は國外にあつても或ひは中國に來ても、同樣に諸君の偉大な力を發揮することができる。」

全國各界救國聯合會の成立後、間もなく南京對西南の對立が尖銳化し、これに伴つて全支の抗日風潮が高潮した。かゝる情勢は全國各界救國聯合會の活動を極めて容易ならしめたので、同會は活潑な宣傳工作を開始し、二中全會開會當時は所謂「對日宣戰」請願運動を捲き起した……上海各界救國聯合會の機關紙「救亡情報」は左の如く報導してゐる。

全國各界救國聯合會赴京請願經過

西南が抗日を號召してから、國內情勢には大なる變化があり、同時に日本帝國主義は更に具體的な經濟提携の新策略によつて中國に進攻しつゝある。この二重の情勢下における二中全會の開催は、中國生死存亡の一大關鍵であるとみることができる。全國各界救國聯合會は政府に對日卽時開戰と民族實力を消耗する內戰の停止を要求するため、上海市律師公會々長沈鈞儒、前浙江實業銀行重役章乃器、婦人辯護士史良、大學教授彭文應、辯護士沙千里の五氏を代表として南京に派遣し二中全會に請願せしめることに決定、なほ南京にて新聞記者を招待し、人民戰線の組織經過と請願情況を報告するとゝもに新聞記者に對し救國ニュースの揭載を要求し以て救國宣傳を擴大し同時に南京と一切の抗日分子と聯絡し同情と援助を獲得し、救亡運動を展開しその影響を擴大することに決定した——これは代表團の入京任務である。

代表團は九日夜汽車にて上海を出發し十日早朝南京到着前後四日在京し、十三日午前中、大會に請願し午後新聞記者を招待したほか、他の時間は在京要人の訪問聯絡、招待などに費やした。

請願に先立ち代表團は左記各項を要求することを決議した。

一、二中全會に對し代表團をして大會において五分間發言せしめることを要求す

二、大會が卽時對日抗戰を決議することを要求す

三、大會が民衆救國運動の許可、言論、出版、集會、結社の自由並びに政治犯釋放を決議することを要求す

四、內戰の停止

十三日午前十時代表團は請願文を携へて出發し中央黨部の大會々場に到着した。會場內外の警戒はとても嚴重であつた。代表團は許されて二人だけ內に入り、一度交涉して始めて傳達處から禁衛處に案內され、接見か否か大會の返答を待つことになつた。代表團が禁衛處に入つたとき、馮玉祥夫人李德全女史の指導する婦女競選會の代表が來てゐたが、彼らは朝の七時からすでに三時間も待つてゐるとのことであつた。今回代表團が入京してから、全國學生救國聯合會の代表一人と平津七十七校の代表四人が同時に入京し二中全會に請願することゝなつた。故に十三日大會に赴いた時も一緒に出かけた。當時大會の接見順序は、先づ婦女競選會の代表の五人だけと會ふことが許されたが、婦女代表が頑張つたので十人とも會ふことになつた。次は全國學聯の代表であるが、大會は全國學聯は合法的團體でないと

認めたので接見不能となつた。代表は言ひ爭つたが駄目であつた。第三は大會から馬超俊を派遣して代表團と接見した。最後に會場情が平津代表と會つた。しかしその時全國學聯の代表は自發的に退入つて會場情と談話を交へた。會氏は却つて不接見はしないとの意志を表示した。

代表團は馬超俊と會見した時、直ちに大會に對する四項の要求を提出した。馬氏は逐一返答した。返答後、各代表は辯論した。馬超俊は五分間の發言を許可せよとの要求に對して、大會は中央委員會議であるから人民代表は列席することができぬと答へたほか、他の三項はみな接受して大會に報告すると答へたが、彼の返答は大體次の通りである

一、對日抗戰について

政府は事實上準備してゐる。野にある人は知ることができぬが、中央の責任者は知つてゐる。つまり、人民と政府に相互に信賴すべきである。特に人民は政府を信賴し、政府より軍令政令を統一して日本に抵抗すべきである。なほ馬超俊は、彼自身は抗日である。しかし人民は抗日のことで政府を非難してはならぬと言つた。

二、民衆救國運動の許可について

南京で救國運動が壓迫されたことを承認せず、南京の中學生五人が未だ釋放されぬことを否認した。各地當局の壓迫は彼らの誤聽であるが、南京はそうではない。全國各界救國聯合會の集會を持つことが容易でないならば、南京にやつて來て會を開いたらよい。南京の民衆運動は極めて良好に行はれ、誰でも公民訓練に參加してゐる。人々は網紀を守るべきであつて、民衆運動によつて政府を攪亂してはならぬ。

三、內戰の停止について

彼はいふ——現在所謂內戰は存在しない。西南問題は兵力を使用せずして、政治的方法によつて解決することができる。なほ國防會議を組織し西南領袖を參加せしむることゝなつたと。

馬氏が答へてから各代表はみな不滿に感じたので、相ついで發言した——政府は抗日の決心があり相互信賴を實現せんとすれば、少くとも直ちに內戰を停止するとゝもに民衆救國運動を開放し、言論、出版、集會、結社の自由を切實に保證すべきである。反對に政府が抗日決心といふ壁をついて、一面では內戰により國力を消耗し、人民愛國運動を壓迫すればどうして人民が政府の抗日を信じられやうか？網紀遵守に至つては、第一に政府の旨意が法律に依るに非ざれば人民を逮捕するを得ずとの約法を守つてゐない。人民は犯罪の嫌疑で逮捕された場合も、須く二十四時間內に法院に送つて處理することになつてゐるが、人民は常に理由なくして失蹤し、後になつて調査すると當局によつて逮捕されてゐる。逮捕されてから、二十四日は勿論のこと四ヶ月も法院に送られない。故に網紀肅正は先づ政府の官吏から始めるべきである。

諸團の情況は大抵こうであつた。得たところの結果は、われらの予想と余り遠はない。しかし出發するに先立ち、上海における壓迫情況から推察して門前拂ひを食ふものと思つてゐたが、このことは予想が外れて、南京中央當局は全國各界救國聯合會は非合法であるからと、接見を拒絕することをやらなかつた。上海では非合法とみられてゐるが最高當局は全國各界救國聯合會を合法團體として承認したのだ。これは代表團諸團の一つの收穫であるといはざるを得ない。次に馬超俊談話は人をして滿足せしめないが、全國各界救國聯合會の諸團條項は受容れて大會に報告するといつた。

同日午後三時から新聞通信社員を招待した。中央日報、中央通訊社、南京日報、青白報、新民報、大公報、申報などの記者二、三十人集つた。先づ章乃器が全國各救の綱度、主張、諸團情況を報告し、次に史良が組織經過を報告し新聞界の援助を求めた。

第三章　上海各界救國聯合會の活動狀況

上海各界救國聯合會は上海文化界救國會、上海婦女界救國會、上海職業界救國會、上海各大學教授救國

會を主要加盟團體とする赤色抗日團體であつて、全國各界救國聯合會の最有力な構成單位である。同會は最初上海抗日救國大同盟と稱してゐた。これは上海の共產黨組織及び中國民族武裝自衛委員會の一派が共產黨の新方針に基づき大衆團體として組織したものであるが、汪精衛狙擊事件に對する檄文その他を發表し影響下の學生をして南京路邦商日比野洋行を狙擊せしめ一般民衆の對日感情を昂奮せしめんと圖つたのみで何ら目覺ましい活動を行はなかつたが、昨年十二月中旬になつて北支學生運動が上海に波及し來るや、上海各界市民救國聯合會の旗をおし立て、學生運動に合流し、街道デモの先頭に立ち、學生を漸次組織して行つた。しかし當時は地下の共產黨員が時たま出現するといふやうな程度で、上海各界市民救國聯合會も幽靈團體の觀があつたが、上海文化界救國會、上海職業界救國會など各種の救國團體が組織されるに及んで上海各界救國聯合會の名の下に再登場しこれら團體內部にフラクションを潛入せしめて指導權を獲得せんとした。後になつて各團體の代表を召集して正式に成立大會を擧行し名實共に上海の各抗日團體の統一組織となり、指導權を掌握するに至り、從つてその活動は頓に積極的した。殊に所謂紅色五月には各紀念日毎に檄文を撒布するほか「上海各界民衆五九紀念大會」「上海各界民衆五卅紀念大會」等を擧行した。

なほ同會は去る五月十日より機關紙「救亡情報」(週刊)を發行してゐるが、その題字は九十七歳の老政客馬松伯の手になり各號毎に各地抗日團體の動向、政局批判、各團體の宣傳等を滿載してゐる。西南派が抗日反蔣行動を開始した當初は、西南派の抗日を絕對支持すべしとの論說を連載し、續いて南京政府に對する對日宣戰請願運動を開始したが最近では日負排斥に狂奔し去る八月九日には上海市市民緝私運動大會を擧行した。その模樣は——

「八月九日午前九時、上海各界救國聯合會は天后宮橋の市商會において上海市々民緝私運動大會を召開した。人々はその通告に接して、暑さも物かわ、三々五々と遠くから、或ひは近くから九時以前に市商會前に到着した。その時、商會の鐵門は緊く閉ぢられ、門內には公安局警官が頑張り、門口にも勿論工部局の武裝巡捕が警戒してゐた。天后宮橋と河南路には武裝巡捕と外支人スパイが嚴しい警戒線を張り日本浪人は何らかの情報を得んものと路傍に突立つてゐた。中國人が中國領土(上海市商會は租界警戒の管轄外だ)で開會できないとは、われ等が亡國奴となる日が愈よ近附いてきたことを物語つてゐる。

指揮部の派遣した連絡係が寶山路の東方圖書館で開會することになつたと告げたので、われらは北河南路に沿つて進んだ。會場についたとき、全身の汗は衣服をびつしより濡らしてゐた。上海事變の戰場たる寶山路に立つ東方圖書館のガランとした建築物の上には、なほ敵の砲火の遺跡を留めてゐる。われらが今日、この偉大な紀念價値を有する場所で開會することは極めて深刻な意義を持つてゐる。

一、二千の群衆が、東方圖書館の廣場に充滿した。主席團上海市律師公會々長沈鈞儒、前浙江實業銀行重役章乃器新聞記者顧執中、婦人辯護士史良、辯護士王造時などは圖書館の樓上に立つてゐる。かくて悲壯な大衆的大會が開かれた。

長壽をなびかせながら沈鈞儒が開會の辭を述べた——「密輸品の侵入は、關稅收入に打擊を與へ、わが政府をして取締り條件を公布し阻止に吸々たらしめてゐるのみならず、われらの脆弱な民族工業に打擊を與へ、われらの個々の生活に影響を與へてゐる……故に、われらは民衆の緝私大同盟を組織し政府の取締りを援助せねばならぬ。特にわれ

らは北支獨立の陰謀と關稅引下げに反對する」

ついで王造時、章乃器が演說し左記三項を決議した。

一、上海市民衆組織大會の名義をもつて全國民衆に通電を發し組織せしめる。

二、政府に通電を發して、關稅引下げと北支獨立の拒絕を要求する。

三、政府に、組織工作人員の勞力を奬勵するやう要求する。

最後に、臨時動議により街道デモを行ふことになつた。上海各界救國聯合會組織大會の旗を先頭に、艦の如き除伍が閘北の大通りに出現し、一部の人はバス、黃包車、交番所の大傘の上などに白墨で「不販私貨」「不用私貨」「要求政府武裝抗日」「實行民衆組織」などのスローガンを書き込んだ。

同會のこの運動方針變更は同會成立以來背後にあつて重要役割を演じつゝある馮玉祥、陳立夫など國府要人の指示に基づくもので、當局の神經を徒らに刺戟する「對日宣戰」請願を放棄することにより活動の全法性を保つとゝもに抗日共同戰線を擴大鞏化せんとするものであるといはれてゐる。

次に去る九日の示威の際、配布された「上海各界救國聯合會爲民衆組織私宣言」を譯出して參考に供する。

「實東偶組織が成立してから、日本帝國主義は國內において一の大本營を持つに至り、日本陸海軍人と浪人が協力經營する密輸品はドシ〳〵北支に侵入し、さらに全國各地に普偏してゐる。本來、日本帝國主義の商品ダンピング手段は、すでに全世界を奔やかしてゐるが、現在では中國にて彼は脫稅によるダンピングを行つてゐることは、われ等に致命的打擊を與へんとするものである。政府の主要財源は重大な影響を受け、生產的民族工業、貸借の金融業、國貨商店は物價の暴落によつて大なる損害を蒙り破產せんとさへしてをり、無產大衆は人減らしと失業の苦痛を感じてゐる彼らが消費の點で少しの便宜を得てゐることは毒藥を呑するやうなものである。なほ外國人經營の正當在華商工業も

同樣の損失を受けてゐる、

この事實は、われ等に何を告げるか？それはわれ等に告げる——國家は完璧たるべきであり、一隅の失は全局に影響する。關內人は關外問題に對し、中支、南支人は北支問題に對し對岸の火事であり、自分に關係がないと思つてはならぬ。それはわれ等に告げる——日本帝國主義によつて喚起された中國現下の危機は、全民族の危機であり、それは斷じて或る一黨派或る一階層のことではない。かゝる原因のため、かつて救國戰線は擧國の戰をもつて北支事件に對應すべきことを主張し、全國の各黨各派各階層が一致團結し敵に抗すべきであると一再ならず主張し來つた。

かつて救國戰線は斷えず指摘した。抗日は歷史上最も困難な民族戰爭であり、全國上下一致團結することなくば、われらは勝利することができないと。

全民族の聯合戰線を促成せんがため、本會は「五卅紀念大會」において、上海市民衆組織大同盟の組織を決議した。今日始めて成立大會を開くとはいへ民衆組織工作は、過去數ヶ月にわたり不斷の努力が拂はれた。

上海市民衆組織大同盟成立大會に參加するには、われらは次の認識を持たねばならぬ。

一、徹底的に密輸取締りを實行するためには、密輸を庇護する日本帝國主義陸海軍に對し武裝抵抗を加へねばならぬ。

二、全國上下密輸取締りに協力することは全民族聯合戰線の出發點である。われらはこの戰線を擴大强化し抗敵の基礎たらしめねばならぬ。

三、民衆組織運動に勞力することによつて組織される民衆の力は特に偉大である。

四、民衆組織運動實行の事實によつて救國戰線の要求はたゞ全民族團結による一致抗日であり、甚しきに至つては政府が未だ抗日を實行しないとき或る一分野において强硬態度を表示しさへすれば民衆は直ちに政府の後盾となることを表示する。これは日本に抵抗するには統一が必要であることを表示する。

五、われらは組織に勞力するとゝもに親日派官僚が關稅低下をもつて敵に密輸取締りを要求するための妥協條件た

らしむべく活動してゐることに注意すべきである。かゝる喫切的條件をわれらは聞く否認する。われらは、財政當局の誠意せずとの諸言固執を要求する。

一、上海文化界救國會

上海文化界救國會は文化團體の反日統一戰線として昨年十二月二十八日成立した。成立大會は當日午後三時より寧波旅滬同鄉會において開かれ、文化事業に携はる反日著述家、作家、新聞記者など二百余名出席し、前浙江實業銀行副經理章乃器、上海律師公會々長沈鈞儒などを主席團に推し簡單宣言などを通過し執行委員として現在香港で「生活日報」を發行する鄒韜奮、暨南大學教授錢亦石など二十數名を選出した。成立大會を通過せる「上海文化界救國運動宣言」は先づ日本の滿洲奪取とこれに繼ぐ北支侵略によつて中華民族は生死存亡の重大時期に直面したので、社會指導の使命を負ふ文化界は民族の先頭に立つて抗日救國運動を指導すべきであるこ强調しできるだけ民衆を組織して協力一致もつて敵と決死の戰鬪をなすことは中國民族の唯一の出路であるとて日本に對する民族革命戰爭の發動を力說し最後に左の如き主張を提起してゐる。

一、領土と主權の完整を堅持し、領土主權を侵犯する一切の條約及び協定を否認す。

二、中國領土内において如何なる名義を以て成立するに拘はらず外力の策動による特殊行政組織に斷乎として反對す。

三、全中國の領土主權の問題たる綏遠事變と北支問題を地方事件として解決することに對し斷乎反對す。

四、冀東及び東北傀儡時代のための即時出兵を要求す。

五、全國の兵力財力によつて敵の侵略に反抗することを要求す。

六、一切の賣國賊を肅清しその財產を沒收せよ。

七、人民の結社、集會、言論、出版の自由を要求す。

八、全國民衆は直に自ら組織し有効なる手段をとり言論、出版の自由を爭取せよ。

文化界救國會の機關紙は前申報社長史量才紀念圖書館管理者李公俠などが發行せる生存線であつたが、當局の彈壓により發行不能となるや改題して「暴風雨」を發行し、更に三月二十八日附を以つて正式機關紙「上海文化界救國會々刊」を發行したが、上海各界救國聯合會の機關紙「救亡情報」が發行されるに及んで廢刊した。

上海文化界救國會簡章

第一條　本會は上海文化界救國會と名を定む

第二條　本會は文化界同志を團結し、大衆文化を發展せしめ民族精神を發揚して國家主權領土の完整を保證するを以つて宗旨とす

第三條　凡そ文化界個人或ひは團結にして本會宗旨に贊成し會員二人の紹介を經て執行委員會を通過せる

者は本會々員となるを得

第四條　本會に執行委員會を設け委員大會より執行會員二十一人乃至二十七人、候補委員五人乃至七人を選舉して之を組織す、任期は半年、連選は連任を得、執行委員會は常務委員七人乃至九人を互推し本會日常事務を執行せしむ

第五條　執行委員會は左記各部の事務を掌る

一、事務所、二、文書部、三、組織部、四、宣傳部、五、交際部、六、研究部、七、情報部、八糾察部、各部に主任一人を設く、常務委員より之を互推し、幹事若干人は常務委員會より之を聘任す、執行委員會は必要なる時は特別委員を指定し各種特別委員會を設立するを得

第六條　常務委員會は毎週一回會を開く、但し必要なる時は臨時之を召集するを得

執行委員會は二週間毎に一回會を開く、但し必要なる時は常務委員會より臨時之を召集するを得

會員大會は三月毎に一回會を開く、但し必要なる時は執行委員會より之を臨時召集す

第七條　本會經費は會員よりその入會費一元を徵收す、必要なる時は臨時募集するを得

第八條　本簡章は會員大會より通過施行す

上海文化界救國會は昨年末雨後の筍の如く發生せる救國團體中、最も有名な團體であり共產黨の黨團を會內に包含するほか、在上海ソ聯機關、國民黨の抗日要人および廣西派とも連絡して活動してゐる。例へば南京發行の旬刊「時論」誌の報導によると、「陶行知、鄒韜奮、陳彬龢など上海文化界救國會の多くの重要分子は李宗仁、白崇禧の上客として廣西に赴いた。上海に留まり共產黨およびコミンテルン駐滬代表タイロフと連絡をなしつつあるものは章乃器、李公樸、王造時などである。陳彬龢はすでに御用記者となり香港の威壓術において廣西の宣傳機關紙「西南日報」を發行、鄒韜奮が主宰する「生活日報」と互ひに呼應してゐる。」

なほ文化界救國會の主要メンバーは左の通りである。

馬相伯（前北京大學校長）王造時（辯護士）艾蕪（文藝作家）李公樸（前浙江實業銀行重役）陸詒（新聞報記者）鄒韜奮（生活日報社長）鄭君里（聯華影片公司）沈茲九（婦女生活誌編輯人）陶行知（國難教育社代表）金則人（世界知識編輯人）張仲實（生活書店）歐陽執無（中國經濟統計研究所）金焰（聯華影片公司）錢亦石（大學教授）金仲華（著述家）杜君慧（前申報記者）呂驥（音樂家）沈鈞儒（辯護士）錢歌川（新中華誌記者）曹聚仁（復旦大學教授）袁牧之（明星影片公司）倪文宙（新中華誌記者）施超（映畫俳優）周鏧基（生存雜誌編輯）

二、上海著作人協會

上海文化界救國會並びに上海各界救國聯合會の表面的人物として抗日運動の先頭に立つと、もに各種左翼反日雜誌に筆陣を張り抗日宣傳を專門としてきた章乃器、金則人、錢俊瑞、沈茲九、周新民、潘大逵、沈鈞儒、曾虛白、諸青來などは曾ねてより上海著作人協會善備委員會を設けて活動してゐたが最近になつて「直面せる民族危機の重大性と自己の生活保障を爭取すべき必要を痛感し鞏固なる聯合戰線を結成する」ことゝなり去る六月二十八日、二百餘人の著作人が上海靜安寺路基督教女子青年會大禮堂に參集し成立大會を擧行した

先づ善備會責任者が起つて「本會準備は約半ケ年に亘つて進められ、今日始めて一段落ついたわけで、善備會責任者は深い喜びを感ずる、本會員は現在すでに一百四十人に達してゐるが、なほ上海の著作人全部を包括してゐないので、大會はできるだけ速やかに組織を發展せしめて全上海の著作人を本會に加入せしめるやうにしたい」と述べつゝいて主席團人名を提出、會員の同意を求め倪文宙、諸青來、曾虛白、周新民、章乃器、沈鈞儒、錢俊瑞、金則人、周憲文、潘大逵、沈茲九など十一人を主席團に推すに決定、主席團はさらに諸青來を議長に推した。

諸青來の演說要旨は左の通り、

「著作人は本來內面精神ともに勞するものである、以前にはかゝる集會がなかつたが、今日では人々が團結しつゝある、今後精神勞働者が共同努力することは慶祝に値する、しかして本日の大會は著作人の新紀元を劃する、余は期待の限りなき發展を祝ふものである」

つゞいて各界代表の演說があり、先づ全國救國聯合會及び上海文化界救國會代表沈鈞儒（上海市律師公會々長）が起つて「著作人が救亡運動の當然の任務を担つて、一切の誤れる「輿論」を糾正し、西南の抗日要求に對して正義を主持せんことを希望する」と述べた。

つぎに上海婦女界救國會代表胡子嬰、中國文藝家協會代表何家愧、全國學生救國聯合會代表、上海職業界救國會代表、劇作家代表尤競などの演說があつてから會員の演說に移り先づ王造時が日本攻撃の言辭を放つてから——

「われ等のペンの目的は(一)ペンを持つて帝國主義の鐵砲を打倒する、(二)ペンをもつて國內軍閥の鐵砲を打倒する(三)正義を主張するペンをもつて軍閥帝國主義の利益を擁護するペンを打倒するにある」

と述べ李公樸、曾虛白、沈志遠、碧遙、章乃器などが激越な排日演說をなした。

最後に簡章、宣言が通過し理事、候補理事を選出してから左の各件を決議し六時すぎ散會した。

一、協會より宣言或は通電を發し中央に抗日を請求する

二、全國民衆の西南に對する理解のため代表を派して西南の事情を調査す

三、演劇、詩歌、歌唱の禁止、永生週刊發禁など愛國運動の不法壓迫に對して宣言を發表し正義を主

張する

大會にて選出された理事並に候補理事人名左の如し、

理事十五人

章乃器	前浙江實業銀行副經理
錢俊瑞	著作家
艾思奇	讀書生活編輯人
李公樸	前申報社長史量才紀念圖書館長
諸青來	大學教授
曾虛白	大晩報記者
金則人	世界知識誌編輯部
周新民	著作家
錢亦石	暨南大學教授
沈志遠	中山文化教育館特約編輯人
沈茲九	女流評論家婦女生活誌主筆

張	閎
張明養	
王造時	辯護士
張仲實	生活書店

候補理事三人

潘大逵	上海法學院政治經濟科教授
吳清友	交通大學譯文講師
駱耕漢	

大會を通過せる上海著作人協會章程並びに宣言左の如し、

一、名稱　本會は上海著作人協會と名を定む

二、宗旨　本會は感情を聯絡し、學術を研究し、民族解放を促進し、大衆文化を提倡し生活の保證を謀るを以つて宗旨とす

三、會員　凡そ本會宗旨に贊同し本會章程を遵守し會員二人の紹介があり理事會の通過を經たるものは本會々員となるを得

四、組織　本會の最高權力機關は會員大會とす、會員大會より理事十五人、候補理事三人を選擧し、理事會を成立せしむ、常務理事九人を互推し日常事務を處理せしむ、理事會は總務、研究、出版、俱樂部の四部を設け、各部に正副主任各一人を設く、各部は幹事若干人を聘請することを得

A、總務部は文書、會計、交際の三課を設く

B、研究部は一時社會科學、自然科學、藝術科の各班に分ち、各班を若干組に分け、各組に組長一人を設く

C、出版物は定期刊行物並びに專門著述の出版を計劃するとゝもに會員の原稿を紹介す

D、俱樂部には正當なる娯樂を設置し會員の心身强健に供す

五、會議　會員大會は半年毎に一回擧行す、必要なる時は、十分の一以上の會員或ひは理事の建議により之を召集す、理事會は毎月一回擧行する、各研究組は毎週一回會を開き學術を研究、問題を討論するとゝもに各刊行物に發表された作品を批判す

六、經費　會員は入會の際、各人が入會費一元を納入し、會員は半年毎に一元、必要な時は寄附金募集を擧行する

七、權利　會員の原稿は本會より酌量紹介し各刊行物に發表するを得

八、附則　本會章は會員大會の通過を經て之を施行す

成立宣言

生活は必要である、われらは生活の保障を爭取すべきである。

生活の保障は生存中にあつて始めて獲得できる、われ等は先づ集團的力量を確立すべきである。

四年九ヶ月來の教訓は、東北が亡びたら北支内蒙の名存實亡といふ風に民族の敵のたえまなき進攻の形勢下に、中華民族はすでに最後の生死存亡に立ち到り、すでに各中國民衆の生存條件が奪はれたこと明らかである。

個々の中國民衆はかれ等の生存を爭取するため、帝國主義の奴隷とならないためには、みな起ち上り團結せよ、聯合せよ、集團の力を以つて敵の侵略壓迫を粉砕せよ、全民族の最後の危機を救へ、事實はハッキリわれ等に告げる——意識せる中國民衆はすでに起ち上りすでに團結し、全民族の解放を爭取するため、すでに纖の如き抗日聯合戰線を樹立した。

個々の著作人は、自己の生存を爭取するためにはこの神聖なる抗爭に參加せよ、この民族解放運動に參加せよ。

一切の著作人は、自己の團結力を表現するため固く團結せよ、手を携へて一切の救亡的團結力を聯合せしめよ、肩を並べて全中華民族解放の使命を完成せよ。

今度、われ等はかゝる神聖の目標の下に上海著作人協會を組織した、しかしこれは著作人の一部分の集團力を完成するにすぎぬこと勿論である。われ等は充分な熱情と懇切なる態度をもつて全國のあらゆる著作人が、直面する民族危機が自己の負ふべき責任を確定してゐることを認識して過去における一切の成見を抛棄し、ペンを握る一つ一つの手を伸し、統を握る集團力となし、共通の新活路に向つて進み一致前線に立ち全民族の生存、個人の生存を保證せんことを希望する。

われ等は、上海のあらゆる著作人が、この協會に加入することを希望する、時機は大いに切迫した、一切の著作人

は、個人の生存と引離してはならぬ。孤立はすでに「光榮」ではない。退縮と屈服は「自己滅亡」の路である。われ等は生存條件の最低保障、言論出版の自由、團結集會救國の自由を爭取せねばならぬ。

われ等は要求する——すべての著作人が團結せよ、國の如き無團力を組成せよ、民族生存を保障する有力な堡壘を建立せよ中華民族解放萬歲！」

故に上海著作人協會は反日論客の縱斷的組織であり上海文化界救國會その他の抗日團體と密接な關係を持つてゐるが、「中外問題」誌はこの點に關し特に强調してゐる。——「六月中に、上海には二つの文化團體が成立した、第一は矛盾（沈雁冰）傅東華などを中心分子とする中國文藝家協會、他の一つは李公樸、章乃器、金則人などを中心分子とする上海著作人協會である。この二團體は少しも統屬關係を持たないのみならず現在ではなほ相對立した二陣營である。先づ上海著作人協會について述べやう。この團體の主要分子李公樸などは、こゝに改めて紹介するまでもなく讀者は大方知つてゐるだらう。李公樸、章乃器は上海文化界救國會の代表人であるが、文化界救國會が再三壁にぶつつかつたので永續きせぬことを深く恐れ改裝して著作人協會となした。同時に名稱を換えることにより內容を知らぬ盲目青年を吸收せんとした。この方法は相當利口であるといえる。

もし、われ等が突つ込んで考えるならば現在の文化界救國會、職業界、婦女界、學生界の各種救國團體は完全に國家主義派たる黃炎培系の仕事であることがわかるのである。黃炎培の野心の大きさは、陳啓元李璜などに必敵する。黃炎培は以前には暗殺された前申報社長史量才から擁護されてゐたが、現在は某名士の庇護を受け國民黨政權顧覆の陰謀を敢志としてゐる。今回西南の反蔣抗日に先立ち突然救國運動が起つたのは決して意義のないことではない。もし西南の抗日反蔣が勝利したとすれば、黃炎培の一派も分け前にありついたであらう。故に、この上海著作人協會は成立したのはやゝ遲かつたが、その負ふところの使命は決して小さなものではない」

三、國難教育社

國難教育社さは半月刊雜誌「生活教育」を發行する傍ら「工學兒童團」を經營して新聞賣子の教導に當りつゝある陶行知を中心にして昨年十二月成立せるもので、上海各界救國聯合會の加盟團體として專ら排日宣傳方面において注目すべき活動をなしつゝある、

殊に陶行知は昨年末、國難教育方案なる排日宣傳綱領を作製し、之を上海文化界救國會に提出した。文化界救國會では一月六日の幹部會において右方案を文化界救國會の排日宣傳方針として採擇するに決定し各種出版物に掲載したので、この方針をめぐつて左翼抗日陣營には猛烈な論戰が交へられたが、各界救國聯合會系統の論客は絶對支持の立場を表明した。

國難教育社の代表たる陶行知は中國教育界に貢獻をなす理論的指導者であるとゝもに實踐家であり、上

海市教育局長にしてCC團の領袖の一人潘公展とは知己の間柄であるが、世界教育聯合會年次大會に中國代表として出席するため廣西、香港を經て赴英した。これに先だち廣西南寧民國日報、香港生活日報等に排日論說を發表した。

世界教育聯合會は米國教育會の發起せるもので、一九二三年六月成立した。その宗旨は國際合作をもつて世界の和平及び教育事業の發展を謀るにある。經常機關は幹事會、幹事若干人と正會長一人、副會長三人あり、一切の事務を處理し、本部は米國に設け參加者は十餘國である。每年の大會には中國から代表者が出席し且つ同會の副會長に連任してゐる。

なほ國難教育社は去る七月十一日附をもつて週刊會報「國難教育」を發行し排日記事を滿載してゐるが、同社が組織的に、且つ理論的に排日宣傳をなしつゝあることは特に注目すべきであらう、同社の發表にかゝる國難教育社組織發起の理由は左の通りである。

一切の中華民族はすでに最後の生死關頭に立ち到つた。われらの主權は敵が何時でも侵犯できる。黃河以北の領土はすでに中國のものではない。北支五省の自治も「冀東防共自治政府」と變組なる自治組織「冀東政務委員會」につゞいて將に出現せんとしてゐる。蒙古王公の自治傀儡はすでに「偽滿」の滿儀をして同伴者を得せしめた。敵は中國を進攻するに當り漢奸を利用して中國占領の手段となし最近では意よ惡辣である。

われらはハッキリ知つてゐる——敵の中國進攻は彼の一貫せる大陸政策であつて、彼は中國を植民地ならしめぬ限り手を放さない。たゞ漢奸と暗殺のみが敵の進攻は迫つて止むと希望し、敵とわれらの間の「懸案」を外交手段によつて解決できると幻想することができるのだ。われらは敵の侵略に反抗する以外は民族解放を獲得する方法を持たない、われらは血を流す以外は、民族自由を獲得することができない。

われらは一九三五年末、中國の各重要都市における學生運動は全中國解放運動の要求を表現し、半植民地インテリゲンチヤの先鋒的任務を英雄的に實行するものであると認める。半ヶ月も經たぬ中に、この運動は各方面の同情と聲援を獲得し、文化界、婦人、店員などこの運動の影響下に組織されつゝある。

この點においてわれらの特に注意せねばならぬのは、上海文化界救國會の提出せる救亡主張が、廣汎なるインテリ群と大衆間において廣大な響應を獲得したことだ、最近彼らは更に國難教育方案を提出し、國難教育の對象は、「大衆を教育して聯合せしめ國難を解決し、インテリを教育し民族危機の知識を大衆に傳播せしめる」ことであると認めてゐる。かゝる教育方案を民族危機が極點に達した今日提出することは必要であるのみならず、最も適宜の處置である。一切の學生運動と文化界救國運動とは、もし大衆をして民族解放鬪爭の主力軍たらしめることなくば、結果は失敗を免れぬであらう。

しかし問題はわれらがこの方案を持つてゐるか否かにあるのではなく、われらがこの方案を如何にして實現するかにある。大衆を教育して民族解放の偉大な任務を担負せしめることは、決して容易なことではない。それは、この方案の實行を願ふ人々を聯合せしめて、互に工作を督促し、一的指導を必要とする。故にわれ等は、この點に關し中國文化界に一の要求を提出する——卽ち國難教育社を組織してわれらの國難教育方案を實施し、わが民族解放鬪爭の偉大われらは、われらのかゝる主張に同情する一切の人が、國難教育社に積極的に加入することを希望する。

國難教育社簡章

第一章　總　則

第一條　本社は國難教育社と名を定む

第二條　本社は大衆文化を普及し國難教育を實施し以て中國大衆を啓發し中華民族の自由平等を爭取し中華民國領土と主權の完整を保衛するを以て宗旨とす

第三條　本社は總社を上海に設け全國各地に分社を設立す

第二章　社　員

第四條　凡そ本社の宗旨に同意し國難教育工作のために努力するを願ふ個人或ひは團體は本社々員二人以上の紹介を經て常務委員會の通過を得れば本社々員となるを得

第五條　本社々員は本社一切の決議案を遵守する義務を有す

第六條　凡そ本社々員の言行にして本社宗旨に違反する者は執行委員會の決議を經てその社籍を取消す

第三章　組　織

第七條　本社は全體社員代表大會を最高機關とす、全體社員大會は毎年一回常會を開く

第八條　全體社員代表大會より委員十一人、候補委員三人を選擧して執行委員會を組織す。全體社員大會或ひは代表大會閉會後、本社一切の事宜を執行す、執行委員の任期一年、連選は連任を得、執行委員會は毎月一回常會を開く

第九條　執行委員會より五人を互選し常務委員會を組織し本社の日常事務一切を處理す、委員會は二週刊に一回開會す

第十條　各種會議は必要なる時は均しく臨時會を召開するを得

第十一條　常務委員會は總務、組織、指導、編輯、宣傳の五部を設け各部に主任一人を設く、常務委員會より之を分任す、總務部主任は執行委員會を負責召集するとともに常務委員會にて主席の責を担任す

第十二條　各部の組織および職權

總務部——本社々務の責を總攬し幹事若干人を設け文書、會計、庶務、交際等の事宜を分掌す。組織部——本社組織工作の責を負ふ、幹事若干人を設け調査、統計、登記、徵求、聯絡等の事宜を分掌す。指導部——本社教育工作指導の責を負ふ、幹事若干人を設け鄉村、職工、學校、婦人、兒童等の教育事宜を分掌す。編輯部——本社編輯工作の責を負ふ、幹事若干人を設け編輯、出版、發行等の事宜を分掌す

宣傳部——本社宣傳工作の責を負ふ、幹事若干人を下設し講演、演劇、電影、唱歌等の事宜を分掌す

第十三條　本社は必要ある時は常務委員會決議により特種委員會を設け特種工作を担任するを得

第十四條　本社地方分社の組織は地方の實際情形に鑑にて之を決定す

第四條　經　費

第十五條　凡我本社々員は入社の際社費大洋一角を納入すべし

第十六條　凡我本社員は毎年須く若干の寄附金を担當すべし

第十七條　凡我本社は必要なる時は社員より特別寄附金を徴收するを得るとともに社外に向ひ寄附金を募集するを得

第五章　附　則

第十八條　本簡章は社員大會或ひは代表大會の通過の日より之を施行す

第十九條　本簡章は不充分な點ある時は社員五人以上の提議を經て代表大會の決議により之を修正するを得

（民國二十五年二月二十三日國難教育社成立大會通過）

國難教育社工作大綱

一、本社國難教育方案および實施辦法を確定す

二、分社および社員團を組織す

三、大衆學校、讀書會、時事研究會を開設す

四、新文字補習班を開設す

五、國難教育講習班を開設す

六、軍事、防毒、救護、交通機關運用等の常識技術講習班を主催す

七、國難講演、旅行講演を主催す

八、巡回映畫班、巡廻唱歌團、巡回劇團、移動圖書館、農村移動圖書館を組織す

九、大衆社會小叢書、大衆自然小叢書、大衆劇本、大衆詩歌、大衆小說、大衆歌本、大衆連續畫集等を出版す

十、大衆國難讀本、各級學校國難補充教材を出版す

十一、教育出版物と特約して本社言論を發表す

十二、各地國難教育の施設および敵の文化侵略の實況を調査す

十三、分社および社員團を指導す

十四、進步的出版物の紹介

十五、其他救國團體と聯絡し一致行動をとる

十六、國難教育實施經費を募集す

四、上海婦女界救國會

有名な婦人辯護士史良女史などの指導する上海婦女界救國會は最近餘り活動してゐない。これは同會のメンバーが主として女學生と一部のインテリ婦人、女店員等であり女工階級に深く喰ひ入つてゐないためである。例へば同會の準機關誌たる半月刊「婦女生活」誌の讀者は學生百分の四十五、教師百分の十五、家庭婦人百分の十、失學失業者百分の七であり勤勞婦人(女工、看護婦、銀行員、店員、記者など)は僅かに百分の二十三である。

しかし婦女界救國會の活動は他の中間的婦人團體に比べると極めて活潑である。

× × ×

「婦人の二重の奴隷なり」とは人口に膾炙されたことばであつて、こゝに改めていふまでもなく、婦人が一面では不平等な社會的壓迫を受けるとともに、他面では男子の抑壓を受けてゐることである。

半植民地中國の婦人が受けるこの二重壓迫は、先進文明國家の婦人に比べて更に苛酷である。少くとも五四運動以前の中國婦人の地位は完全な社會的奴隷であつた。階層の如何に拘らず一切の中國婦人が一面からは帝國主義と軍閥の壓迫を受け、何らの社會的權利も持たぬ一個の生物として放置されるとともに他面では男性の封建的抑壓によつて家庭内に束縛され纏足などのように肉體的な壓迫さへ受けてゐた。五四運動はこれを歴史的にみれば、帝國主義の侵略下における中國民衆の最初の反帝反封建的大衆運動であり同時に全國的規模を持つた最初の學生救國運動であるとともに東方における「文藝復興」の新文化運動であつたが、中國婦人の一部インテリゲンチヤはこの運動に積極的に參加し男子と協力して反帝反封建鬪爭を展開するとともに婦人として獨特の立場から最初の婦人解放の烽火をあげた。しかし當時の婦人運動はその先頭に立つたものが勞働婦人又は農村婦人ではなく一部の進歩的インテリであつたために帝國主義と軍閥の抑壓に對する民族解放的鬪爭とはならずして、單に男女平等を要求する女權運動であつた。

一九二五――七年の大革命の端緒となつた五卅運動には日英系工場の婦人勞働者が參加し、帝國主義と反革命の武力壓迫の條件下に或ひは傳單貼り、或ひは罷業勞働者の衣食供給などに從事した。

× × ×

最近中國では、昨年十二月九日の北平學生の排日デモ以來、新しい民族革命運動の波が高まつてゐる。この運動の主體は學生とインテリであり、北平、上海など各地における街道デモ參加者の約半數は婦人であつた。例へば上海では去る三月八日の國際婦人デーに際し婦人だけの街道デモが行はれた。すなはち婦人辯護士史良女史「婦女生活」の編輯兼發行人として有名な沈茲九女史などのイニイシヤチイブによつて昨年末生れた上海婦女界救國會では中華婦女運動同盟會、中華婦女節制會、上海女子青年會、中華婦女社、蜜蜂社、中國婦女會などの婦人團體と一緒になり四川路青年會で「三八婦女節記念大會」を開き婦人運動方

針その他について討論し會が終つてから四川路、南京路を行進し、街上の民衆に宣傳ビラを配布し或ひは救國スローガンを絶叫して多大の感銘を與へた。

當日配布された上海婦女界救國會の檄文は「親愛なる全國の男女同胞たち！偉大なる國際婦人デー三月八日がきたやつてきた」と力強く呼びかけ、國際婦人デーの由來を說明してから「三月八日は國際婦人解放運動の最も記念に値する日である、われ等半植民地の中國婦人が今日熱烈な記念運動を擧行することは更に重大な意義を持つてゐる、中國婦人解放運動の成功は中國民族解放運動の勝利を先決條件としてゐる中國は半封建半植民地的國家であつて全民族がひとしく壓迫されてゐるから民族解放運動が成功しない限り根本的に婦人解放の餘地はない。故にわれ等は全國男女同胞に對して民族解放運動にともに努力しようではないかと呼びかける。われ等は救國會を組織し一切の救國工作を遂行すると同時に自己の解放並びに完全に男子と同樣な社會的地位の獲得に努力する」とて鬪爭の決意と中國婦人運動の特殊な事情と目標を明らかにし、最後につぎのようなスローガンを提出してゐる。

一、全國總動員をもつて敵に抗し失地を取戻さんことを政府に請ふ
二、緊急治安維持法令の撤廢を政府に請ふ
三、逮捕された平津愛國學生の即時釋放を政府に請ふ
四、出版物の發行禁止反對
五、婦人救國運動の自由を保證せよ
六、男女の差別教育反對
七、同一勞働に同一賃銀を支給せよ

右のスローガンの中、緊急治安維持法とは、全國的な抗日救國運動の昂揚が共產主義者の參加と指導によつて强力な反蔣運動に轉化せんとする事態に狼狽した南京政府が、言論、集會、結社の自由に對する人民大衆の要求を無視して公布した取締り法令であつて、この法令によれば軍警は抗日救國のスローガンの下に民衆を煽動する「反動分子」を容赦なく逮捕投獄することができる。南京政府ではこの法令の發布と前後して「大衆生活」「現實」を始め二十餘種の出版物を發禁處分に附するとともに救國會指導者に對して嚴重な監視の眼を光らせるやうになつた。婦女界救國會の機關誌「婦女前導」も發行不能となり、その他「婦女生活」などの進步的婦人雜誌は編輯に留意し煽動的排日記事を載せるべからずといつたやうな注意を受取つた。

しかし人民大衆の救國運動は當局の彈壓にも拘らず愈よ發展し、その成行には日支兩當事者のみならず列强の帝國主義者が周到な關心を寄せ、全世界の勞働階級と弱小民族とが深甚な注意を拂つた、「昨年十二

月九日、英雄的北平學生がトップを切つて救亡運動を起してから、今ではもう五ケ月經つた。この五ケ月間に救國運動は大多數國民大衆の熱烈なる擁護と參加を得て、極めて速やかに擴大し全國的範圍となつたこの發展過程中において漢奸賣國賊の種々な壓迫と彈壓を受けたことは勿論であるが、これらの處置は燎發しつつある噴火口を砂をもつて埋めるのと同樣であつて、救國運動を部分的に或ひは一時的に阻害したのみであつて、燃え上る全國民衆の救亡の火焰を絕對うち消すことができなかつた。

現在では、救國運動は明らかに發展し一層高く新しい段階に到達した。この段階の特徴は、各地方の自然發生的な分散的運動が漸次集中的統一的運動に進み入らうとしてゐることである。即ち各地方の民衆が自發的に發起した各種救國團體が相互間の聯絡を漸次獲得し、全國的規模の統一的指導機關を建立せんとしてゐることである。最近では、十六の重要都市の學生大衆二十餘萬の代表者によつて全國學生救國聯合會準備會が成立した。その他、各種救國會も同樣の活動を開始してゐる。一切の困難を克服し、近く救國運動の全國的統一機關を樹立するであらうことは言を俟たない」

書つて「申報」の「婦女園地」欄の編輯を擔當してゐた著名な婦女論客であり婦女界救國會のリーダの一人杜君慧女史は上海各界救國聯合會の機關紙「救亡情報」に「全國の婦人大衆を速やかに動員せよ」と題して右のように書いてゐる——杭州および武漢の進歩的婦人たちは上海婦女界救國會と密接なる連絡の下に六月中旬、何れも婦女界救國會を組織した。上海の某國系紡績工場の女工たちは女工救國會を組織し全上海數十萬の女工大衆の一致團結を强調せる宣言を發表した。廣西省南寧では五月二十四日、各女學校生徒、女工など數百名の參加の下に南寧婦女界救國會成立大會が擧行され左の活動方針を決議した——一救護隊を組織し前線農務の準備をなす。二、國術訓練を實行し以つて身心を鍛鍊す。三、總司令李宗仁の焦土抗日主張を宣傳し民衆の抗日意識を喚起する。四、成年婦人訓練班を組織し、婦人知識を充實し愛國觀念を養成し救國工作のため共同努力する——等々。

前記杜君慧女史は更に言葉を續けて婦人運動を如何に展開すべきか？指導的意見を述べてゐる。

「この新段階において、各地婦人救國會および其他婦女救國團體の任務は非常に重大である。現在われ等は先づ婦人救國運動の全國的統一機關を建立するとともに全國各界の救國聯合會に參加せねばならぬ。しかし全國婦人の救國運動の現狀を振返つてみるに、質的たると量的たるとに拘らず、非常に脆弱であることを承認せざるを得ない。この原因は主として漢奸賣國賊の救國活動壓迫と婦人の社會活動に對する後進性とであるが進歩的婦人運動者が各地方の婦人救國工作に對して放任的態度をとつてゐることも、一の主要原因である。例へば上海或ひは北平の婦女界救國會の如きは、全部の注意を該地方の活動にのみ拂つて他の都市および農村の婦人救國運動を遂行組織すべき任務を完全に放棄した。故に婦人救國運動は今日

では極めて少數の中心都市の範圍に限られてゐるのみで全國各地に深入することができなかつた。この點において婦人救國運動は學生救國運動の普遍擴大に遠く及ばない。

われ等は勿論否認できない——上海、平津など各地の婦人救國團體の最近數ケ月間における活動は極めて積極的に進行し、非常に敬服すべきであることを。なかんづく上海の婦人たちは勇敢に、かつ自動的に數次にわたり偉大なるデモンストレーションを實行し宣傳及び組織の活動も非常に緊張してゐた。北平の婦人たちは歷次のデモに勇敢に參加し最前線にあつて漢奸の大刀と鬪爭し、特に最近の『三八節』(國際婦人デー)には南京および山東の婦人たちは種々の抑壓を突破し大々的な紀念大會を開いた。これらの活動は偉大な歷史的意義を持つてゐるが、このことのみではなほ不十分である。われ等は上海および平津の婦人團體をして全國的婦人救國運動を遂行すべき任務を負はしめねばならぬ……なほ一層注意すべきことは若干の大都市の婦人救國團體の會員數も極めて限りがあり、最も活潑に活動してゐる上海の婦女界救國會さへその會員數は二千人に滿たぬことだ。その他平津など比較的大きな婦人團體も、その會員數は多くとも數百人にすぎず千人を超えるものは完全にない。この現狀は婦人の動員不十分を表明する……」

なほ沈茲九女史はその主宰する半月刊雜誌「婦女生活」誌上にて半植民地中國婦人と國防について次のやうに書いてゐる。

「敵がわれらに肉搏しつつある重大時期において、甘んじて漢奸になりたくない人はみな救亡の責任を負はねばならぬ。四億民衆の半數を占める婦人は、決して漢奸の理論を聞いてはならぬ。漢奸に强迫されて台所や部屋の隅に身を躲したり、或ひは「家庭に歸れ」を實行して、われらの天賦たる抗日救國を放棄し救國戰線の勢力を弱めてはならぬ。

熱心があつても組織がなければ依然として力を出すことができない。故に全國總動員の未だ實行されざる今日、國防婦人會——或ひは全國婦女救亡聯合會を組織せねばならぬ。日本の國防婦人會の組織が極めて龐大であり會員二百名を擁し、その分會は全國のみならず國外にまで普及してゐることは、われらは自衛的國防婦人會を積極的に組織せねばならぬことを證明するのである。

國防婦人會は勿論、廣汎な各階級の聯合戰線的組織であつて、それは要人の奥さん方の御用機關ではない。しかしわれらは救亡の熱情がありさへすれば要人の奥さん方が參加することを必要とする。

國防婦人會の唯一の目的は抗日反漢奸である。

國防婦人會の工作は平時と戰時の二種に分けることができ、戰時工作はまた前方と後方の二種に分けることができる。

一、平時の工作

A、都市女學生を動かして密輸品檢査團を組織し密輸入を摘發する。

B、女工讀書班、農村婦人識字班を組織し團を救ひ自己を救ふための知識を普及する。

C、國難宣傳團を組織する——街道演說、假裝芝居、婦女子歌詠團などを包括す。演說は平易なること、が必要であり唱歌、芝居を利用して地方婦人の意識を高め隨時彼女らを組織せしめる。

D、救護訓練班を組織する（上海事變當時の救護事業に參加した某醫師の談によると前線にあつて負傷兵を救護する女士は他の如何なる分子よりも勇敢である）この經驗に基づきつとめて女工を訓練し前線における負傷兵救護工作に便ぜしめねばならぬ。

二、戰時の工作

A、後方の工作

イ、兒童訓養團を大規模に組織する。兒童は抗敵陣線における豫備軍であるから訓育と保護を加へねばならぬ、この工作は婦人が担當するのが最も適當である。

ロ、防毒團を組織する。毒ガスについての各種知識を普及せしめ、各種の防毒方法を教授し各種の防毒マスクを準備するとともに簡單な防毒器具を製造し、民間に說明、分給する。

ハ、負傷者救護團を組織する。

ニ、義勇服務團を組織し平時に男子がやつてゐた一切の工作を担當する。

B、前線の工作

イ、婦人義勇軍を組織する。

ロ、士兵慰勞隊を組織し、兵士のために手紙書き、裁縫、洗濯、談話などを行ふ。

慰勞隊は後方にも設置することができる。故事を話すとか、歌をうたふとかの方法によつて負傷兵を鼓舞し、傷が癒つたら前線で工作せしめる。

ハ、交通隊、運輸隊を組織する——自動車運轉手、自轉車隊、無線電隊などを訓練する。

ニ、女間諜隊を訓練す。

ホ、各種の軍事常識を教授する。

かゝる婦人運動の指導者としては上述せる婦護士史良女史、婦女生活誌沈茲九女史、前申報記者杜君慧女史のほか孫文未亡人宋慶齡女史、廖仲凱未亡人何香凝女史、章乃器夫人胡士英などであるが、上海、ソ聯、英米間をたえず往來してゐると傳えられる「國際的赤色マタハリ」アグネス・スメドレー女史も一役買つてゐる模樣である。さて、中國の救國運動は領歷されないのみか愈よ發展し、同時にその全國的統一的指導機關として全國各界救國聯合會も組織された。婦人運動でもこれに立ち遲れないため上海婦女界救

國會を中心勢力として全國婦女界救國聯合會の準備が進められてゐる。

第四章　全國學生救國聯合會

植民地、半植民地の學生が民族解放運動において重大役割を演ずることは歴史的事實であり世界の通例である。半植民地中國の抗日學生の全國的統一戰線たるべき任務の下に結成された全國學生救國聯合會は中國共產黨並びに共產主義青年團の直接指導下にある。

次に同會の準備經過と成立大會の模樣並びに成立大會を通過せる綱領を掲げる。

「全國學生救國聯合會を組織せねばならぬことは、北平學聯がすでに昨年十二月末決議したが、その後天津學聯と上海同學の同意を得たので、天津、北平、上海の三都市において全國學聯の準備工作が正式に進められることになつた。當時北平學聯の代表が南下し、津浦鐵道沿線の學生團體と全國學聯問題について協議聯絡した。しかし當時種々の關係から、本當の準備工作は實際のところ三月中旬から開始されたのである。

籌備會は三月二十九日正式に成立した。當時集まつたものは平津、上海、杭州、濟南、青島、溫州の七地方の代表であつた。參加の返答をしたのがなほ九地方あつたが路程或ひは學業などの關係から籌備會に出席することができなかつた。（その中、綏遠、唐山など若干地方の學生代表は種々の關係から全國學聯成立大會にも出席できなかつた）當時籌備會宣言および「告同學書」が通過し、工作原則を討論し、該會綱領の內容を規定した。然る後、工作の分配をなし實際的な籌備を遂行した。籌備會から成立大會までの期間における主要工作は次の通りである。武漢、福建、安徽、津浦鐵道沿線各地に代表を派遣すると同時に通信方法によつて其他の各地と聯絡した（この方法は極めて困難であつてあまり効果があがらなかつた）海外宣傳を擴大し、半月刊「學生呼聲」を出版した。なほ各界と聯絡して全國各界救國聯合會を促成した。

工作の進行は極めて緩慢であつたと云へやう——籌備會から二ケ月經つてやつと成立大會を擧行することができた。これは一面では客觀條件の困難によるとゝもに一面ではわれ等の主觀的努力が不充分だつたからである。これはわれ等負責準備人が極めて遺憾に思ふことである。

五月下旬になつて各地の代表がぼつ〳〵上海にやつて來た。代表の寄食問題安全問題に關しては何ら具體的な工作ができなかつたが、負責準備人は多くの時間と精神力を費やした。なかんづく經濟的困難のため事務の遂行が一層苦しかつたが同時に綱領草案、成立宣言の發行、會場の發見、各種雜務をやらねばならなかつた。

五月二十六日夜、或る地方において予備會を開いた、廣西、廣東、福建の代表のほか殆ど全部出席した

工作方針について打合せるとゝもに若干人の代表をもつて総書處を組織した」。

中國學生救國聯合會綱領

第一章　われらの認識

第一節　中華民族の空前の危機

中華民族空前の危機は全中國の學生を喚び起した——それは學生たちを教室から街頭に喚び戻した。書物から闘爭に惹き入れた。われらはすでに生死存亡の關頭にあるからだ。全國力量を動員し外敵に抵抗すれば生存があり、敵に征服され漢奸に賣飛ばされゝば滅亡がある。

かゝる危機をつくりだした最大の因素は、何よりも先づ日本帝國主義の氣狂ひじみた侵略である。九一八事變この方、日本はわが東北を侵し、わが熱河を奪びわが上海に進攻し、わが長城を佔領し、わが冀東を分割し、わが冀察並びに綏蒙の自治を策動し、最近では北支において明らさまな武裝佔領を實行し南支侵略福建奪取の陰謀をたくましくしつゝあり、廣田三原則の下に、日本は中國政府に對し僞滿承認を强迫するのみならず、中國の抗日運動を拒絶し、わが國内政に干渉せんとしてゐる。

いま日本は全線的進攻を實行しつゝある。經濟上においては「工業日本、農業中國」のスローガンを提出全中國をして日本の原料供給地と市場に轉化せしめんとしてゐる。更に密輸を奨勵し中國の關税財政を破

壞し、わが民族商工業を破壞せんとする一方、有毒藥物を販賣してわが國人民の生命に危害をさへ加へてゐる。政治上においては、「中日親善」の手段をもつて、中國をして日本の保護國たらしめんとし、文化上においては活動費を增加し、文化的漢奸を買收し、教科書を改正し、わが民族意識を消滅せしめてゐる軍事上においては、北支を佔領、福建南部を奪取せんとするのみならず、わが全國を併呑せんとしてゐる日本帝國主義の强行的進攻は、われら民衆が阻止せずんば、絶對に停止されるものではない。

民族危機をつくり出した第二の原因は漢奸の恥なき裏切りである。漢奸は中國民衆最大の心腹の敵である。かれらは日本の侵略のために道を開き、民衆の一切の抵抗を阻止してゐる。倀儡傳儀、反逆者殷汝耕など實國によつて出世した奸賊は討伐に値することは固よりであるが、なほ多數の「秘密」或ひは「半公開」の漢奸がある。かれらは外敵を引き入れ、民衆の反抗を阻礙し、抗敵意識を麻酔することにおいて極めて重要な役割を演じてゐる。かれらは無能な滿清政府のレコードを破り、この四年間に五分の一の土地、八分の一の人口を失つた。

政府の失策は日本の進攻を容易ならしめ漢奸の裏切りを鼓舞した。政府は對外的には一貫せる退讓政策を持し、對内的には不斷の戰爭を實行してゐる。政府は東北義勇軍の苦鬪を支持することなく、淞滬抗戰と長城五口の戰爭を適切に應援しなかつたのみならず、屢次にわたり喪權辱國の協定と密約を締結し、正

式ではないが廣田三原則を承認した。加之、八、九年にわたる内戰によつて國防力を消耗し、民衆の救亡運動に對しては猛烈なる壓迫を加へてゐる。この一貫せる失策は、相つぐ失地喪權と漢奸の活躍をつくり出した。

なかんづく、日本帝國主義の侵略によつて發生し、かつ强化されつゝある中國々民經濟の崩壞は、民族危機を愈よ深刻ならしめつゝあり、不斷の外患と內戰とは、國內連年の大災荒をつくり出し、百分の八十以上を占むる農民は常に災荒のため苦しんでゐる。農村における封建殘存物の搾取は農民をしてドタン場に追ひつめた。國際資本主義——特に日本帝國主義の進攻は民族工業市場を日毎に縮小せしめつゝあるのみならず、人民購買力が減少を來したのでか弱い民族工業の基礎は今や完全に崩潰するに至つた。勞働者大衆は極度の搾取並びに失業恐慌のため生活の途を失つた。國民經濟が急速に瓦解しつゝあるので、中間階級(なかんづく小市民知識階級)の生活困難は日とゝもに深刻化しつゝあるとゝもに、かれらの不滿も日とゝもに增大してゐる。かゝる苦痛の中に全民族が喘いでゐるのだ。

第二節　中華民國の國際環境

中國は世界の中國である——中華民族の生死存亡は中華民族自身に關係するのみならず、全世界と關係を有する。國際政治の重要諸變化は直接間接中華民族解放運動の前途に影響し、中華民族解放運動の個々の勝利或ひは失敗は直接間接國際狀勢に影響する。

現在中國民族解放と關係ある國際政治情勢はつぎの通りである。第一は日ソの對立である。ソ聯に進攻せんとする日本帝國主義の企圖は、滿洲事變この方、天下周知の事實であり、最近における日本とファシズム・ドイツとの同盟、北滿、內蒙における日本の軍事的準備、止みさうもないソ聯邊境衝突事件は否認を許さぬ明らかな證據である。第二は日英および日米の衝突である。日本帝國主義は中國の獨占を圖り、南アジヤと太平洋に發展せんとするので、必ず英米との調和し難い衝突を惹き起すのだ。米國の政策は多少戰爭に向ひつゝあるが、英國の對日政策は米國に反對せねばならぬので多少保守的である。英國はその利益を侵犯せずとの條件下に日本と合作せんとしたが結果は失敗に終りつゝある。この兩國は自己の利益のためには中國の不徹底な抵抗に或る程度援助を與へんとしてゐる。このことは中國の利用し得る點である。

第三は、日本帝國主義の內部的矛盾である。日本の統治階級と被統治階級の間には深刻な矛盾があり、この矛盾は日本勞働者の罷工運動、インテリゲンチヤの左傾と士兵の反戰鬪爭などに反映してゐる。日本の士兵は上海において十九路軍兵士を擁護せよとの傳單を散佈し滿洲では義勇軍に對して多くの武器彈藥を支給した。これは中國人にとつて忘れることのできぬ英雄的行爲である。朝鮮と台灣の獨立運動も日本帝國主義の內部的矛盾の表現である。殊に朝鮮革命軍と中國義勇軍の聯合戰線は日本帝國主義にとつて最

も怖るべき永遠の敵である。第四は世界の反帝運動と帝國主義反對運動である。世界の一切の植民地、半植民地は何れも中國の戰友であり、最近におけるエチオピヤ、埃及、アラビヤ、印度および南米各國の解放鬪爭は直接間接中國人民に大きな鼓舞を與へるものである。歐米各國人民の反戰反ファッショ統一戰線は、中國民族解放運動に支持を與へる第一支隊である。反戰大會の對支調査團派遣、各國工人學生の反日示威ご各國における「中國の友の會」の活動は、何れも明らかな證據である。現在人民統一戰線が蓬勃として生長を遂げつゝあることは、中國民族解放鬪爭における重要な決定的一因素である。

ソ聯の平和外交、ソ支兩國の地域的接近並びに或る利益上の一致は何れも中華民族の解放過程における特殊の地位を占むるものである。

ソ聯人民と中國人民は相互に聯合の必要を有する。このことは、孫中山先生がすでに見出し、かつ努力したところであり、現在外蒙とソ聯とが保持する友好關係はこれと似たものである。

中華民族の可能なる戰友が多いことはわれらをして敵の强さを忘れしめるものではない。束縛された中華民族は世界最大の候補植民地であり、解放された中華民族は世界最大の帝國主義反對の先鋒である。中華民族が勝利するならば、それは帝國主義と帝國主義戰爭の敗北となり、自由と平和愛好の勝利となるであらう。中國は世界の一環であり、中華民族解放の鬪爭は凡ゆる帝國主義グループに對する世界被壓迫民衆と弱小民族の解放要求の鬪爭である。

第二章　われ等の主張と任務

第一節　われ等の主張

われ等は內外情勢に對する分析と中華民族出路に對する認識とに基づき、直面する危機を解決する基本原則として、つぎの主張を提出する。

一、政府は人民と合作せよ、人民の共通要求を實現せしめ直ちに日本に對して正式に宣戰し武力により失地を收復せよ

二、一切の亡國奴たるを願はぬ人民は階層、黨派、信仰、地域の差異に拘らず、新仇舊怨にこだわらず、抗日救國共同鬪爭のため一致團結せよ、武裝せよ

三、中國人が中國人を殺す一切の內戰を停止し、全國の陸海空軍を動員して銃口を一致外敵にさし向けよ

四、革命外交を實行し一切の辱國喪權的條約および秘密協定を否認し過去の外交經過を公佈せよ

五、一切の傀儡組織と外力の策動下の僞自治運動に反對す

六、漢奸を剷除せよ、賣國悅敵官吏および愛國運動彈壓の地方當局を罷免嚴罰せよ

七、日本帝國主義の在華財產および漢奸財產を沒收して抗日經費に充當せよ

八、救國運動の絕對自由を保證し、一切の「愛國政治犯」を無條件で卽時釋放せよ

九、言論、集會、結社、出版の絕對自由を保證し眞正の民主政治を實現せよ

十、國難教育を實行し抗日救國の目標の下に各級學校の教材を改修せよ

十一、平等に我を遇する世界の民族および國家と聯合せよ、好意的中立を守る國家とは友誼關係を持續せよ

十二、世界の弱小民族および被壓迫民族と聯合し共に解放を謀れ

第二節　われ等の任務

歴史的事實はわれ等に告げる——植民地、半植民地の民族解放運動において學生大衆は頗る重要な位置を占めたことを。かれ等學生大衆は常に民族解放運動の點火者、民族危機の宣傳者、主力大衆の組織者である。われ等は誇大的英雄主義者ではない。しかし民族解放運動におけるわれ等の偉大な役割を過小評價することはできない。歴史はわれ等被壓迫中華民族の學生に困難かつ偉大な任務を課した。嘗つてわれ等は英雄的にこの任務を負つたものであるが、今後とも斷乎この任務を負ふであらう。

何よりも先づわれ等は學生自身の統一戰線を更に擴大强化せねばならぬ。全國學生の統一戰線結成は一の端緒（偉大な達成の端緒）にすぎない。われ等は全國學生が一人の巨人の如く團結し、抗日救國網領を斷乎實行するのみならず、學生自身の切實な要求から出發し救國鬪爭を展開せしめんことを希望する。故にわれ等は全國學生を團結せしめる最も有効な手段は、抗日救國の共同行動および學生一般の政治、經濟、教育、權利を爭取せんとする鬪爭であると思ふ。かゝる抗日救國の總目標を學生の切實な利益の爭取によつて充實せねばならぬ。かくてこそ、われ等は絶對大多數を團結せしむべき目標を貫徹しうるのだ。

つぎに、われ第は全國民衆を喚起し共に鬪爭せねばならぬ。われ等は二十年來の鬪爭經驗によつて、全

國民衆を動員するほか中國を救ふ方法のないことをしみ〴〵體驗した。民衆を喚び醒し、民衆を教育し民衆を組織すべき任務は最も重要である。

第三、われ等は組織の力をもつて全國民衆の團結を促成し、全國の各實力派、各黨派の大團結を促成するを要する。われ等は民族解放戰爭を擴大するためには、必ず全國的抗日救國統一戰線を建立せねばならぬ。全國學生の組織はその中の有力な一支隊とならねばならぬ——學生は各界と聯絡があり、全國統一戰線を共に促成する必要があるからだ。學生と民衆とは各方面と談判し、彼らを共通の救國綱領下に團結せしむべき責任がある。

四、われ等は必ず救國の權利を爭取し、われ等の一切の主張實現の前提とすべきである。われ等が救國工作を實施するに當つての最大困難は、政府が人民に對する充分な祖國保衛の自由を許さぬことである。われ等の一切の活動は常に無情な彈壓を受けてゐる。故にわれ等は全力を擧げてかゝる權利を爭取し、なかんづく「愛國政治犯」を釋放し、民衆を組織するとゝもに武裝せしめねばならぬ。

五、われ等は世界學生の運動と密切な聯絡をとるべきである。われ等は世界學生運動の有力な一支隊となるとゝもに外國學生の有効な實際的支援を受けねばならぬ。

われ等の任務は困難である。われ等の任務は長期に亘る工作と偉大な犧牲を必要とする。しかし全國の

學生は必ずやわれ等の嚴正な主張により英雄的にわれ等の偉大な任務を負担するであらう。

第三章　われ等の工作

われ等はこの偉大な任務を如何にして達成するであらうか？

先づわれ等は認識せねばならぬ……この任務の達成は困難な經常的工作であることを。學生運動は或る時は激化し、或る時は挫折し、丁度敵の進攻のやうに或る時は猛烈であり、或る時はおだやかである。また敵の進攻の如く一刻の停止もなく、われ等の工作は一刻の停滯もない。われ等は何時何處でも工作に努力せねばならぬ。しかして國内外の情勢の發展につれて、われ等の運動は日と、もに進展するであらう。故にわれ等は長期にわたる困難な鬪爭生活を準備せねばならぬ。

つぎに注意すべきは、われ等はすでに「天地を開闢する」工作をやるのではなく、なほ單獨で工作するのでもないことだ。中國の民族解放運動は全世界の解放運動の決定的因果となつた。國内では、われ等はすでに東北その他各地の抗日武裝勢力と各地民衆の救亡團體を有し、國外では各地華僑の救國會を有するのみならず、一切の被壓迫民族および民衆の同情を受けてゐる。故にわれ等の爭鬪は絶對に孤立したものではない。

第三、われ等は知らねばならぬ——われ等のあらゆる工作の内容と形式とは時間と空間の變化につれて

變るものであることを。東北僞組織統治下の學生、北支傀儡組織下の學生および其他統治下の學生はそれ〳〵異つた工作をなすべきである。なほ鬪爭の發展につれてわれ等は隨時新しい工作の形式および内容をとらねばならぬ。

つぎに先づ現在必要とする工作につき系統的に叙述しやう。

一、學生自身の工作

われ等の任務を勝利的に達成するためには、つぎのことをなすべきである——A、われ等の戰線を統一するとゝもに、全中國學生大衆を惹き入れて擴大せねばならぬ。B、われ等自身の組織を嚴密ならしめ、一切の困難な工作によつて全國學生の鬪爭を指導せねばならぬ。C、われ等自身の能力を高めて民族解放鬪爭の必要とする知識および技術を獲得せねばならぬ。故にわれ等はつぎの日常工作を行はねばならぬ。

1、宣傳……綱領に基づき全國各地學生に對して宣傳し、われ等の組織に早く參加することを促す

2、組織……

A、未組織の各地學生の救國聯合會組織を促成する

B、學生の異動に適應した各種の團體を組織し學生の認識を高め、學生の聯繫を促成する

C、救亡先鋒隊を組織して一般學生の模範となすとともに一般學生を動かしてこれを組織する幹部たらしめる

D、學生義勇軍救護隊を組織する

3、教育（省略、國防教育方案を參考とす）

4、「行動」……必要なる時は各種の團體行動（罷課、示威遊行その他）を發動し抗爭の武器とする

二、外部に對する工作

1、宣傳……
A、各種の圖畫宣傳をなす
B、われ等の綱領に基づき各種の手段（講演、談話、傳單、壁新聞、出版物、芝居等、）各種の方式（長期の友誼關係、旅行宣傳隊等）によつて各階級民衆（工人、農民、店員、學徒、士兵、官吏、軍政機關など）に對しその生活情況に適した各種の宣傳工作をなす。
2、教育……
A、各種の識字班、民衆夜學讀書會などを創立する。各階層民衆の特殊生活條件に適合した方式および内容によつて民族解放鬪爭理論、知識、および技術を講授する。新文字を採用して手段とする
3、組織……
A、各階層民衆の各種救國會、救亡先鋒隊、義勇軍などの組織に援助する
B、全國各界抗日統一戰線を促成する
C、世界各地の學生聯合會と密接な聯絡をとる
4、行動……
A、適當な場合は民衆に働きかけて各種の團體行動を組織する
B、抗日戰爭が成熟すれば學生は可能なる限り軍事行動に參加する
5、調査……
A、内外の敵の勢力調査
B、戰時經濟資源の調査
C、國内抗日勢力および民衆自衛力調査

第四章　われらの組織

第一節　組織の原則

A、われ等の組織は合法的である……
凡そわれ等の綱領に賛成し、抗日救國工作に忠實に參加する學生團體はわれ等は彼らがみな加入することを歡迎する。われ等の綱領は嚴正であるから、凡そ亡國奴となるを願はぬ學生はみな加入することができる
B、われ等の組織は統一的である……
われ等は統一ある綱領の下に統一ある行動をとらねばならぬ。われ等の綱領は全國代表大會の産物であるから、各單位團體は絶對に遵守の義務がある。われ等の綱領は鬪爭發展の必要に應じて代表大會により改修することができるが、各期間におけるわれ等の綱領は統一的である。われ等は各單位團體の行動を嚴重監督せねばならぬ
C、われ等の組織は民主的である……
われらの基礎は組織に參加せる全學生である。各單位團體は完全な民主的方法によつて彼らの代表を選擧すべきである、各代表は基本單位たる全體同學に對して責任を負ひ、各單位學生はその代表に對する監督撤退の義務と權利を有する

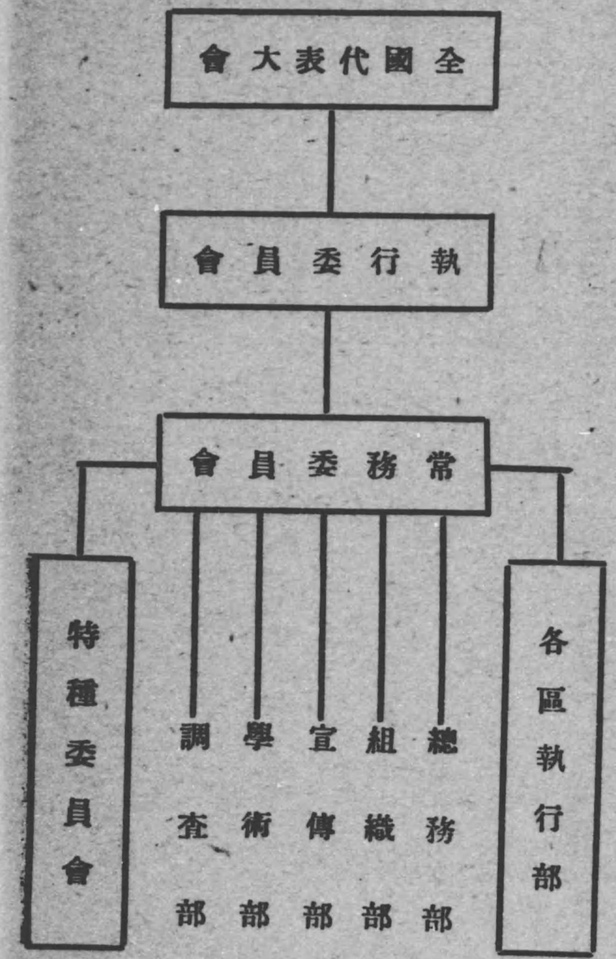
第二節　組織の單位

A、われ等の組織は當分省縣或ひは市の學生聯合會、或ひは學生救國聯合會を基本單位とす

B、某省縣或ひは市に學生聯合會の組織がなければ個々の學生救國團體でもわれ等の網領に同意、遵守すれば參加することができ、基本單位としての一切の權利を享受することを得、縣或ひは一市に一個以上のかゝる團體があればこれらは先づ聯合して一個の單位を構成し參加するを得、同時にわれ等は各當該地における學生聯合會の成立をもつて最後の目標となさねばならぬ

C、國外學生の組織單位は彼らの居留地の名稱に按じて決定す

第三節　組織の系統



中國學生救國聯合會簡章

第一章　總　則

第一條　名稱……本會は中國學生救國聯合會と名を定む

第二條　宗旨……本會は全國學生を團結せしめ抗日救國の全國統一戰線を促成し民族解放を爭取するを以て宗旨とす

第三條　會所在地（省略）

第二章　會　員

第一節　資　格

第四條　凡そ全國各省縣市の學生救國會或ひは學生救國聯合會は均しく本會々員となるを得

第五條　某縣市における未成立の學生救國會或ひは學生救國聯合會の如き一切の學生救國團體にして本會網領に同意する者は均しく本會々員となるを得、但し一縣或ひ一市に二個以上の同性質の團體があれば須く一單位に組成して本會に參加すべし

第六條　國外における中國學生の救國團體は本會々員となるを得

第二節　權　利

第七條　凡そ本會々員は均しく本會の選擧、罷免、創制、複決の權及び其他一切の享くべき權利を享有するを得

第三節　義務

第八條　凡そ本會々員は均しく本會簡章及び綱領を遵守する義務を有す

第九條　凡そ本會々員は均しく本會決議事項を執行する義務を有す

第十條　凡そ本會々員は均しく規定に從ひ本會々費を納入する義務を有す

第三章　組織

第一節　全國代表大會

第十一條　全國代表大會は本會各單位會員の代表を以て之を組織す、省學生救國聯合會は代表五人、市は三人、縣は二人、其他學生救國團體は一人を派すを得、國外における中國學生救國團體の代表人數は臨時之を規定す

第十二條　全國代表大會は本會の最高權力機關とす、大會閉會後は執行委員會とす

第十三條　全國代表大會は毎年一回開會し特別の事故に遇へば執行委員會の決議或ひは全體會員三分二以上の書面請求を經て之を召開するを得

第二節　執行委員會

第十四條　執行委員會は全國代表大會の選擧する執行委員十一單位候補執行委員三單位により之を組織す

第十五條　執行委員會は全國代表大會閉會後における本會の最高權力機關とす

第十六條　執行委員會は毎學期一回開會し特別の事故に遇へば常務委員會より臨時之を召開するを得。

第三節　常務委員會

第十七條　常務委員會は執行委員會の選擧する五單位により之を組織す、總務、宣傳、組織、學術、調査の五部を內設す

第十八條　常務委員會は本會最高執行機關とす、代表大會及び執行委員會の決議を執行すると共に本會一切の對內對外日常事務を處理し必要なる時は緊急處置を實行する權を有す

第十九條　常務委員會は毎月少くとも一回開會す

第二十條　特種委員會は常務委員會より之を產生す、特種工作を担任し任務完了後は閉會す、その組織法職掌及び會期は臨時規定す

第五節　區執行部

第二十一條　本會は工作進展を順調ならしむるため華中、華南、華西、華東、華北、東北、國外に區執行

部を設く、區執行部は常務委員會に對して責任を負ひ各區執行部の組織法規は自ら決定す、但し常務委員會の許可を得ること

第四章　任　期

第二十二條　本會執行委員會及び常務委員會負責單位の任期は均しく一年とす

第五章　經　費

第二十三條　會費、省學生救國聯合會は每年會費五十元、市は三十元、縣は十五元、其他學生救國團體五元とす

第二十四條　寄附金、常務委員會より必要なる時之を募集す

第六章　附　則

第二十五條　選擧された單位會員の本會執行委員會或ひは常務委員會に出席する代表人數はその代表大會出席人數と同じ

第二十六條　本章程の未だ事宜を盡さざることあれば執行委員會の決議或ひは會員三分の一以上の書面請求を經て代表大會に交附し之を改修するを得

第二十七條　本章程は通過の日より施行す

中國學生救國聯合會の暑期工作大綱

一、現在の基本的要求

A、一切の內戰を停止し對日作戰を擁護せよ

A、南京と西南の戰爭に反對し南京の全國抗戰指導、少くとも西南北上抗戰の許可を要求する。その理由は——一、現在は即時抗戰を必要とし、南京が指導しさへすれば所謂局部的抗戰ではなくなるからだ。二、局部的抗戰と南京の抗日準備とは何ら關係がない。過去における馬占山、蔡廷楷、馮玉祥など各先生の抗日戰爭はこのことの明證だ。三、南京が援助を與へぬのみならず、抗日戰爭を破壞せしめさへすることは、全國的內戰を以て局部的抗戰に替へるものであつて、これこそ本當に南京の準備工作を毀滅するものである。四、過去の事實の證明によれば屈服條件の條件下においては、いかなる準備も不可能である。

B、西南の北上抗日を擁護し西南民衆運動と對日外交に援助する。西南に對し民主自由の實行と統一戰線確立を要求する。

C、廿九軍將士の抗戰準備を擁護し、宋哲元に對し斷乎たる抗戰並びに學生運動干涉停止を要求する。

D、馬相伯、章乃器、馮玉祥、李宗仁、陳銘樞、張學良等の共產黨討伐を停止せよとの主張を擁護する。東北軍の自發的制共停止の行動を擁護する。共產黨の停戰講和と一致抗日の要求に贊助する。

B、日本の北支增兵と北支開發に反對す、日本の滄石鐵道建設に反對する。防共協定反對、武裝民衆による密輸取締りの實行、國貨提唱、密輸品抵制

C、國民大會組織法と組織法に反對す、憲法草案反對、民主的抗日救國大會と憲法を要求する——國民大會の目的は「人民政治」にあるが實際はなほ獨裁にある——その理由一、國民大會の代表だ。人民は

普通選舉ができず、三民主義服從を宣誓する公民のみ投票することができる。二、人民は直接選舉ができず、官方或ひは半官方團體より提出し政府が決定せる人名に對する制限的投票のみができる三、國民黨中央全部は國民大會に出席し當然代表となる。四、國民黨以外の民衆黨派は國民大會が開かれるまで完全に活動の自由に對する保障を持たない。五、憲法草案の規定する大總統は獨裁の權利を有する。六、國民大會と憲法草案は人民が切實に必要とする抗日救國的內容を持たない。

D、救國運動に對する壓迫反對、全國學生救國聯合會と全國各界救國聯合會を擁護せよ、反日反漢奸的各階級各黨派の統一戰線を擁護せよ。

二、各地學生聯合會或ひは學生會の宣傳と組織工作

A、自分たちの組織並びに全國學聯を合法的に充實する

A、宣傳上においては合法性を保持しかつ爭取する。宣言通電を合法的に發表するとゝもに、それらが新聞雜誌に發表せられるやう努力する。新聞界、教育界當局および其他民衆をつねに招待し、工作の報告、意見の徵求、講演遊擊、募捐、出版および各種社會活動の公開的準備を行ふ。各種新聞雜誌、壁新聞の投稿欄或ひは各團體、各種集會において學生會、學聯、全國學聯に關する問題の討論を提議する。

B、暑期における留校並びに歸省旅行を利用する。新學生入學および各種休暇中の對校活動をとらへて全國學聯組織を擴大する。學聯或ひは學生會の成績および意義を宣傳し、新しい學聯或ひは學生會の基礎を建立する。正式或ひは非公式の代表を派遣し全國學聯に未だ參加せぬ各地各校團體と合作辦法を協議する。

C、暑中休暇を利用し、半年來の工作成績を書面によつて淸算し、次學期の工作計劃を決定する。會員意見の徵求、幹部および通信員徵求の工作を擧行し、全國的通信網配布網を建立する。會員、會員家族、教職員、國內外各界民衆に對する大規模の募捐運動を擧行し經費困難を解決する

B、留校或ひは離校の學生を指導し暑期工作を實行する

A、留校學生たると離校學生たるとに拘らず、みな先づ第一に調査せねばならぬ——一、或る一地方の留校或ひは歸省學生人數の多少、活動能力、活動條件の如何、二、彼我の間に於ける連絡の可能の有無、いかにして連絡を紹介するか、三、或る地方と地方の間、特に學生運動中心地との連絡の可能の有無、直接の連絡が不可能ならば、いかにして通信と配布の關係を建立し、いかにして經常的な工作の相互報告、消息および宣傳品の交換を保障するか

B、暑期留校運動を努力宣傳し暑中休暇留校學生會の組織は暑期にはつぎの工作を中心とする。一、自分たちの基礎を檢討し、下學期工作の變化を計畫する。二、全般的指導の下に暑期讀書會、暑期補充班、劇團、唱歌會、體育會、旅行團乃至は食事、宿泊、會費徵收、事業などの問題の解決を目的とする團體を組織する。團體生活の外にある留校學生は一人もないやうにする。三、未組織或ひは組織不健全な學校或ひは學生團體に對して突擊を實行し對校講演會、運動遊藝會の組織、訪問交換、寄宿舍參觀をなし救亡陣線を擴大する。四、學校當局、教職員、校工、校警、教育行政當局および學生父兄を招待し過去の工作の報告並びに批評をなし、現在の工作に對するかれらの參加、指導、援助を請ひ將來の工作を一緒に討論する。五、民衆學校の建立、國難教育の實行、擴大宣傳團、公開演說會、巡廻遊擊會の組織、街道壁新聞の貼布を行ひ學生と校外民衆間に密接な連繫あらしめる。

C、卒業、進級、轉校に對しては彼らの行先に特に注意せねばならぬ。かれらが救亡運動の落伍せる地方或ひは最も實行と連絡を必要とする地方に赴くやうできるだけ計畫的に分配せねばならぬ。同時に以後の連絡方法を効果的に決定せねばならぬ。試驗或ひは集中軍訓を受けるに對しては慰勞、援助、或ひは歡迎の運動を組織せねばなら

ね。新入學生に對しては歡迎、招待、指導の運動を組織する

D、歸省學生は母校學生と經常的連絡を保つための方法を講じ、某校學生會長中休暇宣傳團或ひは學聯代表等の名義を得るやうにする。故郷の具體的情形に根據し壁誌、宣言、歌曲、情報等多くの文書或ひは口頭に上る宣傳材料を準備する。當該地の學生、學校、民衆團體と切實に合作し一般的宣傳教育工作を實行し當該地の學生會、學聯或は民衆救國會を組織し民衆學校、書店、新聞社を開設する、救亡幹部人材の培養には特に注意せねばならぬ。

C、民衆救亡運動に參加發展せしめる

A、最大の努力をもつて各界救國聯合會の組織を呼びかけ或ひは參加する。合法的大衆的工會、商會などの組織の加入を爭取する。或ひはかゝる組織によりすでに或種の聯合會が成立せる場合は學聯の參加を爭取する。既存の聯合會が狹隘な團體になつた場合は改組運動を領導する

B、各界聯合會成立の可能性があると否とに拘らず、一切のすでに存在し或ひは起し得る民衆運動、なかんづく國貨運動內戰停止運動、國民大會法案改修運動などを號召するとともに參加する。その他新生活運動、識字運動、拒毒運動等にも計畫的に參加せねばならぬ

C、一切の社會活動をなし得る團體とできるだけ合作せねばならぬ。例へば民衆教育館は青年會の工作と合作し、研究會は文化、學術出版團體と合作せねばならぬ

D、或る種の民衆團體は必ず學生の援助乃至指導の下にその組織を固めねばならぬ。學生はいろんな方法により援助すべきである。例へば女學生は婦女救國會看護隊を設起し、民衆學生の教員は校友救國會、兒童救國會、唱歌會等を指導すべきである

E、軍警に對しては特別な努力をもつて近づくべきである。過去の誤解は取り除かねばならぬ。できるだけ同情援助をなし軍警と學生を一條の戰線上に立たしめねばならぬ。地方民團、商團その他の武裝組織に對しても同じく注意せねばならぬ。彼等に對する宣傳には內戰停止と義勇軍の問題が特に必要である

なほコミンテルンの操縱下に世界反戰會議の後身國際和平會議が開かれることゝなり、その代表として米國の前駐佛大使の子息ダツドが八月中旬來滬し、上海における人民戰線運動首腦部と話し合つた結果、國難教育社代表陶行知、半月刊「現世界」主筆錢俊瑞兩氏が出席することになつたが、この和平會議と平行して國際共產青年同盟の操縱の下に全世界青年大會が來る八月三十一日よりゼネバにて開かれることになつた。表面この大會は「世界學生保障和平自由文化聯合會」によつてイニイシヤチイブをとられてゐる「世界學生保障和平自由文化聯合會」は巴里の左翼學生を中心とする赤色國際組織であつて、平津學生抗日團體を始め中國學生救國聯合會と數回にわたり文書を交換し中國の學生抗日運動に對し露骨な同情を表示してゐる。この全世界青年大會にもダツドの斡旋にて中國より學生代表が出席することゝなり中國學生救國聯合會の常務委員某が八月末赴歐の途についた。